

添 付 書 類 六

変更に係る発電用原子炉施設の場所に関する気象、地盤、
水理、地震、社会環境等の状況に関する説明書

目 次

1. 敷 地	6 - 1 - 1
1.1 敷地の概況	6 - 1 - 1
1.2 その他の概況	6 - 1 - 2
2. 気 象	6 - 2 - 1
2.1 伊方地方の気象	6 - 2 - 1
2.1.1 地勢と気象	6 - 2 - 1
2.1.2 四季の気候	6 - 2 - 1
2.2 最寄りの気象官署等の資料による一般気象	6 - 2 - 3
2.2.1 気象官署所在地の状況	6 - 2 - 3
2.2.2 松山、宇和島各気象官署を選んだ理由	6 - 2 - 3
2.2.3 最寄りの気象官署における一般気象	6 - 2 - 3
2.2.4 その他の資料による一般気象	6 - 2 - 4
2.3 敷地における気象観測	6 - 2 - 5
2.3.1 気象観測点の状況	6 - 2 - 5
2.3.2 気象観測項目	6 - 2 - 6
2.3.3 気象測器	6 - 2 - 6
2.4 敷地における気象観測結果	6 - 2 - 7

2.4.1	敷地を代表する風	6-2-7
2.4.2	大気安定度	6-2-8
2.4.3	観測結果からみた敷地の気象特性	6-2-9
2.5	安全解析に使用する気象条件	6-2-10
2.5.1	観測期間の気象条件の代表性の検討	6-2-10
2.5.2	大気拡散の計算に使用する放出源の有効高さ	6-2-10
2.5.3	大気拡散の計算に使用する気象条件	6-2-12
2.6	敷地における特別観測	6-2-18
2.6.1	上層風	6-2-18
2.6.2	気温差	6-2-18
2.7	参考文献	6-2-76
3.	地 盤	6-3-1
3.1	調査・検討経緯	6-3-1
3.1.1	敷地周辺の調査・検討	6-3-1
3.1.2	敷地近傍の調査・検討	6-3-1
3.1.3	敷地の調査・検討	6-3-2
3.1.4	原子炉設置位置付近の調査・検討	6-3-2
3.2	敷地周辺の地質・地質構造	6-3-2
3.2.1	調査・検討内容	6-3-2
3.2.2	陸域の調査・検討結果	6-3-7
3.2.3	海域の調査・検討結果	6-3-31
3.2.4	四国北西部の中央構造線断層帯の総合評価	6-3-43
3.3	敷地近傍の地質・地質構造	6-3-68
3.3.1	調査・検討内容	6-3-68

3.3.2	調査・検討結果	6-3-69
3.4	敷地の地質・地質構造	6-3-75
3.4.1	調査・検討内容	6-3-75
3.4.2	調査・検討結果	6-3-77
3.5	原子炉施設（特定重大事故等対処施設及び使用済燃料乾式貯蔵施設を除く）設置位置付近の地質・地質構造及び地盤	6-3-86
3.5.1	調査・検討内容	6-3-87
3.5.2	調査・検討結果	6-3-96
3.6	原子炉施設（特定重大事故等対処施設及び使用済燃料乾式貯蔵施設を除く）設置位置付近の地質・地質構造及び地盤の調査結果の評価	6-3-115
3.6.1	基礎地盤の安定性評価	6-3-115
3.6.2	周辺斜面の安定性評価	6-3-122
3.7	特定重大事故等対処施設設置位置付近の地質・地質構造及び地盤	6-3-127
3.7.1	調査・検討内容	6-3-127
3.7.2	調査・検討結果	6-3-129
3.8	特定重大事故等対処施設設置位置付近の地質・地質構造及び地盤の調査結果の評価	6-3-131
3.8.1	基礎地盤の安定性評価	6-3-131
3.8.2	周辺斜面の安定性評価	6-3-136
3.9	使用済燃料乾式貯蔵施設設置位置付近の地質・地質構造及び地盤	6-3-140
3.9.1	調査・検討内容	6-3-140

3.9.2	調査・検討結果	6-3-141
3.10	使用済燃料乾式貯蔵施設設置位置付近の地質・地質構造 及び地盤の調査結果の評価	6-3-142
3.10.1	基礎地盤の安定性評価	6-3-142
3.10.2	周辺斜面の安定性評価	6-3-147
3.11	地質調査に関する信頼性	6-3-150
3.11.1	調査手法に関する信頼性	6-3-150
3.11.2	調査結果に関する信頼性	6-3-151
3.12	参考文献	6-3-578
4.	水 理	6-4-1
4.1	陸 水	6-4-1
4.2	海 象	6-4-2
4.2.1	潮位及び流況	6-4-2
4.2.2	波 高	6-4-3
4.2.3	海水温度	6-4-4
4.3	利水計画	6-4-5
4.3.1	淡 水	6-4-5
4.3.2	復水器冷却水及び補機冷却海水	6-4-5
5.	地 震	6-5-1
5.1	検討方針	6-5-1
5.2	敷地周辺の地震発生状況	6-5-1
5.2.1	被害地震	6-5-2
5.2.2	敷地周辺の地震活動	6-5-3

5.2.3	活断層の分布状況	6-5-7
5.2.4	その他の知見	6-5-9
5.3	地震の分類	6-5-13
5.3.1	歴史地震	6-5-13
5.3.2	内陸地殻内地震	6-5-16
5.3.3	海洋プレート内地震	6-5-18
5.3.4	プレート間地震	6-5-19
5.4	敷地地盤の振動特性	6-5-20
5.4.1	敷地内の地盤構造	6-5-20
5.4.2	地震観測	6-5-21
5.4.3	解放基盤表面の設定	6-5-23
5.4.4	地下構造モデル	6-5-23
5.5	基準地震動Ss	6-5-24
5.5.1	敷地ごとに震源を特定して策定する地震動	6-5-24
5.5.2	震源を特定せず策定する地震動	6-5-43
5.5.3	基準地震動Ssの策定	6-5-46
5.5.4	設計用模擬地震波	6-5-49
5.5.5	基準地震動Ssの超過確率の参照	6-5-50
5.5.6	地震調査委員会(2017)を踏まえた地震動評価への 影響	6-5-51
5.5.7	地震調査委員会(2022)を踏まえた地震動評価への 影響	6-5-56
5.6	参考文献	6-5-274
6.	社会環境	6-6-1

6.1	人口分布	6-6-1
6.2	付近の集落及び公共施設	6-6-2
6.3	産業活動	6-6-3
6.4	交通運輸	6-6-5
6.5	開発計画	6-6-7
6.6	参考文献	6-6-28
7.	津波	6-7-1
7.1	概要	6-7-1
7.2	既往津波に関する調査	6-7-1
7.2.1	既往津波の文献調査	6-7-1
7.2.2	津波堆積物に関する文献調査	6-7-3
7.3	津波伝播計算手法及び計算条件	6-7-6
7.4	地震に起因する津波	6-7-7
7.4.1	プレート境界付近に想定される地震に伴う津波	6-7-7
7.4.2	海域の活断層に想定される地震に伴う津波	6-7-12
7.5	地震以外に起因する津波	6-7-16
7.5.1	火山の山体崩壊に伴う津波	6-7-16
7.5.2	地すべりに伴う津波	6-7-19
7.6	重畳の検討	6-7-23
7.6.1	組み合わせの検討	6-7-23
7.6.2	重畳条件の設定	6-7-25
7.6.3	津波シミュレーション	6-7-25
7.7	基準津波の策定	6-7-25
7.7.1	基準津波の策定	6-7-25

7.7.2	地震調査委員会(2022)を踏まえた津波評価への 影響	6-7-25
7.8	基準津波に対する安全性	6-7-29
7.9	超過確率の参照	6-7-30
7.9.1	検討対象波源の設定	6-7-31
7.9.2	ロジックツリーの作成	6-7-31
7.9.3	津波ハザード評価結果	6-7-31
7.10	参考文献	6-7-106
8.	火 山	6-8-1
8.1	検討の基本方針	6-8-1
8.2	調査・検討内容	6-8-1
8.2.1	既往文献調査	6-8-1
8.2.2	地形調査・地質調査	6-8-2
8.2.3	地球物理学的調査	6-8-3
8.3	調査・検討結果	6-8-3
8.3.1	原子力発電所に影響を及ぼし得る火山の抽出	6-8-3
8.3.2	抽出された火山の火山活動に関する個別評価	6-8-4
8.3.3	立地評価	6-8-12
8.3.4	影響評価	6-8-13
8.4	参考文献	6-8-31
9.	竜 巻	6-9-1
9.1	竜巻検討地域の設定	6-9-1
9.2	基準竜巻の最大風速の設定	6-9-2

9.3 設計竜巻の最大風速の設定	6-9-11
9.4 設計竜巻の特性値の設定	6-9-13
9.5 参考文献	6-9-25
10. 生 物	6-10-1
10.1 植 生	6-10-1

表

第2.2.1表	気象官署の所在地及び観測種目	6 - 2 - 19
第2.2.2表	気候表(1)	6 - 2 - 20
第2.2.3表	気候表(2)	6 - 2 - 21
第2.2.4表	松山地方における主な台風	6 - 2 - 22
第2.2.5表	宇和島地方における主な台風	6 - 2 - 23
第2.2.6表	日最高・日最低気温の累年順位(1)	6 - 2 - 24
第2.2.7表	日最高・日最低気温の累年順位(2)	6 - 2 - 25
第2.2.8表	日最小湿度の累年順位(1)	6 - 2 - 26
第2.2.9表	日最小湿度の累年順位(2)	6 - 2 - 27
第2.2.10表	日・1時間最大降水量の累年順位(1)	6 - 2 - 28
第2.2.11表	日・1時間最大降水量の累年順位(2)	6 - 2 - 29
第2.2.12表	日最大瞬間風速の累年順位(1)	6 - 2 - 30
第2.2.13表	日最大瞬間風速の累年順位(2)	6 - 2 - 31
第2.2.14表	月最深積雪の累年順位(1)	6 - 2 - 32
第2.2.15表	月最深積雪の累年順位(2)	6 - 2 - 33
第2.2.16表	気象データ(気温, 風速, 卓越風向, 湿度) (2003~2012年) 及び愛媛県の森林火災発生 状況(1999~2010年)	6 - 2 - 34
第2.3.1表	観測項目一覧表	6 - 2 - 35
第2.4.1表	同一風向の継続時間別出現回数 (標高約20m, 地上高約10m)	6 - 2 - 36
第2.4.2表	同一風向の継続時間別出現回数 (標高約80m, 地上高約70m)	6 - 2 - 37

第2.4.3表	大気安定度の継続時間別出現回数	6-2-38
第2.5.1表	棄却検定表（風向）	6-2-39
第2.5.2表	棄却検定表（風速分布）	6-2-40
第2.5.3表	放出源の有効高さ	6-2-41
第2.5.4表	風向別大気安定度別風速逆数の総和	6-2-42
第2.5.5表	風向別大気安定度別風速逆数の平均及び 風向別風速逆数の平均	6-2-43
第2.5.6表	風向出現頻度及び風速0.5～2.0m/sの 風向出現頻度	6-2-44
第2.5.7表	設計基準事故時の方位別相対濃度（ χ/Q ）， 相対線量（ D/Q ）及び実効放出継続時間	6-2-45
第2.5.8表	重大事故及び仮想事故時の方位別相対濃度 （ χ/Q ），相対線量（ D/Q ）及び実効 放出継続時間	6-2-46
第2.6.1表	気温差の平均値及び標準偏差	6-2-47
第3.2.1表	変位地形・リニアメント判読基準	6-3-152
第3.2.2表	肱川沿いの段丘分類基準	6-3-153
第3.2.3表	使用音波探査機器及び探査数量	6-3-154
第3.2.4表	屈折法地震探査の仕様	6-3-155
第3.2.5表	敷地周辺陸域の地質層序	6-3-156
第3.2.6表	第四系対比表	6-3-157
第3.2.7表	地形調査結果一覧	6-3-158
第3.2.8表	音波探査記録に見られる反射パターンの特徴	6-3-159
第3.2.9表	敷地周辺陸域と海域の地層対比表	6-3-160
第3.2.10表	敷地周辺の中央構造線断層帯一覧	6-3-161

第3.2.11表	重力逆解析の設定密度	6-3-162
第3.3.1表	敷地近傍の地質層序	6-3-163
第3.4.1表	敷地の地質層序	6-3-164
第3.4.2表	敷地内断層の性状一覧	6-3-165
第3.4.3表	敷地内断層の物理試験結果及び針貫入試験 結果一覧	6-3-166
第3.5.1表	断層物性試験項目	6-3-167
第3.5.2表	原子炉建屋基礎ボーリング結果	6-3-168
第3.5.3表	コアの性状による区分基準	6-3-169
第3.5.4表	敷地内断層のX線分析結果	6-3-170
第3.5.5表	CH級岩石試験結果(1)	6-3-171
第3.5.6表	CH級岩石試験結果(2)	6-3-172
第3.5.7表	CH級岩石試験結果(3)	6-3-173
第3.5.8表	CH級岩石試験結果(4)	6-3-174
第3.5.9表	CH級岩石試験結果(5)	6-3-175
第3.5.10表	CM級岩石の物理試験結果	6-3-176
第3.5.11表	CL級岩石の物理試験結果	6-3-177
第3.5.12表	圧裂試験結果	6-3-178
第3.5.13表	三軸圧縮試験結果	6-3-179
第3.5.14表	ボーリング孔内P S 検層結果 (基礎岩盤部)	6-3-180
第3.5.15表	ボーリング孔内P S 検層結果(斜面部)	6-3-181
第3.5.16表	㊦級岩盤平板載荷試験結果	6-3-182
第3.5.17表	㊧級岩盤平板載荷試験結果	6-3-183
第3.5.18表	㊨級岩盤せん断試験結果	6-3-184

第3.5.19表	㊤級岩盤せん断試験結果	6-3-185
第3.5.20表	透水試験結果	6-3-186
第3.5.21表	固結・未固結粘土部の物理試験結果	6-3-187
第3.5.22表	F a - 2 断層原位置せん断試験結果	6-3-188
第3.5.23表	表土の物理試験結果	6-3-189
第3.6.1表	解析用物性値設定の考え方	6-3-190
第3.6.2表	解析用物性値	6-3-191
第3.6.3表	簡便法による絞り込みの結果（基礎地盤）	6-3-192
第3.6.4(1)表	すべり安全率一覧表 (X - X' 断面, 基礎地盤)	6-3-193
第3.6.4(2)表	すべり安全率一覧表 (A - A' 断面, 基礎地盤)	6-3-194
第3.6.4(3)表	すべり安全率一覧表 (D - D' 断面, 基礎地盤)	6-3-195
第3.6.5表	支持力に対する解析結果	6-3-196
第3.6.6表	鉛直方向の最大相対変位・傾斜	6-3-197
第3.6.7表	簡便法による絞り込みの結果（周辺斜面）	6-3-198
第3.6.8(1)表	すべり安全率一覧表 (X - X' 断面, 周辺斜面)	6-3-199
第3.6.8(2)表	すべり安全率一覧表 (C - C' 断面, 周辺斜面)	6-3-200
第3.8.1表	すべり安全率一覧 (断面, 基礎地盤 ()	6-3-201
第3.8.2表	セメント改良土の物性値	6-3-202
第3.8.3表	解析用物性値	6-3-203

第3.8.4(1)表	すべり安全率一覧 (F-F' 断面, 基礎地盤) …	6-3-204
第3.8.4(2)表	すべり安全率一覧 (G-G' 断面, 基礎地盤) …	6-3-205
第3.8.5表	支持力に対する解析結果 ……………	6-3-206
第3.8.6表	鉛直方向の最大相対変位・傾斜 ……………	6-3-207
第3.8.7表	すべり安全率一覧 (F-F' 断面, 周辺斜面) …	6-3-208
第3.10.1表	解析用物性値 ……………	6-3-209
第3.10.2(1)表	すべり安全率一覧 (N-N' 断面, 基礎地盤) ……………	6-3-210
第3.10.2(2)表	すべり安全率一覧 (O-O' 断面, 基礎地盤) ……………	6-3-211
第3.10.2(3)表	すべり安全率一覧 (P-P' 断面, 基礎地盤) ……………	6-3-212
第3.10.3表	支持力に対する解析結果……………	6-3-213
第3.10.4表	鉛直方向の最大相対変位・傾斜……………	6-3-214
第3.10.5(1)表	すべり安全率一覧 (O-O' 断面, 周辺斜面) ……………	6-3-215
第3.10.5(2)表	すべり安全率一覧 (P-P' 断面, 周辺斜面) ……………	6-3-216
第4.2.1表	海水温度 ……………	6-4-7
第5.2.1表	敷地周辺における被害地震の諸元 ……………	6-5-59
第5.3.1表	地震カタログによる地震の諸元の比較 ……………	6-5-63
第5.3.2表	考慮すべき敷地周辺の活断層 ……………	6-5-64
第5.3.3表	考慮すべき海洋プレート内地震 ……………	6-5-65
第5.3.4表	考慮すべき南海トラフ沿いのプレート間地震 ……	6-5-66
第5.3.5表	考慮すべき日向灘のプレート間地震 ……………	6-5-67

第5.4.1表	主な観測地震の諸元	6-5-68
第5.4.2表	増幅特性の検討に用いた地震	6-5-71
第5.4.3表	到来方向による増幅特性の検討に用いた地震	6-5-72
第5.4.4表	地下構造モデル	6-5-73
第5.5.1表	検討用地震の選定結果	6-5-74
第5.5.2表	地震動評価における不確かさ考慮の考え方 (内陸地殻内地震)	6-5-75
第5.5.3(1)表	地震動評価の検討ケース一覧(内陸地殻内地震, 断層 長さ約480km, 壇ほか(2011))	6-5-76
第5.5.3(2)表	地震動評価の検討ケース一覧(内陸地殻内地震, 断層 長さ約480km, Fujii&Matsu'ura(2000))	6-5-77
第5.5.3(3)表	地震動評価の検討ケース一覧(内陸地殻内地震, 断層 長さ約130km, 壇ほか(2011))	6-5-78
第5.5.3(4)表	地震動評価の検討ケース一覧(内陸地殻内地震, 断層 長さ約130km, Fujii&Matsu'ura(2000))	6-5-79
第5.5.3(5)表	地震動評価の検討ケース一覧(内陸地殻内地震, 断層長さ約54km, 壇ほか(2011))	6-5-80
第5.5.3(6)表	地震動評価の検討ケース一覧(内陸地殻内地震, 断層長さ約54km, 入倉・三宅(2001))	6-5-81
第5.5.4(1)表	内陸地殻内地震(断層長さ約480km, 壇ほか(2011))の断層パラメータ (基本震源モデル, 不確かさ考慮⑤)	6-5-82
第5.5.4(2)表	内陸地殻内地震(断層長さ約480km, 壇ほか(2011))の断層パラメータ (不確かさ考慮①)	6-5-83

第5.5.4(3)表	内陸地殻内地震（断層長さ約480km, 壇ほか(2011)）の断層パラメータ (不確かさ考慮②)	6-5-84
第5.5.4(4)表	内陸地殻内地震（断層長さ約480km, 壇ほか(2011)）の断層パラメータ (不確かさ考慮③)	6-5-85
第5.5.4(5)表	内陸地殻内地震（断層長さ約480km, 壇ほか(2011)）の断層パラメータ (不確かさ考慮④)	6-5-86
第5.5.4(6)表	内陸地殻内地震（断層長さ約480km, Fujii& Matsu'ura(2000)）の断層パラメータ (基本震源モデル)	6-5-87
第5.5.4(7)表	内陸地殻内地震（断層長さ約480km, Fujii& Matsu'ura(2000)）の断層パラメータ (不確かさ考慮①)	6-5-88
第5.5.4(8)表	内陸地殻内地震（断層長さ約480km, Fujii& Matsu'ura(2000)）の断層パラメータ (不確かさ考慮④)	6-5-89
第5.5.4(9)表	内陸地殻内地震（断層長さ約130km, 壇ほか(2011)）の断層パラメータ (基本震源モデル, 不確かさ考慮⑤)	6-5-90
第5.5.4(10)表	内陸地殻内地震（断層長さ約130km, 壇ほか(2011)）の断層パラメータ (不確かさ考慮①)	6-5-91

第5.5.4(11)表	内陸地殻内地震（断層長さ約130km, 壇ほか(2011)）の断層パラメータ （不確かさ考慮②）	6－5－92
第5.5.4(12)表	内陸地殻内地震（断層長さ約130km, 壇ほか(2011)）の断層パラメータ （不確かさ考慮③）	6－5－93
第5.5.4(13)表	内陸地殻内地震（断層長さ約130km, 壇ほか(2011)）の断層パラメータ （不確かさ考慮④）	6－5－94
第5.5.4(14)表	内陸地殻内地震（断層長さ約130km, Fujii &Matsu'ura(2000)）の断層パラメータ （基本震源モデル）	6－5－95
第5.5.4(15)表	内陸地殻内地震（断層長さ約130km, Fujii &Matsu'ura(2000)）の断層パラメータ （不確かさ考慮①）	6－5－96
第5.5.4(16)表	内陸地殻内地震（断層長さ約130km, Fujii &Matsu'ura(2000)）の断層パラメータ （不確かさ考慮④）	6－5－97
第5.5.4(17)表	内陸地殻内地震（断層長さ約54km, 壇ほ か(2011)）の断層パラメータ（基本震源 モデル, 不確かさ考慮①～⑤）	6－5－98
第5.5.4(18)表	内陸地殻内地震（断層長さ約54km, 入倉 ・三宅(2001)）の断層パラメータ（基本 震源モデル, 不確かさ考慮①～⑤）	6－5－99

第5.5.5表	地震動評価の検討ケース一覧	
	(海洋プレート内地震)	6 - 5 - 100
第5.5.6(1)表	海洋プレート内地震の断層パラメータ	
	(基本震源モデル)	6 - 5 - 101
第5.5.6(2)表	海洋プレート内地震の断層パラメータ	
	(不確かさ考慮①)	6 - 5 - 102
第5.5.6(3)表	海洋プレート内地震の断層パラメータ	
	(不確かさ考慮②)	6 - 5 - 103
第5.5.6(4)表	海洋プレート内地震の断層パラメータ	
	(不確かさ考慮③)	6 - 5 - 104
第5.5.6(5)表	海洋プレート内地震の断層パラメータ	
	(不確かさ考慮④)	6 - 5 - 105
第5.5.7表	地震動評価の検討ケース一覧 (プレート間地震) ...	6 - 5 - 106
第5.5.8表	プレート間地震の断層パラメータ	6 - 5 - 107
第5.5.9表	適用が考えられる主な応答スペクトル手法	6 - 5 - 108
第5.5.10表	地震動評価に用いる応答スペクトル手法の 選定	6 - 5 - 109
第5.5.11表	適用性の検証結果	6 - 5 - 110
第5.5.12表	経験的グリーン関数法と統計的グリーン関数法 の比較	6 - 5 - 111
第5.5.13表	基準地震動 S_s の応答スペクトル値	6 - 5 - 112
第5.5.14表	設計用模擬地震波 (S_s -1H及び S_s -1V並びに S_s -3-3H 及び S_s -3-3V) の振幅包絡線の経時的変化	6 - 5 - 113
第5.5.15表	設計用模擬地震波 (S_s -1H及び S_s -1V並びに S_s -3-3H 及び S_s -3-3V) の作成結果	6 - 5 - 114

第5.5.16表	基準地震動Ssの最大加速度振幅	6-5-115
第5.5.17表(1)	中央構造線第二版を踏まえて設定した断層 パラメータ（壇ほか(2011)による手法）	6-5-116
第5.5.17表(2)	中央構造線第二版を踏まえて設定した断層 パラメータ（Fujii and Matsu'ura(2000)に よる手法）	6-5-117
第6.1.1表	発電所から半径100km以内の人口分布	6-6-8
第6.1.2表	発電所から半径30km以内の方位別人口分布	6-6-9
第6.1.3表	発電所から半径50km以内の市町村(1)	6-6-10
第6.1.4表	発電所から半径50km以内の市町村(2)	6-6-11
第6.2.1表	発電所から半径5km以内の集落の人口及び 距離	6-6-12
第6.2.2表	発電所から半径10km以内の学校、幼稚園名 及び生徒、園児数(1)	6-6-13
第6.2.3表	発電所から半径10km以内の学校、幼稚園名 及び生徒、園児数(2)	6-6-14
第6.2.4表	発電所から半径10km以内の医療機関	6-6-15
第6.3.1表	産業別就業者数	6-6-16
第6.3.2表	主要農作物の作付面積及び収穫量	6-6-17
第6.3.3表	主要家畜・家きん飼養戸数及び飼養頭羽数	6-6-18
第6.3.4表	魚種別漁獲量（属人）(1)	6-6-19
第6.3.5表	魚種別漁獲量（属人）(2)	6-6-20
第7.2.1(1)表	瀬戸内海沿岸に影響を及ぼしたと考えられる 既往津波高①	6-7-32

第7.2.1(2)表	瀬戸内海沿岸に影響を及ぼしたと考えられる 既往津波高②	6-7-33
第7.2.1(3)表	瀬戸内海沿岸に影響を及ぼしたと考えられる 既往津波高③	6-7-34
第7.2.2表	敷地周辺における津波堆積物の報告	6-7-35
第7.3.1表	津波シミュレーションにおける主な計算条件	6-7-36
第7.4.1表	最大水位変動量（プレート境界付近に想定される 地震に伴う津波）	6-7-37
第7.4.2表	概略パラメータスタディにおける断層 パラメータ	6-7-38
第7.4.3表	詳細パラメータスタディにおける断層 パラメータ	6-7-39
第7.4.4(1)表	最大水位変動量（海域の活断層に想定される 地震に伴う津波）	6-7-40
第7.4.4(2)表	最大水位変動量（海域の活断層に想定される 地震に伴う津波）	6-7-41
第7.4.5表	最大水位変動量（断層の不均質な破壊を考慮した 津波）	6-7-42
第7.5.1表	岩屑流計算並びに二層流モデル及びKinematic Landslideモデルにおける主な計算条件	6-7-43
第7.5.2表	最大水位変動量（火山の山体崩壊に伴う津波）	6-7-44
第7.5.3表	最大水位変動量（地すべり津波）	6-7-45
第7.6.1表	重畳津波の検討ケース	6-7-46
第7.6.2表	最大水位変動量（重畳津波）	6-7-47
第7.7.1表	評価地点及び波源別の最大水位変動量	6-7-48

第7.7.2表	評価地点及び波源別の最高・最低水位	6-7-49
第7.7.3表	主な計算条件（管路解析）	6-7-50
第7.7.4表	基準津波の一覧	6-7-51
第7.8.1表	主な計算条件 （砂移動に関する数値シミュレーション）	6-7-52
第8.3.1表	地理的領域内（半径160km内）の第四紀火山 一覧	6-8-20
第8.3.2表	原子力発電所に影響を及ぼし得る火山の抽出	6-8-21
第9.2.1表	日本におけるF3スケールの竜巻一覧 （1961年～2012年6月）	6-9-16
第9.2.2表	竜巻発生数の分析結果	6-9-16
第9.2.3表	竜巻風速，被害幅及び被害長さの相関係数	6-9-17
第9.2.4表	評価対象施設の設置面積	6-9-17
第9.4.1表	設計竜巻の特性値	6-9-17

図

第1.1.1図	発電所敷地概況図	6-1-4
第2.2.1図	気象官署の位置図	6-2-48
第2.3.1図	気象観測設備配置図（その1）	6-2-49
第2.3.2図	気象観測設備配置図（その2）	6-2-50
第2.4.1図	敷地の風配図（2001年1月～12月）	6-2-51
第2.4.2図	敷地の風配図（その1） （2001年1月～3月）	6-2-52
第2.4.3図	敷地の風配図（その2） （2001年4月～6月）	6-2-53
第2.4.4図	敷地の風配図（その3） （2001年7月～9月）	6-2-54
第2.4.5図	敷地の風配図（その4） （2001年10月～12月）	6-2-55
第2.4.6図	低風速（0.5～2.0m/s）時の風配図	6-2-56
第2.4.7図	年間風速出現頻度及び風速別出現頻度累積 （標高約20m，地上高約10m）	6-2-57
第2.4.8図	年間風速出現頻度及び風速別出現頻度累積 （標高約80m，地上高約70m）	6-2-57
第2.4.9図	月別風速別出現頻度（その1） （2001年1月～3月）	6-2-58
第2.4.10図	月別風速別出現頻度（その2） （2001年4月～6月）	6-2-59

第2.4.11図	月別風速別出現頻度（その3） （2001年7月～9月）	6-2-60
第2.4.12図	月別風速別出現頻度（その4） （2001年10月～12月）	6-2-61
第2.4.13図	年間及び月別大気安定度出現頻度	6-2-62
第2.4.14図	年間大気安定度別風配図 （標高約20m，地上約10m）	6-2-63
第2.4.15図	年間大気安定度別風配図 （標高約80m，地上約70m）	6-2-64
第2.5.1図	方位別相対濃度（ χ/Q ）の累積出現頻度 〔原子炉冷却材喪失（事故時）〕	6-2-65
第2.5.2図	方位別相対濃度（ χ/Q ）の累積出現頻度 〔制御棒飛び出し〕	6-2-66
第2.5.3図	方位別相対濃度（ χ/Q ）の累積出現頻度 〔 蒸気発生器伝熱管破損 （事故時並びに重大事故及び仮想事故時） 〕	6-2-67
第2.5.4図	方位別相対濃度（ χ/Q ）の累積出現頻度 〔燃料集合体の落下〕	6-2-68
第2.5.5図	方位別相対濃度（ χ/Q ）の累積出現頻度 〔原子炉冷却材喪失（重大事故時）〕	6-2-69
第2.5.6図	方位別相対濃度（ χ/Q ）の累積出現頻度 〔原子炉冷却材喪失（仮想事故時）〕	6-2-70
第2.5.7図	方位別相対線量（ D/Q ）の累積出現頻度 〔原子炉冷却材喪失（事故時）〕	6-2-71

第2.5.8図	方位別相対線量 (D/Q) の累積出現頻度 放射線性気体廃棄物処理施設の破損 蒸気発生器伝熱管破損 (事故時並びに重大事故及び仮想事故時) } … 6-2-72
第2.5.9図	方位別相対線量 (D/Q) の累積出現頻度 〔燃料集合体の落下〕 …… 6-2-73
第2.5.10図	方位別相対線量 (D/Q) の累積出現頻度 原子炉冷却材喪失(重大事故及び仮想事故時) 制御棒飛び出し } … 6-2-74
第2.6.1図	上層風の風速階級別風配図 (地上高50～100m) …… 6-2-75
第3.2.1図	敷地周辺陸域の地形図 …… 6-3-217
第3.2.2図	敷地周辺陸域の地質図 …… 6-3-218
第3.2.3図	敷地周辺陸域の段丘面分布図 …… 6-3-219
第3.2.4図	肱川沿いの段丘面高度図 …… 6-3-220
第3.2.5図	瀬戸内海沿岸の段丘面高度図 …… 6-3-221
第3.2.6図	敷地周辺陸域の変位地形・リニアメント分布図 … 6-3-222
第3.2.7図	敷地周辺の重力測点位置図 …… 6-3-223
第3.2.8図	敷地周辺のブーゲー異常図 …… 6-3-224
第3.2.9図	敷地周辺の微小地震分布図(深さ30km以浅) …… 6-3-225
第3.2.10図	五反田断層周辺の変位地形・リニアメント 分布図 …… 6-3-226
第3.2.11図	五反田断層周辺の地質図 …… 6-3-227
第3.2.12図	五反田断層周辺の地質断面図 …… 6-3-228
第3.2.13図	五反田断層周辺のルートマップ(Loc. G1) …… 6-3-229

第3.2.14図	五反田断層周辺の詳細スケッチ図 (Loc. G1)	6 - 3 - 230
第3.2.15図	五反田断層西方延長海域の音波探査記録 (YU-1G)	6 - 3 - 231
第3.2.16図	五反田断層西方延長海域の音波探査記録 (YU-2G)	6 - 3 - 232
第3.2.17図	五反田断層西方延長海域の音波探査記録 (YU-3G)	6 - 3 - 233
第3.2.18図	五反田断層西方延長海域の音波探査記録 (YU-4G)	6 - 3 - 234
第3.2.19図	宮内リニアメント周辺の変位地形・リニアメント 分布図	6 - 3 - 235
第3.2.20図	宮内リニアメント周辺の地質図・地質断面図	6 - 3 - 236
第3.2.21図	宮内リニアメント周辺のルートマップ (Loc. M1)	6 - 3 - 237
第3.2.22図	八幡浜リニアメント周辺の変位地形・リニアメント 分布図	6 - 3 - 238
第3.2.23図	八幡浜リニアメント周辺の地質図	6 - 3 - 239
第3.2.24図	八幡浜リニアメント周辺の地質断面図	6 - 3 - 240
第3.2.25図	八幡浜リニアメント周辺のルートマップ (Loc. Y1, Y2)	6 - 3 - 241
第3.2.26図	八幡浜リニアメント周辺の露頭状況図 (Loc. Y1)	6 - 3 - 242
第3.2.27図	八幡浜リニアメント周辺の露頭状況図 (Loc. Y2)	6 - 3 - 243

第3.2.28図	菅田リニアメント周辺の変位地形・リニアメント 分布図	6 - 3 - 244
第3.2.29図	菅田リニアメント周辺の地質図・地質断面図	6 - 3 - 245
第3.2.30図	菅田リニアメント周辺のルートマップ (Loc. S1)	6 - 3 - 246
第3.2.31図	菅田リニアメント周辺の露頭状況図 (Loc. S1)	6 - 3 - 247
第3.2.32図	伊予灘の音響測深測線図	6 - 3 - 248
第3.2.33図	敷地周辺海域の海底地形図	6 - 3 - 249
第3.2.34図	伊予灘の海底地形図	6 - 3 - 250
第3.2.35図	敷地周辺の海上音波探査測線図	6 - 3 - 251
第3.2.36図	各音源の代表的な音波探査記録	6 - 3 - 252
第3.2.37図	宇和海沿岸のボーリング柱状図	6 - 3 - 253
第3.2.38図	伊予灘のD層上面等深線図	6 - 3 - 254
第3.2.39図	伊予灘のT層上面等深線図	6 - 3 - 255
第3.2.40図	敷地周辺海域の海底地質図	6 - 3 - 256
第3.2.41図	海底地質断面位置図(伊予灘)	6 - 3 - 257
第3.2.42図	海底地質断面図(A断面)	6 - 3 - 258
第3.2.43図	海底地質断面図(B断面)	6 - 3 - 259
第3.2.44図	海底地質断面図(C断面)	6 - 3 - 260
第3.2.45図	海底地質断面図(D断面)	6 - 3 - 261
第3.2.46図	海底地質断面図(E断面)	6 - 3 - 262
第3.2.47図	海底地質断面図(F断面)	6 - 3 - 263
第3.2.48図	エアガン海上音波探査測線図(伊予灘)	6 - 3 - 264
第3.2.49図	屈折法地震探査測線図(伊予灘)	6 - 3 - 265

第3.2.50図	エアガン海上音波探査断面図(A断面)	6-3-266
第3.2.51図	エアガン海上音波探査断面図(B断面)	6-3-267
第3.2.52図	エアガン海上音波探査断面図(C断面)	6-3-268
第3.2.53図	エアガン海上音波探査断面図(D断面)	6-3-269
第3.2.54図	エアガン海上音波探査断面図(E断面)	6-3-270
第3.2.55図	屈折法地震探査断面図(A断面)	6-3-271
第3.2.56図	屈折法地震探査断面図(B断面)	6-3-271
第3.2.57図	屈折法地震探査断面図(C断面)	6-3-272
第3.2.58図	屈折法地震探査断面図(D断面)	6-3-272
第3.2.59図	海底地質断面位置図(宇和海)	6-3-273
第3.2.60図	海底地質断面図(a断面)	6-3-274
第3.2.61図	海底地質断面図(b断面)	6-3-275
第3.2.62図	海底地質断面図(c断面)	6-3-276
第3.2.63図	海底地質断面図(d断面)	6-3-277
第3.2.64図	海底地質断面図(e断面)	6-3-278
第3.2.65図	海底地質断面図(f断面)	6-3-279
第3.2.66図	海底地質断面図(g断面)	6-3-279
第3.2.67図	海底地質断面図(h断面)	6-3-280
第3.2.68図	海底地質断面図(i断面)	6-3-280
第3.2.69図	海底地質断面図(j断面)	6-3-281
第3.2.70図	海底地質断面図(k断面)	6-3-282
第3.2.71図	海底地質断面図(l断面)	6-3-283
第3.2.72図	海底地質断面図(m断面)	6-3-284
第3.2.73図	海底地質断面図(n断面)	6-3-285
第3.2.74図	海底地質断面図(o断面)	6-3-286

第3.2.75図	海底地質断面図（p断面）	6-3-287
第3.2.76図	海底地質断面図（q断面）	6-3-288
第3.2.77図	海底地質断面図（r断面）	6-3-289
第3.2.78図	海底地質断面図（s断面）	6-3-290
第3.2.79図	海底地質断面図（t断面）	6-3-291
第3.2.80図	海底地質断面図（u断面）	6-3-292
第3.2.81図	宇和海のプログラデーション分布図	6-3-293
第3.2.82図	F-21断層と基盤突起部の位置関係図…	6-3-294
第3.2.83図	三瓶港周辺の地質図	6-3-295
第3.2.84図	エアガン海上音波探査測線図(宇和海)	6-3-296
第3.2.85図	エアガン海上音波探査断面図(d断面)	6-3-297
第3.2.86図	エアガン海上音波探査断面図(k断面)	6-3-298
第3.2.87図	エアガン海上音波探査断面図(s断面)	6-3-299
第3.2.88図	敷地周辺の活断層分布図 (半径30km以遠を含む)	6-3-300
第3.2.89図	海底地質断面図（G断面）	6-3-301
第3.2.90図	海底地質断面図（H断面）	6-3-302
第3.2.91図	中央構造線断層帯全体図	6-3-303
第3.2.92図	四国北西部の中央構造線断層帯位置図	6-3-304
第3.2.93図	既往文献によるセグメント区分図	6-3-305
第3.2.94図	航空重力測線図	6-3-306
第3.2.95図	航空重力測定結果及び重力逆解析断面位置図	6-3-307
第3.2.96図	重力逆解析結果(B断面)	6-3-308
第3.2.97図	重力逆解析結果(C断面)	6-3-309
第3.2.98図	重力逆解析結果(D断面)	6-3-310

第3.2.99図	四国周辺における浅発地震の震源メカニズム解 …	6-3-311
第3.2.100図	アトリビュート解析断面位置図 ……………	6-3-312
第3.2.101図	アトリビュート解析結果(A断面) ……………	6-3-313
第3.2.102図	アトリビュート解析結果(B断面) ……………	6-3-313
第3.2.103図	アトリビュート解析結果(C断面) ……………	6-3-314
第3.2.104図	アトリビュート解析結果(D断面) ……………	6-3-314
第3.2.105図	アトリビュート解析結果(E断面) ……………	6-3-315
第3.2.106図	アトリビュート解析結果(JNI-A断面) ……………	6-3-316
第3.2.107図	アトリビュート解析結果(JNI-B断面) ……………	6-3-316
第3.2.108図	アトリビュート解析結果(JNI-C断面) ……………	6-3-317
第3.2.109図	アトリビュート解析結果(JNI-D断面) ……………	6-3-317
第3.2.110図	アトリビュート解析結果(JNI-E断面) ……………	6-3-318
第3.2.111図	アトリビュート解析結果(JNI-F断面) ……………	6-3-318
第3.2.112図	アトリビュート解析結果(JNI-G断面) ……………	6-3-319
第3.2.113図	アトリビュート解析結果(JNI-H断面) ……………	6-3-319
第3.2.114図	地震調査研究推進本部地震調査委員会(2017)による 中央構造線断層帯全体図 ……………	6-3-320
第3.3.1図	敷地近傍の地形図 ……………	6-3-321
第3.3.2図	敷地近傍の海上音波探査測線図 ……………	6-3-322
第3.3.3図	敷地近傍の変動地形図(地形区分図) ……………	6-3-323
第3.3.4図	敷地近傍の地質図 ……………	6-3-324
第3.3.5図	敷地近傍の詳細地質断面図 ……………	6-3-325
第3.4.1図	敷地の地質調査位置図 ……………	6-3-326
第3.4.2図	深部ボーリング調査位置図 ……………	6-3-327
第3.4.3図	敷地の地質図 ……………	6-3-328

第3.4.4図	敷地の地質断面図	6 - 3 - 329
第3.4.5図	片理面の走向・傾斜頻度分布図	6 - 3 - 330
第3.4.6図	深部地質柱状図	6 - 3 - 331
第3.4.7図	ブレイクアウト方位図	6 - 3 - 332
第3.4.8図	敷地内断層分布図	6 - 3 - 333
第3.4.9図	F a - 1 断層の研磨片及び薄片観察結果	6 - 3 - 334
第3.4.10図	F a - 4 断層の研磨片及び薄片観察結果	6 - 3 - 335
第3.4.11図	f 1 断層の研磨片及び薄片観察結果	6 - 3 - 336
第3.4.12図	f 2 断層の研磨片観察結果	6 - 3 - 337
第3.4.13図	f 2 断層の薄片観察結果	6 - 3 - 338
第3.4.14図	f 3 断層の研磨片観察結果	6 - 3 - 339
第3.4.15図	f 3 断層の薄片観察結果	6 - 3 - 340
第3.4.16図	f 4 断層の研磨片観察結果	6 - 3 - 341
第3.4.17図	f 4 断層の薄片観察結果	6 - 3 - 342
第3.4.18図	地表弾性波探査速度断面図	6 - 3 - 343
第3.4.19図	深度ボーリング孔内検層結果	6 - 3 - 344
第3.4.20図	3号炉心ボーリング孔内P S 検層結果	6 - 3 - 345
第3.4.21図	オフセットV S P探査断面図（時間断面）	6 - 3 - 346
第3.4.22図	オフセットV S P探査断面図（深度断面）	6 - 3 - 347
第3.4.23図	原子炉建屋南側山地の地下水位調査結果	6 - 3 - 348
第3.5.1図	原子炉設置位置付近の地質調査位置図	6 - 3 - 349
第3.5.2図	試掘坑平面図	6 - 3 - 350
第3.5.3図	弾性波試験調査位置図（試掘坑内）	6 - 3 - 351
第3.5.4図	弾性波試験調査位置図（斜面部調査坑内）	6 - 3 - 352
第3.5.5図	斜面部地質調査位置図	6 - 3 - 353

第3.5.6図	㊥級岩盤試験調査位置図	6-3-354
第3.5.7図	平板載荷試験装置図	6-3-355
第3.5.8図	㊦級岩盤試験調査位置図	6-3-356
第3.5.9図	岩盤せん断試験装置図	6-3-357
第3.5.10図	岩盤せん断試験載荷パターン図	6-3-358
第3.5.11図	岩盤せん断試験変位計配置図	6-3-359
第3.5.12図	ボーリング孔内載荷試験装置図	6-3-360
第3.5.13図	シュミットロックハンマー試験位置図	6-3-361
第3.5.14図	試掘坑内透水試験位置図	6-3-362
第3.5.15図	地質水平断面図 (EL+2.0m)	6-3-363
第3.5.16図	ねじりせん断試験装置図	6-3-364
第3.5.17図	F a-2 断層原位置せん断試験位置図	6-3-365
第3.5.18図	F a-2 断層原位置せん断試験装置図	6-3-366
第3.5.19図	F a-2 断層原位置せん断試験載荷パターン図 ...	6-3-367
第3.5.20図	地質鉛直断面図 (X-X')	6-3-368
第3.5.21図	地質鉛直断面図 (Y-Y')	6-3-369
第3.5.22図	地質柱状図(1)	6-3-370
第3.5.23図	地質柱状図(2)	6-3-371
第3.5.24図	地質柱状図(3)	6-3-372
第3.5.25図	地質柱状図(4)	6-3-373
第3.5.26図	地質柱状図(5)	6-3-374
第3.5.27図	地質柱状図(6)	6-3-375
第3.5.28図	地質柱状図(7)	6-3-376
第3.5.29図	地質柱状図(8)	6-3-377
第3.5.30図	地質柱状図(9)	6-3-378

第3.5.31図	地質柱状図(10)	6-3-379
第3.5.32図	地質柱状図(11)	6-3-380
第3.5.33図	地質柱状図(12)	6-3-381
第3.5.34図	地質柱状図(13)	6-3-382
第3.5.35図	地質柱状図(14)	6-3-383
第3.5.36図	地質柱状図(15)	6-3-384
第3.5.37図	地質柱状図(16)	6-3-385
第3.5.38図	地質柱状図(17)	6-3-386
第3.5.39図	地質柱状図(18)	6-3-387
第3.5.40図	地質柱状図(19)	6-3-388
第3.5.41図	地質柱状図(20)	6-3-389
第3.5.42図	地質柱状図(21)	6-3-390
第3.5.43図	地質柱状図(22)	6-3-391
第3.5.44図	地質柱状図(23)	6-3-392
第3.5.45図	地質柱状図(24)	6-3-393
第3.5.46図	地質柱状図(25)	6-3-394
第3.5.47図	地質柱状図(26)	6-3-395
第3.5.48図	地質柱状図(27)	6-3-396
第3.5.49図	地質柱状図(28)	6-3-397
第3.5.50図	地質柱状図(29)	6-3-398
第3.5.51図	地質柱状図(30)	6-3-399
第3.5.52図	地質柱状図(31)	6-3-400
第3.5.53図	地質柱状図(32)	6-3-401
第3.5.54図	地質柱状図(33)	6-3-402
第3.5.55図	地質柱状図(34)	6-3-403

第3.5.56図	地質柱状図(35)	6 - 3 - 404
第3.5.57図	地質柱状図(36)	6 - 3 - 405
第3.5.58図	地質柱状図(37)	6 - 3 - 406
第3.5.59図	試掘坑展開図(1)	6 - 3 - 407
第3.5.60図	試掘坑展開図(2)	6 - 3 - 408
第3.5.61図	試掘坑展開図(3)	6 - 3 - 409
第3.5.62図	試掘坑展開図(4)	6 - 3 - 410
第3.5.63図	試掘坑展開図(5)	6 - 3 - 411
第3.5.64図	試掘坑展開図(6)	6 - 3 - 412
第3.5.65図	試掘坑展開図(7)	6 - 3 - 413
第3.5.66図	試掘坑展開図(8)	6 - 3 - 414
第3.5.67図	試掘坑展開図(9)	6 - 3 - 415
第3.5.68図	試掘坑展開図(10)	6 - 3 - 416
第3.5.69図	試掘坑展開図(11)	6 - 3 - 417
第3.5.70図	試掘坑展開図(12)	6 - 3 - 418
第3.5.71図	試掘坑展開図(13)	6 - 3 - 419
第3.5.72図	試掘坑展開図(14)	6 - 3 - 420
第3.5.73図	試掘坑展開図(15)	6 - 3 - 421
第3.5.74図	試掘坑展開図(16)	6 - 3 - 422
第3.5.75図	試掘坑展開図(17)	6 - 3 - 423
第3.5.76図	岩盤分類の考え方のフロー	6 - 3 - 424
第3.5.77図	試掘坑内節理面の走向・傾斜頻度分布図	6 - 3 - 425
第3.5.78図	F a - 3 断層詳細図 (F a - 2 断層との交差部)	6 - 3 - 426
第3.5.79図	F a - 3 断層と F a - 5 断層の交差部	6 - 3 - 427

第3.5.80図	F a - 3 断層の研磨片観察結果	6 - 3 - 428
第3.5.81図	F a - 3 断層の薄片観察結果（薄片A）	6 - 3 - 429
第3.5.82図	F a - 3 断層の薄片観察結果（薄片B）	6 - 3 - 430
第3.5.83図	F a - 2 断層の研磨片観察結果	6 - 3 - 431
第3.5.84図	F a - 2 断層の薄片観察結果	6 - 3 - 432
第3.5.85図	緑泥石（スメクタイトとの混合層を伴う）の 干渉色と化学組成	6 - 3 - 433
第3.5.86図	F a - 3 断層の反射電子像	6 - 3 - 434
第3.5.87図	三軸圧縮試験結果(1)	6 - 3 - 435
第3.5.88図	三軸圧縮試験結果(2)	6 - 3 - 436
第3.5.89図	三軸圧縮試験結果(3)	6 - 3 - 437
第3.5.90図	三軸圧縮試験結果(4)	6 - 3 - 438
第3.5.91図	弾性波試験結果（基礎岩盤部）	6 - 3 - 439
第3.5.92図	弾性波試験結果（斜面部）	6 - 3 - 440
第3.5.93図	応力－変位曲線図〔 CF 級〕(1)	6 - 3 - 441
第3.5.94図	応力－変位曲線図〔 CF 級〕(2)	6 - 3 - 442
第3.5.95図	応力－変位曲線図〔 CF 級〕(3)	6 - 3 - 443
第3.5.96図	応力－変位曲線図〔 CF 級〕(4)	6 - 3 - 444
第3.5.97図	応力－変位曲線図〔 CF 級〕(5)	6 - 3 - 445
第3.5.98図	応力－変位曲線図〔 CF 級〕(6)	6 - 3 - 446
第3.5.99図	応力－変位曲線図〔 CF 級〕(7)	6 - 3 - 447
第3.5.100図	応力－変位曲線図〔 CM 級〕(1)	6 - 3 - 448
第3.5.101図	応力－変位曲線図〔 CM 級〕(2)	6 - 3 - 449
第3.5.102図	応力－変位曲線図〔 CM 級〕(3)	6 - 3 - 450
第3.5.103図	応力－変位曲線図〔 CM 級〕(4)	6 - 3 - 451

第3.5.104図	応力－変位曲線図〔㊦級〕(5)	6－3－452
第3.5.105図	㊦級岩盤せん断試験結果	6－3－453
第3.5.106図	㊦級岩盤残留強度試験結果	6－3－454
第3.5.107図	㊦級岩盤せん断試験結果	6－3－455
第3.5.108図	坑間弾性波試験結果	6－3－456
第3.5.109図	静的ねじりせん断試験結果（ $\gamma=5\times10^{-3}$ ひずみ 時のせん断弾性係数～垂直応力）	6－3－457
第3.5.110図	動的ねじりせん断試験(1)（未固結粘土（軟質部）） （動せん断弾性係数／初期せん断弾性係数～ せん断ひずみ）	6－3－458
第3.5.111図	動的ねじりせん断試験(2)（固結粘土（岩石化）） （動せん断弾性係数／初期せん断弾性係数～ せん断ひずみ）	6－3－459
第3.5.112図	動的ねじりせん断試験結果(1)（未固結粘土（軟質部）） （減衰定数～せん断ひずみ）	6－3－460
第3.5.113図	動的ねじりせん断試験結果(2)（固結粘土（岩石化）） （減衰定数～せん断ひずみ）	6－3－461
第3.5.114図	動的ねじりせん断試験結果(3)（未固結粘土（軟質部）） （せん断弾性係数～垂直応力）	6－3－462
第3.5.115図	静的ねじりせん断試験結果(1)（未固結粘土（軟質部）） （せん断応力～せん断ひずみ）	6－3－463
第3.5.116図	静的ねじりせん断試験結果(2)（固結粘土（岩石化）） （せん断応力～せん断ひずみ）	6－3－464
第3.5.117図	静的ねじりせん断試験結果(1) （未固結粘土（軟質部））	6－3－465

第3.5.118図	静的ねじりせん断試験結果(2) (固結粘土(岩石化))	6-3-466
第3.5.119図	F a-2断層原位置せん断試験結果	6-3-467
第3.5.120図	表土の三軸圧縮試験結果	6-3-468
第3.6.1図	耐震重要施設及び常設重大事故等対処施設の 配置図	6-3-469
第3.6.2図	評価対象断面位置図(基礎地盤)	6-3-470
第3.6.3(1)図	地質断面図(X-X'断面)	6-3-471
第3.6.3(2)図	地質断面図(Y-Y'断面(Y 1-Y 1'断面 及びY 2-Y 2'断面))	6-3-472
第3.6.3(3)図	地質断面図(A-A'断面)	6-3-473
第3.6.3(4)図	地質断面図(B-B'断面)	6-3-474
第3.6.3(5)図	地質断面図(C-C'断面)	6-3-475
第3.6.3(6)図	地質断面図(D-D'断面)	6-3-476
第3.6.3(7)図	地質断面図(E-E'断面)	6-3-477
第3.6.4(1)図	解析用岩盤分類図(X-X'断面)	6-3-478
第3.6.4(2)図	解析用岩盤分類図(A-A'断面)	6-3-479
第3.6.4(3)図	解析用岩盤分類図(D-D'断面)	6-3-480
第3.6.5(1)図	解析用要素分割図(X-X'断面)	6-3-481
第3.6.5(2)図	解析用要素分割図(A-A'断面)	6-3-482
第3.6.5(3)図	解析用要素分割図(D-D'断面)	6-3-483
第3.6.6図	境界条件	6-3-484
第3.6.7図	入力地震動の考え方	6-3-485
第3.6.8(1)図	解析用地下水位(X-X'断面)	6-3-486

第3.6.8(2)図	解析用地下水位 (A-A' 断面, D-D' 断面)	6-3-487
第3.6.9図	基礎地盤の安定性評価フロー	6-3-488
第3.6.10図	評価対象斜面及び評価対象断面位置図 (周辺斜面)	6-3-489
第3.6.11図	解析用岩盤分類図 (C-C' 断面)	6-3-490
第3.6.12図	解析用要素分割図 (C-C' 断面)	6-3-491
第3.6.13図	解析用地下水位 (C-C' 断面)	6-3-492
第3.6.14図	周辺斜面の安定性評価フロー	6-3-493
第3.7.1図	 設置位置付近の地質調査位置図	6-3-494
第3.7.2図	岩盤観察範囲	6-3-495
第3.7.3(1)図	 (セメント改良土) 範囲	6-3-496
第3.7.3(2)図	 (置換コンクリート) 範囲	6-3-497
第3.7.4図	 設置位置周辺の地質水平断面図 (EL. +2.0m)	6-3-498
第3.7.5図	地質鉛直断面図 (G-G' 断面)	6-3-499
第3.7.6図	地質鉛直断面図 (F-F' 断面)	6-3-500
第3.7.7図	 設置位置における地質柱状図 (1)	6-3-501
第3.7.8図	 設置位置における地質柱状図 (2)	6-3-502
第3.7.9図	 設置位置における地質柱状図 (3)	6-3-503
第3.7.10図	 設置位置における地質柱状図 (4)	6-3-504
第3.7.11図	 設置位置における地質柱状図 (5)	6-3-505
第3.7.12図	 設置位置における地質柱状図 (6)	6-3-506
第3.7.13図	 設置位置における地質柱状図 (7)	6-3-507

第3.7.14図		設置位置における地質柱状図（8）	……	6－3－508
第3.7.15図		設置位置における地質柱状図（9）	……	6－3－509
第3.7.16図		設置位置における地質柱状図（10）	……	6－3－510
第3.7.17図		設置位置における地質柱状図（11）	……	6－3－511
第3.7.18図		設置位置における地質柱状図（12）	……	6－3－512
第3.7.19図		設置位置における地質柱状図（13）	……	6－3－513
第3.7.20図		設置位置における地質柱状図（14）	……	6－3－514
第3.7.21図		設置位置における地質柱状図（15）	……	6－3－515
第3.7.22図		設置位置における地質柱状図（16）	……	6－3－516
第3.7.23図		岩盤観察結果（1）	……………	6－3－517
第3.7.24図		岩盤観察結果（2）	……………	6－3－518
第3.7.25図		岩盤観察結果（3）	……………	6－3－519
第3.7.26図		岩盤観察結果（4）	……………	6－3－520
第3.7.27図		岩盤観察結果（5）	……………	6－3－521
第3.7.28図		岩盤観察結果（6）	……………	6－3－522
第3.7.29図		岩盤観察結果（7）	……………	6－3－523
第3.7.30図		岩盤観察結果（8）	……………	6－3－524
第3.7.31図		岩盤観察結果（9）	……………	6－3－525
第3.7.32図		岩盤観察結果（10）	……………	6－3－526
第3.7.33図		特定重大事故等対処施設と敷地内断層の 位置関係	……………	6－3－527
第3.7.34図		設置位置付近の地下水位調査結果	……	6－3－528
第3.8.1図	 の 配置並びに評価対象断面位置図（基礎地盤）			
第3.8.2(1)図		解析用岩盤分類図（F－F’断面）	……………	6－3－530

第3.8.2(2)図	解析用岩盤分類図 (G-G' 断面)	6-3-531
第3.8.3(1)図	解析用要素分割図 (F-F' 断面)	6-3-532
第3.8.3(2)図	解析用要素分割図 (G-G' 断面)	6-3-533
第3.8.4図	境界条件	6-3-534
第3.8.5図	入力地震動の考え方	6-3-535
第3.8.6図	解析用地下水位	6-3-536
第3.8.7図	評価対象斜面位置及び評価対象断面位置図 (周辺斜面)	6-3-537
第3.8.8図	解析用岩盤分類図 (F-F' 断面)	6-3-538
第3.8.9図	解析用要素分割図 (F-F' 断面)	6-3-539
第3.9.1図	乾式貯蔵建屋設置位置付近の地質調査位置図	6-3-540
第3.9.2図	乾式貯蔵建屋設置位置周辺の地質水平断面図 (EL. +2.0m)	6-3-541
第3.9.3図	地質鉛直断面図 (M-M' 断面)	6-3-542
第3.9.4図	地質鉛直断面図 (N-N' 断面)	6-3-543
第3.9.5図	乾式貯蔵建屋設置位置における地質柱状図 (1)	6-3-544
第3.9.6図	乾式貯蔵建屋設置位置における地質柱状図 (2)	6-3-545
第3.9.7図	乾式貯蔵建屋設置位置における地質柱状図 (3)	6-3-546
第3.9.8図	乾式貯蔵建屋設置位置における地質柱状図 (4)	6-3-547
第3.9.9図	乾式貯蔵建屋設置位置における地質柱状図 (5)	6-3-548

第3.9.10図	乾式貯蔵建屋設置位置における地質柱状図 (6)	6-3-549
第3.9.11図	乾式貯蔵建屋設置位置における地質柱状図 (7)	6-3-550
第3.9.12図	乾式貯蔵建屋設置位置における地質柱状図 (8)	6-3-551
第3.9.13図	乾式貯蔵建屋設置位置における地質柱状図 (9)	6-3-552
第3.9.14図	乾式貯蔵建屋設置位置における地質柱状図 (10)	6-3-553
第3.9.15図	乾式貯蔵建屋設置位置における地質柱状図 (11)	6-3-554
第3.9.16図	乾式貯蔵建屋設置位置における地質柱状図 (12)	6-3-555
第3.9.17図	乾式貯蔵建屋設置位置における地質柱状図 (13)	6-3-556
第3.9.18図	乾式貯蔵建屋設置位置における地質柱状図 (14)	6-3-557
第3.9.19図	乾式貯蔵建屋設置位置における地質柱状図 (15)	6-3-558
第3.9.20図	乾式貯蔵建屋設置位置における地質柱状図 (16)	6-3-559
第3.9.21図	乾式貯蔵建屋と敷地内断層の位置関係	6-3-560
第3.9.22図	乾式貯蔵建屋設置位置付近の地下水位調査結果 ...	6-3-561

第3.10.1図	乾式貯蔵建屋の配置及び評価対象断面位置図	
	(基礎地盤)	6-3-562
第3.10.2(1)図	解析用岩盤分類図 (N-N' 断面)	6-3-563
第3.10.2(2)図	解析用岩盤分類図 (O-O' 断面)	6-3-564
第3.10.2(3)図	解析用岩盤分類図 (P-P' 断面)	6-3-565
第3.10.3(1)図	解析用要素分割図 (N-N' 断面)	6-3-566
第3.10.3(2)図	解析用要素分割図 (O-O' 断面)	6-3-567
第3.10.3(3)図	解析用要素分割図 (P-P' 断面)	6-3-568
第3.10.4図	境界条件	6-3-569
第3.10.5図	入力地震動の考え方	6-3-570
第3.10.6(1)図	解析用地下水位 (N-N' 断面及び O-O' 断面)	6-3-571
第3.10.6(2)図	解析用地下水位 (P-P' 断面)	6-3-572
第3.10.7図	評価対象斜面位置及び評価対象断面位置図	
	(周辺斜面)	6-3-573
第3.10.8(1)図	解析用岩盤分類図 (O-O' 断面)	6-3-574
第3.10.8(2)図	解析用岩盤分類図 (P-P' 断面)	6-3-575
第3.10.9(1)図	解析用要素分割図 (O-O' 断面)	6-3-576
第3.10.9(2)図	解析用要素分割図 (P-P' 断面)	6-3-577
第5.2.1図	敷地周辺で過去に発生した被害地震の震央分布	6-5-118
第5.2.2(1)図	中小微小地震の震央分布 (震源深さ0~30km)	6-5-119
第5.2.2(2)図	中小微小地震の震央分布 (震源深さ30~70km)	6-5-120

第5.2.2(3)図	中小微小地震の震央分布 (震源深さ70～150km)	6 - 5 - 121
第5.2.3(1)図	中小微小地震の震源鉛直分布 (南北方向断面)	6 - 5 - 122
第5.2.3(2)図	中小微小地震の震源鉛直分布 (東西方向断面)	6 - 5 - 123
第5.2.4図	地震発生層上面形状から作成した等深線図	6 - 5 - 124
第5.2.5図	フィリピン海プレートの境界面の推定等深線図	6 - 5 - 125
第5.2.6図	フィリピン海プレートの境界面の推定等深線図 (日向灘, 九州内陸部)	6 - 5 - 126
第5.2.7図	深さ30km 以深のフィリピン海プレート上面の 形状	6 - 5 - 127
第5.2.8図	中央構造線断層帯位置図	6 - 5 - 128
第5.2.9図	別府一万年山断層帯位置図	6 - 5 - 129
第5.2.10図	別府一万年山断層帯(東部)における活断層 位置図	6 - 5 - 130
第5.2.11図	別府一万年山断層帯(西部)における活断層 位置図	6 - 5 - 131
第5.2.12図	南海トラフ沿いの地震の震源領域の概略位置図 ...	6 - 5 - 132
第5.2.13図	安芸灘～伊予灘～豊後水道及び日向灘の地震の 震源領域の概略位置図	6 - 5 - 133
第5.2.14図	日向灘の地震の震源断層モデル	6 - 5 - 134
第5.2.15図	南海地震の断層モデル図	6 - 5 - 135
第5.2.16図	南海トラフの巨大地震の断層モデル図	6 - 5 - 136

第5.3.1図	マグニチュードと震央距離との関係から推定 した敷地の震度	6-5-137
第5.3.2(1)図	カタログ間の地震の規模及び震央位置の 差異	6-5-138
第5.3.2(2)図	カタログ間の地震の規模及び震央位置の差異 (拡大図)	6-5-139
第5.3.3図	敷地周辺で過去に発生した被害地震の震央分布 と活断層	6-5-140
第5.3.4図	中小微小地震の震央分布(震源深さ0~30km) と活断層	6-5-141
第5.3.5図	マグニチュードと震央距離との関係から推定 した敷地の震度(火山活動に伴う地震)	6-5-142
第5.3.6図	過去にフィリピン海プレートで発生したと考え られる比較的規模の大きい海洋プレート内地震	6-5-143
第5.3.7図	検討用地震の候補(海洋プレート内地震)	6-5-144
第5.3.8図	想定南海地震及び想定東南海地震の震源域	6-5-145
第5.4.1図	基礎岩盤部の弾性波試験結果	6-5-146
第5.4.2図	地震観測位置(地震計配置図及び柱状図)及び 観測期間	6-5-147
第5.4.3図	主な観測地震の震央分布	6-5-148
第5.4.4図	主な観測地震の応答スペクトル	6-5-149
第5.4.5(1)図	主な観測地震の応答スペクトル(2001年芸予 地震の観測記録の応答スペクトル)	6-5-150
第5.4.5(2)図	主な観測地震の応答スペクトル(2014年伊予 灘の地震の観測記録の応答スペクトル)	6-5-151

第5.4.6図	増幅特性の検討に用いた地震	6-5-152
第5.4.7図	増幅特性の検討結果	6-5-153
第5.4.8図	到来方向による増幅特性の検討に用いた地震	6-5-154
第5.4.9図	到来方向による増幅特性の検討結果	6-5-155
第5.5.1図	気象庁一元化震源（1997年10月～2011年12月）	6-5-156
第5.5.2図	敷地周辺及び敷地近傍におけるD10%	6-5-157
第5.5.3図	敷地周辺における屈折法地震探査の結果	6-5-158
第5.5.4図	Ito et al. (2009)による $V_p = 6 \text{ km/s}$ 相当層に 関する知見	6-5-159
第5.5.5図	地震波トモグラフィー断面位置	6-5-160
第5.5.6(1)図	地震波トモグラフィー結果 (S波の速度構造)	6-5-161
第5.5.6(2)図	地震波トモグラフィー結果 (S波の速度構造)	6-5-162
第5.5.7(1)図	地震波トモグラフィー結果 (V_p/V_s 比)	6-5-163
第5.5.7(2)図	地震波トモグラフィー結果 (V_p/V_s 比)	6-5-164
第5.5.8図	キュリー点深度	6-5-165
第5.5.9図	敷地周辺におけるD50%及びD90%	6-5-166
第5.5.10図	地殻熱流量データ	6-5-167
第5.5.11図	キュリー点深度との対比から算出した地殻熱 流量	6-5-168
第5.5.12図	下限深さデータの比較	6-5-169
第5.5.13図	応答スペクトルによる地震動評価 (内陸地殻内地震)	6-5-170

第5.5.14図	応答スペクトルによる地震動評価 (海洋プレート内地震)	6-5-171
第5.5.15図	応答スペクトルによる地震動評価 (プレート間地震)	6-5-172
第5.5.16図	検討用地震の選定結果	6-5-173
第5.5.17図	敷地前面海域の断層群(中央構造線断層帯) の地震動評価における基本震源モデル (長さ約480km)	6-5-174
第5.5.18(1)図	内陸地殻内地震(断層長さ約480km, 壇ほか(2011)) の断層モデル(基本震源モデル, 不確かさ考慮①, 不確かさ考慮④)	6-5-175
第5.5.18(2)図	内陸地殻内地震(断層長さ約480km, 壇ほか(2011)) の断層モデル(不確かさ考慮②)	6-5-176
第5.5.18(3)図	内陸地殻内地震(断層長さ約480km, 壇ほか(2011)) の断層モデル(不確かさ考慮③)	6-5-177
第5.5.18(4)図	内陸地殻内地震(断層長さ約480km, 壇ほか(2011)) の断層モデル(不確かさ考慮⑤)	6-5-178
第5.5.18(5)図	内陸地殻内地震(断層長さ約480km, Fujii & Matsu'ura(2000))の断層モデル(基本震源モデル, 不確かさ考慮①, 不確かさ考慮④)	6-5-179
第5.5.18(6)図	内陸地殻内地震(断層長さ約130km, 壇ほか (2011))の断層モデル(基本震源モデル, 不確かさ考慮①)	6-5-180

第5.5.18(7)図	内陸地殻内地震（断層長さ約130km, Fujii & Matsu'ura(2000)）の断層モデル（基本震源モデル, 不確かさ考慮①, 不確かさ考慮④）	6-5-181
第5.5.18(8)図	内陸地殻内地震（断層長さ約54km, 壇ほか(2011)）の断層モデル（基本震源モデル, 不確かさ考慮①）	6-5-182
第5.5.18(9)図	内陸地殻内地震（断層長さ約54km, 入倉・三宅(2001)）の断層モデル（基本震源モデル, 不確かさ考慮①, 不確かさ考慮④）	6-5-183
第5.5.18(10)図	内陸地殻内地震（断層長さ約54km, 入倉・三宅(2001)）の断層モデル(不確かさ考慮②)	6-5-184
第5.5.18(11)図	内陸地殻内地震（断層長さ約54km, 入倉・三宅(2001)）の断層モデル(不確かさ考慮③)	6-5-185
第5.5.18(12)図	内陸地殻内地震（断層長さ約54km, 入倉・三宅(2001)）の断層モデル(不確かさ考慮⑤)	6-5-186
第5.5.19(1)図	断層パラメータの設定方法（壇ほか(2011)による手法）	6-5-187
第5.5.19(2)図	断層パラメータの設定方法（Fujii & Matsu'ura(2000)による手法）	6-5-188
第5.5.19(3)図	断層パラメータの設定方法（入倉・三宅(2001)による手法）	6-5-189
第5.5.20(1)図	海洋プレート内地震の断層モデル（基本震源モデル）	6-5-190
第5.5.20(2)図	海洋プレート内地震の断層モデル（不確かさ考慮①）	6-5-191

第5.5.20(3)図	海洋プレート内地震の断層モデル (不確かさ考慮②)	6-5-192
第5.5.20(4)図	海洋プレート内地震の断層モデル (不確かさ考慮③)	6-5-193
第5.5.20(5)図	海洋プレート内地震の断層モデル (不確かさ考慮④)	6-5-194
第5.5.21(1)図	断層パラメータの設定方法 (笹谷ほか(2006)による手法)	6-5-195
第5.5.21(2)図	断層パラメータの設定方法 (2001年芸予地震の知見を考慮したモデル (不確かさ考慮①))	6-5-196
第5.5.22(1)図	プレート間地震の断層モデル (基本震源モデル)	6-5-197
第5.5.22(2)図	プレート間地震の断層モデル (不確かさ考慮①)	6-5-198
第5.5.23(1)図	距離及び地震規模の適用性 (耐専スペクトル)	6-5-199
第5.5.23(2)図	距離及び地震規模の適用性 (Boore and Atkinson(2008))	6-5-200
第5.5.24(1)図	適用性の検証 (断層長さ約480kmのケース)	6-5-201
第5.5.24(2)図	適用性の検証(断層長さ約130km及び約54km のケースの鉛直断層)	6-5-202
第5.5.24(3)図	適用性の検証(断層長さ約130km及び約54km のケースの北傾斜断層)	6-5-203

第5.5.25図	応答スペクトルに基づく評価結果 (内陸地殻内地震)	6 - 5 - 204
第5.5.26図	海洋プレート内地震の観測記録に基づく応答 スペクトル比	6 - 5 - 205
第5.5.27図	応答スペクトルに基づく評価結果 (海洋プレート内地震)	6 - 5 - 206
第5.5.28図	応答スペクトルに基づく評価結果 (プレート間地震)	6 - 5 - 207
第5.5.29図	経験的グリーン関数法(EGF)と統計的グリーン 関数法(SGF)による評価結果の比較	6 - 5 - 208
第5.5.30(1)図	断層モデルを用いた手法による内陸地殻内地震 の地震動評価 結果(断層長さ約480km, 壇ほか(2011)による手法, 基本震源モデル) ...	6 - 5 - 209
第5.5.30(2)図	断層モデルを用いた手法による内陸地殻内地震 の地震動評価結果(断層長さ約480km, 壇ほか (2011)による手法, 不確かさ考慮①ケース) ...	6 - 5 - 210
第5.5.30(3)図	断層モデルを用いた手法による内陸地殻内地震 の地震動評価結果(断層長さ約480km, 壇ほか (2011)による手法, 不確かさ考慮②ケース) ...	6 - 5 - 211
第5.5.30(4)図	断層モデルを用いた手法による内陸地殻内地震 の地震動評価結果(断層長さ約480km, 壇ほか (2011)による手法, 不確かさ考慮③ケース) ...	6 - 5 - 212
第5.5.30(5)図	断層モデルを用いた手法による内陸地殻内地震 の地震動評価結果(断層長さ約480km, 壇ほか (2011)による手法, 不確かさ考慮④ケース) ...	6 - 5 - 213

第5.5.30(6)図	断層モデルを用いた手法による内陸地殻内地震 の地震動評価結果（断層長さ約480km, 壇ほか (2011)による手法, 不確かさ考慮⑤ケース）	… 6-5-214
第5.5.30(7)図	断層モデルを用いた手法による内陸地殻内 地震の地震動評価結果（断層長さ約480km, Fujii & Matsu'ura(2000)による手法, 基本 震源モデル）	… 6-5-215
第5.5.30(8)図	断層モデルを用いた手法による内陸地殻内 地震の地震動評価結果（断層長さ約480km, Fujii & Matsu'ura(2000)による手法, 不 確かさ考慮①ケース）	… 6-5-216
第5.5.30(9)図	断層モデルを用いた手法による内陸地殻内 地震の地震動評価結果（断層長さ約480km, Fujii & Matsu'ura(2000)による手法, 不 確かさ考慮④ケース）	… 6-5-217
第5.5.30(10)図	断層モデルを用いた手法による内陸地殻内 地震の地震動評価結果（断層長さ約130km, 壇ほか(2011)による手法, 基本震源モデル）	… 6-5-218
第5.5.30(11)図	断層モデルを用いた手法による内陸地殻内 地震の地震動評価結果（断層長さ約130km, Fujii & Matsu'ura(2000)による手法, 基本 震源モデル）	… 6-5-219
第5.5.30(12)図	断層モデルを用いた手法による内陸地殻内 地震の地震動評 価結果（断層長さ約54km, 壇ほか(2011)による手法, 基本震源モデル）	… 6-5-220

第5.5.30(13)図	断層モデルを用いた手法による内陸地殻内 地震の地震動評価結果（断層長さ約54km, 壇ほか(2011)による手法，不確かさ考慮 ④ケース）	6 - 5 - 221
第5.5.30(14)図	断層モデルを用いた手法による内陸地殻内 地震の地震動評価結果（断層長さ約54km, 入倉・三宅(2001)による手法，基本震源 モデル）	6 - 5 - 222
第5.5.30(15)図	断層モデルを用いた手法による内陸地殻内 地震の地震動評価結果（断層長さ約54km, 入倉・三宅(2001)による手法，不確かさ 考慮①ケース）	6 - 5 - 223
第5.5.30(16)図	断層モデルを用いた手法による内陸地殻内 地震の地震動評価結果（断層長さ約54km, 入倉・三宅(2001)による手法，不確かさ 考慮②ケース）	6 - 5 - 224
第5.5.30(17)図	断層モデルを用いた手法による内陸地殻内 地震の地震動評価結果（断層長さ約54km, 入倉・三宅(2001)による手法，不確かさ 考慮③ケース）	6 - 5 - 225
第5.5.30(18)図	断層モデルを用いた手法による内陸地殻内 地震の地震動評価結果（断層長さ約54km, 入倉・三宅(2001)による手法，不確かさ 考慮④ケース）	6 - 5 - 226

第5.5.30(19)図	断層モデルを用いた手法による内陸地殻内 地震の地震動評価結果（断層長さ約54km, 入倉・三宅(2001)による手法, 不確かさ 考慮⑤ケース）……………	6－5－227
第5.5.31(1)図	断層長さの違いによる地震動評価結果の比較 （断層長さ約480km及び約130km, 壇ほか(2011) による手法, 基本震源モデル）……………	6－5－228
第5.5.31(2)図	断層長さの違いによる地震動評価結果の比較 （断層長さ約480km及び約130km, Fujii & Matsu'ura (2000)による手法, 基本震源モデル）……………	6－5－229
第5.5.31(3)図	断層長さの違いによる地震動評価結果の比較 （断層長さ約480km及び約54km, 壇ほか(2011) による手法, 基本震源モデル）……………	6－5－230
第5.5.32(1)図	断層モデルを用いた手法による海洋プレート 内地震の地震動評価結果（基本震源モデル）…	6－5－231
第5.5.32(2)図	断層モデルを用いた手法による海洋プレート内地震 の地震動評価結果（不確かさ考慮①ケース）…	6－5－232
第5.5.32(3)図	断層モデルを用いた手法による海洋プレート内地震 の地震動評価結果（不確かさ考慮②ケース）…	6－5－233
第5.5.32(4)図	断層モデルを用いた手法による海洋プレート内地震 の地震動評価結果（不確かさ考慮③ケース）…	6－5－234
第5.5.32(5)図	断層モデルを用いた手法による海洋プレート内地震 の地震動評価結果（不確かさ考慮④ケース）…	6－5－235
第5.5.33図	断層モデルを用いた手法によるプレート間地震の 地震動評価結果……………	6－5－236

第5.5.34図	標準応答スペクトル	6-5-237
第5.5.35図	震源を特定せず策定する地震動	6-5-238
第5.5.36図	応答スペクトルに基づく手法による基準地震動 S_s	6-5-239
第5.5.37図	断層モデルを用いた手法による地震動評価結果 (内陸地殻内地震)	6-5-240
第5.5.38図	断層モデルを用いた手法による地震動評価結果 (海洋プレート内地震)	6-5-241
第5.5.39図	断層モデルを用いた手法による地震動評価結果 (プレート間地震)	6-5-242
第5.5.40図	断層モデルを用いた手法による地震動評価結果 (内陸地殻内地震・ハイブリッド合成)	6-5-243
第5.5.41図	断層モデルを用いた手法による基準地震動 S_s	6-5-244
第5.5.42図	「震源を特定せず策定する地震動」による基準 地震動 S_s	6-5-245
第5.5.43(1)図	設計用模擬地震波(S_s -1H, S_s -1V)の設計用応答 スペクトルに対する応答スペクトル比	6-5-246
第5.5.43(2)図	設計用模擬地震波(S_s -3-3H, S_s -3-3V)の設計用 応答スペクトルに対する応答スペクトル比	6-5-247
第5.5.44図	基準地震動 S_s -1の時刻歴波形	6-5-248
第5.5.45(1)図	基準地震動 S_s -2の時刻歴波形	6-5-249
第5.5.45(2)図	基準地震動 S_s -2の時刻歴波形	6-5-250
第5.5.45(3)図	基準地震動 S_s -2の時刻歴波形	6-5-251
第5.5.45(4)図	基準地震動 S_s -2の時刻歴波形	6-5-252
第5.5.45(5)図	基準地震動 S_s -2の時刻歴波形	6-5-253
第5.5.45(6)図	基準地震動 S_s -2の時刻歴波形	6-5-254

第5.5.45(7)図	基準地震動Ss-2の時刻歴波形	6-5-255
第5.5.45(8)図	基準地震動Ss-2の時刻歴波形	6-5-256
第5.5.46(1)図	基準地震動Ss-3の時刻歴波形	6-5-257
第5.5.46(2)図	基準地震動Ss-3の時刻歴波形	6-5-258
第5.5.46(3)図	基準地震動Ss-3の時刻歴波形	6-5-259
第5.5.47(1)図	ロジックツリー（敷地前面海域の断層群 （中央構造線断層帯）による地震）	6-5-260
第5.5.47(2)図	ロジックツリー （その他の活断層で発生する地震）	6-5-261
第5.5.47(3)図	ロジックツリー （南海地震・南海トラフの巨大地震）	6-5-262
第5.5.47(4)図	ロジックツリー（領域震源モデル）	6-5-263
第5.5.48図	フラクタイルハザード曲線	6-5-264
第5.5.49図	震源毎のハザード曲線（水平方向）	6-5-265
第5.5.50(1)図	基準地震動Ss-1と一様ハザードスペクトル の比較	6-5-266
第5.5.50(2)図	基準地震動Ss-2と一様ハザードスペクトル の比較	6-5-267
第5.5.51図	基準地震動Ss-3と領域震源による一様ハザード スペクトルの比較	6-5-268
第5.5.52図	中央構造線第二版を踏まえて設定した断層モデル	6-5-269
第5.5.53図	応答スペクトルに基づく評価結果（中央構造線 第二版を踏まえた地震動評価）	6-5-270

第5.5.54図(1)	断層モデルを用いた手法による評価結果 (壇ほか(2011)による手法) (中央構造線 第二版を踏まえた地震動評価)	6-5-271
第5.5.54図(2)	断層モデルを用いた手法による評価結果 (Fujii and Matsu'ura(2000)による手法) (中央構造線第二版を踏まえた地震動 評価)	6-5-272
第5.5.55図	プレート間地震の検討用地震の候補の再評価 (日向灘第二版を踏まえた地震動評価)	6-5-273
第6.1.1図	発電所から半径30km以内の方位別人口分布	6-6-21
第6.1.2図	発電所から半径50km以内の市町村分布	6-6-22
第6.2.1図	発電所から半径2km以内の集落位置	6-6-23
第6.2.2図	発電所から半径10km以内の町村、学校及び 医療機関位置	6-6-24
第6.3.1図	発電所周辺の土地利用状況	6-6-25
第6.4.1図	発電所周辺の鉄道、主要道路及び海上交通	6-6-26
第6.4.2図	発電所周辺の航空路	6-6-27
第7.2.1図	南海道及び近地において津波を引き起こした 地震の震央位置	6-7-53
第7.2.2図	敷地周辺における津波堆積物の報告	6-7-54
第7.3.1(1)図	計算領域及び水深 (1946年昭和南海地震津波 及び南海トラフの巨大地震に伴う津波)	6-7-55
第7.3.1(2)図	計算領域及び水深 (琉球海溝Mw9.0の地震に伴う津波)	6-7-56

第7.3.1(3)図	計算領域及び水深（海域の活断層に想定される地震に伴う津波，火山の山体崩壊に伴う津波，地すべりに伴う津波及び重畳津波）	6－7－57
第7.3.2(1)図	計算領域の格子分割（1946年昭和南海地震津波及び南海トラフの巨大地震に伴う津波）	6－7－58
第7.3.2(2)図	計算領域の格子分割（琉球海溝Mw9.0の地震に伴う津波）	6－7－59
第7.3.2(3)図	計算領域の格子分割（海域の活断層に想定される地震に伴う津波，地すべりに伴う津波及び重畳津波）	6－7－60
第7.3.2(4)図	計算領域の格子分割（火山の山体崩壊に伴う津波）	6－7－61
第7.3.3図	津波シミュレーションによる津波水位の評価地点	6－7－62
第7.4.1図	1946年昭和南海地震のモデル諸元（相田モデル）	6－7－63
第7.4.2図	1946年昭和南海地震津波の痕跡高さと計算波高との比較	6－7－64
第7.4.3図	内閣府検討会の想定津波波源域	6－7－65
第7.4.4図	内閣府検討会の南海トラフの巨大地震に伴う津波のモデル諸元（ケース⑤『「四国沖～九州沖」に大すべり域を設定』）	6－7－66
第7.4.5図	琉球海溝Mw9.0の地震に伴う津波のモデル諸元	6－7－67
第7.4.6図	波源の基準断層モデル（海域の活断層に想定される地震に伴う津波）	6－7－68
第7.4.7(1)図	初期鉛直変位分布（水位上昇側）	6－7－69
第7.4.7(2)図	初期鉛直変位分布（水位下降側）	6－7－70

第7.4.8(1)図	断層の不均質な破壊を考慮した津波波源の モデル諸元（ケース0：アスペリティ上部に 断層平均すべり量の2倍のすべり量を設定す るケース）	6-7-71
第7.4.8(2)図	断層の不均質な破壊を考慮した津波波源の モデル諸元（ケース1：アスペリティ上部及 び背景領域上部に断層平均すべり量の2倍の すべり量を設定するケース）	6-7-72
第7.4.8(3)図	断層の不均質な破壊を考慮した津波波源の モデル諸元（ケース2：アスペリティ上部に 断層平均すべり量の3倍、背景領域上部に2 倍のすべり量を設定するケース）	6-7-73
第7.5.1図	別府湾周辺の第四紀火山及び第四紀火山岩類 分布図	6-7-74
第7.5.2図	鶴見岳周辺の地形分類図	6-7-75
第7.5.3(1)図	火山の山体崩壊に伴う津波（崩壊ケース1）	6-7-76
第7.5.3(2)図	火山の山体崩壊に伴う津波（崩壊ケース2）	6-7-77
第7.5.4図	比高変化分布（火山の山体崩壊に伴う津波）	6-7-78
第7.5.5図	比高変化開始時刻分布 （火山の山体崩壊に伴う津波）	6-7-79
第7.5.6図	敷地周辺の地すべり地形分布図	6-7-80
第7.5.7図	地すべり津波の検討を行う地すべり箇所の 位置図	6-7-81
第7.5.8図	地点①（小島）の地すべり規模の概要	6-7-82

第7.5.9図	地点②(海岬西)・地点③(海岬)の地すべり規模 の概要	6-7-83
第7.5.10図	地点④(亀浦)の地すべり規模の概要	6-7-84
第7.5.11図	地点⑤(立神岩)の地すべり規模の概要	6-7-85
第7.5.12図	比高変化分布 (地すべり津波：地点②(海岬西))	6-7-86
第7.5.13図	比高変化開始時刻分布 (地すべり津波：地点②(海岬西))	6-7-87
第7.7.1(1)図	取放水設備の構造図(海水系取水路)	6-7-88
第7.7.1(2)図	取放水設備の構造図(循環水系取水路)	6-7-89
第7.7.1(3)図	取放水設備の構造図(放水路)	6-7-90
第7.7.2図	基準津波定義地点	6-7-91
第7.7.3(1)図	基準津波定義地点における時刻歴水位	6-7-92
第7.7.3(2)図	基準津波定義地点における時刻歴水位	6-7-93
第7.7.4(1)図	評価地点における最大水位変動量	6-7-94
第7.7.4(2)図	評価地点における最大水位変動量	6-7-95
第7.7.5図	評価地点における時刻歴水位	6-7-96
第7.8.1図	砂移動による最大堆積量	6-7-97
第7.9.1(1)図	ロジックツリー(南海トラフの巨大地震に伴う 津波)	6-7-98
第7.9.1(2)図	ロジックツリー(南海トラフから南西諸島まで の領域を対象とした津波)	6-7-99
第7.9.1(3)図	ロジックツリー(敷地前面海域の断層群(中央 構造線断層帯：海域部)の地震に伴う津波)	6-7-100

第7.9.1(4)図	ロジックツリー（その他の活断層に想定される 地震に伴う津波）	6-7-101
第7.9.2(1)図	平均ハザード曲線（基準津波定義地点）	6-7-102
第7.9.2(2)図	平均ハザード曲線（3号炉敷地前面，3号炉 海水取水口）	6-7-103
第7.9.3(1)図	フラクタイル曲線（基準津波定義地点）	6-7-104
第7.9.3(2)図	フラクタイル曲線（3号炉敷地前面，3号炉 海水取水口）	6-7-105
第8.3.1図	敷地周辺の第四紀火山及び第四紀火山岩類 分布図	6-8-22
第8.3.2図	別府湾周辺の震源分布図	6-8-23
第8.3.3図	敷地周辺における主な降下火砕物の分布図	6-8-24
第8.3.4図	宇和盆地中心部におけるボーリング調査結果	6-8-25
第8.3.5図	九重第一軽石の降下火山灰シミュレーション 結果	6-8-26
第8.3.6図	九重第一軽石の降下火山灰シミュレーション結果 （不確かさの考慮）	6-8-27
第8.3.7図	九重第一軽石の降下火山灰シミュレーション結果 （ 6.2km^3 ）	6-8-28
第8.3.8図	九重第一軽石の降下火山灰シミュレーション結果 （ 6.2km^3 ，不確かさの考慮）	6-8-29
第8.3.9図	宇和盆地における火山灰厚さ頻度分布図	6-8-30
第9.1.1図	伊方発電所を中心とする約 10万km^2 の範囲	6-9-18
第9.1.2図	竜巻検討地域とその近傍での竜巻発生状況	6-9-18
第9.2.1図	竜巻風速の確率分布	6-9-19

第9.2.2図	竜巻被害幅の確率分布	6-9-19
第9.2.3図	竜巻被害長さの確率分布	6-9-19
第9.2.4図	竜巻影響エリア	6-9-20
第9.2.5図	竜巻最大風速のハザード曲線 (海側, 陸側 5 km範囲)	6-9-20
第9.2.6図	竜巻最大風速のハザード曲線 (1 km範囲に細分化した評価)	6-9-21
第9.2.7図	竜巻最大風速のハザード曲線 (面積1/10)	6-9-21
第9.3.1図	数値流体計算の検討ケース	6-9-22
第9.3.2図	最大瞬間風速分布 (西側ケース)	6-9-23
第9.3.3図	最大瞬間風速分布 (南側ケース)	6-9-24

1. 敷 地

1.1 敷地の概況

原子炉施設を設置する敷地は、愛媛県西宇和郡伊方町に属し、八幡浜市の西北西約 12 km で、伊予灘に面した佐田岬半島の付け根に位置する。

佐田岬半島は、東北東-西南西方向に伸びる長さ約 40 km、幅 0.8 km ～ 6 km の細長い半島であって、標高 300m 程度の分水嶺が通った山脈上の地勢を有し、起伏の多い丘陵上の傾斜地からなり、その南側斜面は宇和海に、北側斜面は伊予灘に落ち込んでいる。

敷地の形状は、海岸線方向約 1,500m、奥行き約 700m のおおむね半円形状で標高 200m 前後の山に囲まれた起伏の多い丘陵地である。

敷地面積は約 86 万 m^2 で、3 号炉用地として、1 号及び 2 号炉の東側に海面埋立約 6 万 m^2 を含む約 16 万 m^2 を造成する。

3 号炉は、1 号及び 2 号炉から東へ約 190m で、3 号炉心は北緯 $33^{\circ} 29' 16''$ 、東経 $132^{\circ} 18' 47''$ の位置におく。3 号炉心から敷地境界までの距離は、ほぼ海岸線に沿った東北東方向で約 520m、西南西方向で約 890m、海岸線にほぼ垂直な南南東方向で約 580m であり、最短距離は南東方向で約 500m である。

敷地と潮位の関係は、既往最高潮位 EL+2.88m に対し、敷地造成高を EL+10m にするので異常潮位による被害を受けるおそれはない。

敷地の概況図を第 1.1.1 図に示す。

(注)EL:標高

1.2 その他の概況

敷地内及び前面海域において3号炉に必要な付帯設備は、以下のとおりである。

(1) 取水設備

a. 復水器等冷却用海水取水設備

取 水 口

構 造 鉄筋コンクリート造

取水水深 約 14m～約 20m

直 径 約 22m

取 水 路（1条2連設置）

構 造 鉄筋コンクリート造

内のり寸法 約 4 m×約 4 m／連

延 長 平均長約 170m

b. 原子炉補機冷却水冷却器等冷却用海水取水設備

取 水 口（2孔設置）

構 造 鉄筋コンクリート造

取水水深 約 5 m

内のり寸法 約 2 m×約 2 m

取 水 路（2条設置）

構 造 鉄筋コンクリート造

内のり寸法 約 2 m×約 2 m

延 長 平均長約 40m

(2) 放水設備

復水器，原子炉補機冷却水冷却器等冷却用海水放水設備

放 水 路（4条設置）

構 造	鋼管
直 径	約 3 m
延 長	平均長約 20m

放水口（4 孔設置）

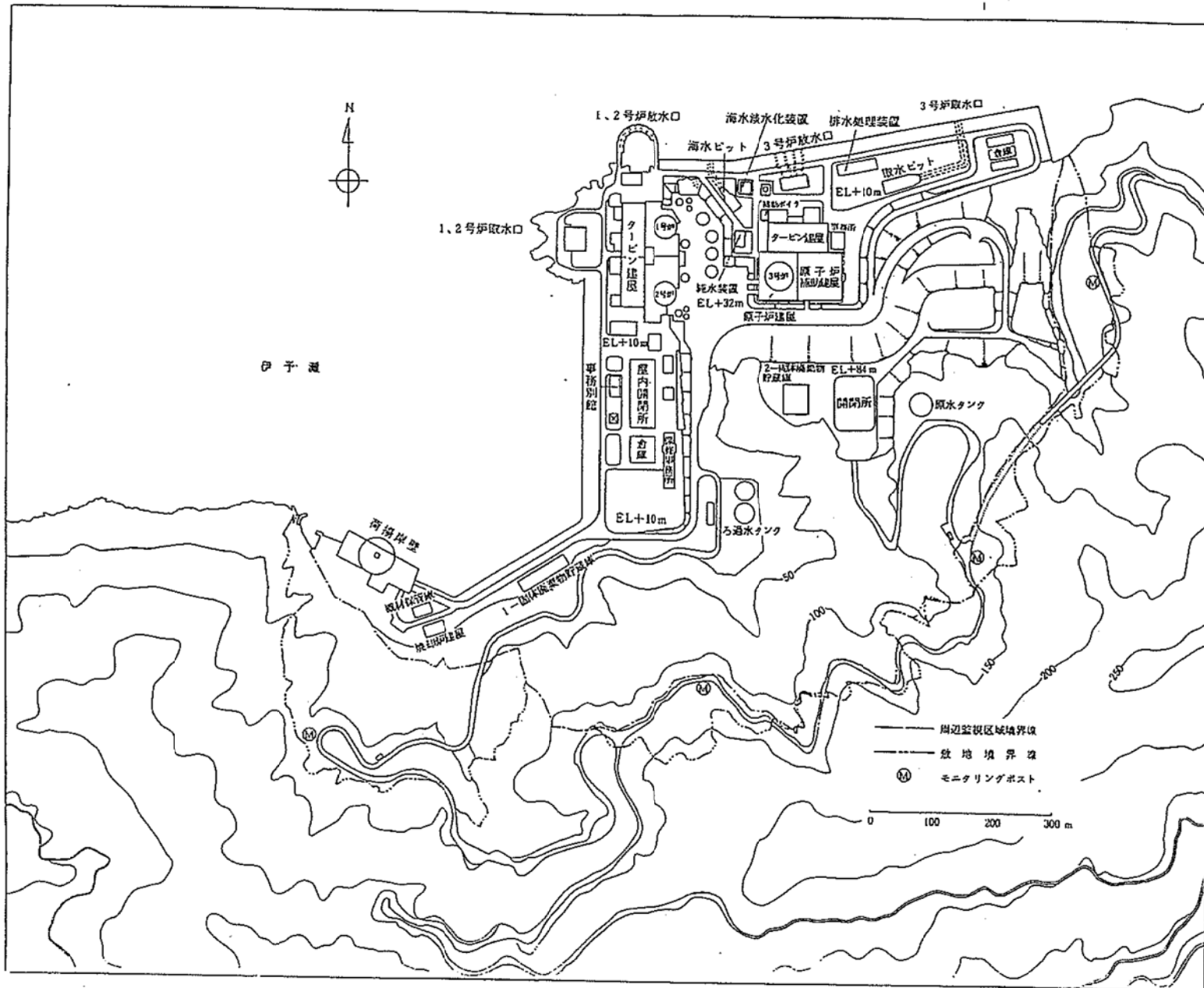
構 造	鉄筋コンクリート造
放水水深	約 6 m
直 径	約 2.2m

(3) 荷揚岸壁（1，2，3 号炉共用，既設）

構 造	コンクリートケーソン重力式 (天端高 EL+4.5m)
能 力	3,000t 級船舶接岸可能
延 長	132m
前面水深	6m～7m

(4) その他

発電所の配置計画に基づき，構内道路，連絡道路，排水設備等を設ける。



第 1.1.1 図 発 電 所 敷 地 概 況 図

2. 気象

2.1 伊方地方の気象

2.1.1 地勢と気象

伊方地方は、愛媛県の西部にある佐田岬半島の付け根に位置する。

この半島は、標高300m程度の分水嶺が通った山脈状の地勢を有し、起伏の多い丘陵状の傾斜地からなる。

また、この地方は、北は伊予灘、南は宇和海に面しており、瀬戸内海地域の半海洋性半内陸性気候区と愛媛県南西部及び高知県などの太平洋沿岸地域の気候区との接合点に位置しているため、両気候区の性質を兼ね備えている。

この地方の年平均気温は約16℃で、暑さ寒さとも著しい変化はない。年降水量は、1,300mm～1,700mm程度であり、四国ではやや少ない地域にあたる。

2.1.2 四国の気候⁽¹⁾

(1) 春

3月に入ると、冬季に卓越していた北西の季節風が弱まり、高・低気圧の去来に伴い雨もよく降り、次第に暖かくなる。4月から5月にかけては、低気圧や前線の影響でしばしば霧が発生し、また、高気圧に伴う放射霧も発生しやすい。

(2) 夏

夏季に入る前に梅雨の候があり、平年の入梅は6月11日頃である。梅雨期の降水量は年間を通じて最も多い。梅雨が明けると暑い晴天の日が続く、海陸風が卓越する。気温は8月が最も高く、7月がこれに次ぐ。

(3) 秋

小笠原高気圧は弱くなって、低気圧と高気圧が交互に東進することが多くなり、天気は周期的に変化する。また、台風の進路によって、一時的に多量の降水をみることがあり、9月には、梅雨期の6月、7月に次ぐ降水がある。11月に入るとすでに冬の兆しがあり、北西ないし北の季節風と共に気温の低下も大きくなる。

(4) 冬

大陸の高気圧が発達して、北西ないし北の季節風が卓越する。気温は1月から2月にかけて最低となるが、比較的温暖である。また、曇天や時雨の日が多いが、降水は非常に少ない。

2.2 最寄りの気象官署等の資料による一般気象

2.2.1 気象官署所在地の状況

原子炉施設の一般的設計条件及び異常年検定の資料とするため、最寄りの気象官署の気象資料を用いた。

対象とした気象官署は松山地方気象台及び宇和島測候所の2箇所で、各気象官署の位置及び観測種目を第2.2.1表及び2.2.1図に示す。

松山地方気象台は、伊予灘に面した松山市内の平たん地にある。

宇和島測候所は、宇和海に面した宇和島市内にある。

2.2.2 松山、宇和島各気象官署を選んだ理由

敷地における気象観測期間が、十分長期間の気象を代表しているかどうかを検定するため及びこの地方の一般気象を知るため、長期間通年観測が行われている気象官署の資料が必要である。

最寄りの気象官署としては、松山地方気象台及び宇和島測候所がある。これらの2気象官署は、気候的にもまた立地条件の上からも敷地に比較的類似しており、更に、よく管理された長期間の観測資料が得られている。敷地の局地的気象を推定し、原子炉施設の一般的設計条件として必要な気象データを得るために、最寄りの気象官署の松山地方気象台及び宇和島測候所の資料を用いることにした。

2.2.3 最寄りの気象官署における一般気象

(1) 一般気象

松山地方気象台及び宇和島測候所における一般気象に関する統計を第2.2.2表及び第2.2.3表に示す⁽²⁾。

この地方に影響を与えた主な台風を第2.2.4表及び第2.2.5表に示す。

2 気象官署の年平均気温，最高気温，最低気温は，ほぼ等しい値を示している。

(2) 極 値

第2.2.6表～第2.2.15表に示す最寄りの気象官署の観測記録からみれば，この地域は必ずしも厳しい気象条件が現れる所ではなく，温かな気候をもっている。

松山地方気象台の観測記録（1951年～2012年）によれば，最大瞬間風速37.1m/s（2004年9月7日），最低気温-5.3℃（1977年2月16日），日最大1時間降水量60.5mm（1992年8月2日）及び最大積雪量14cm（1984年1月31日）である。

宇和島特別地域気象観測所（2005年9月まで宇和島測候所）の観測記録（1951年～2012年）によれば，最大瞬間風速は72.3m/s（1964年9月25日），最低気温-6.2℃（1977年2月19日），日最大1時間降水量76.5mm（2011年6月20日），最大積雪量23cm（1967年12月30日）である。

2.2.4 その他の資料による一般気象

森林火災の検討に係る最寄りの気象庁観測所の気象データ（気温，風速，卓越風向，湿度）（2003～2012年）及び愛媛県の森林火災発生状況（1999～2010年）について，第2.2.16表に示す。

2.3 敷地における気象観測

発電所の安全解析に使用する気象条件を決める際の資料を得るため、「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」（以下「気象指針」という。）に基づき、発電所敷地内で、風向、風速、日射量、放射収支量等の観測を行っている。

本申請書では、2001年1月から2001年12月までの観測データを使用した。

以上の観測に使用した気象測器の種類、観測位置及び観測期間を第2.3.1表に、観測点位置を第2.3.1図及び第2.3.2図に示す。

2.3.1 気象観測点の状況

(1) 排気筒高さ付近の風向風速を代表する観測点（開閉所地点）

排気筒高さ付近を代表する風向風速の資料を得るため、敷地内の平地（標高10m）に高さ約70m（標高約80m）の鉄塔を設置し、観測を行った。この観測点は周囲の障害物の影響を受けないため、排気筒高さ付近の風向風速を代表している。

(2) 地上風を代表する観測点（取水口地点）

敷地を代表する地上風の資料を得るため、敷地内の平地（標高10m）に高さ約10m（標高約20m）の観測柱を設置し、観測を行った。この観測点は周囲の障害物の影響を受けにくい平坦地であるので、敷地の地上風を代表する地点である。

(3) 大気安定度を求めるための風速、日射量及び放射収支量の観測点（取水口地点、平谿地点）

大気安定度を求めるには、風速、日射量及び放射収支量が必要である。風速については、地上風を代表する観測点（取水口地点）で測定した値を使用した。日射量及び放射収支量については、敷地内に設置

した露場（標高約125m）の観測点（平濬地点）で測定した値を使用した。

2.3.2 気象観測項目

風向，風速：開閉所地点，取水口地点

日 射 量：平濬地点

放射収支量：平濬地点

降 水 量：平濬地点

気 温：平濬地点

湿 度：平濬地点

（各観測点の位置については第2.3.1図及び第2.3.2図参照）

2.3.3 気象測器

気象測器は，第2.3.1表に示しているが，「気象業務法」に基づく気象庁検定を受けたものである。

なお，放射収支計は，気象庁の検定項目にないため，年間1回程度準器による校正を行った。

2.4 敷地における気象観測結果

2.4.1 敷地を代表する風

敷地の地上風を代表する敷地内の平地（第2.3.1図，取水口地点）における1年間の観測結果及び排気筒高さ付近の風を代表する敷地内の平地（第2.3.1図，開閉所地点）における1年間の観測結果を以下に示す。

なお，風向及び風速の観測値を統計整理するに当たって，風速が0.5m/s未満のものは静穏として取り扱っている。

(1) 風 向

第2.4.1図から第2.4.5図に，標高約20m及び標高約80mにおける年間及び月別の風配図を示す。

標高約20mにおける風向分布は，年間を通じ北北東の風が多くなっている。

標高約80mにおける風向分布は，年間を通じ北東の風が多くなっている。

第2.4.6図に，標高約20m及び標高約80mにおける年間の低風速（0.5～2.0m/s）時の風配図を示す。

標高約20mにおける風向分布は，年間を通じ北北東の風が多くなっている。

標高約80mにおける風向分布は，年間を通じ北東の風が多くなっている。

(2) 風 速

標高約20m及び標高約80mにおける年間及び月別の風速別出現頻度並びに年間の風速別出現頻度累積を第2.4.7図から第2.4.12図に示す。

これによれば，標高約20mでは年平均風速が4.2m/sで，標高約80mでは年平均風速が4.6m/sであり，0.5m/s以上の範囲に幅広く分布して

いる。

また、標高約20m及び標高約80mにおける静穏状態（風速0.5m/s未満）の年間出現頻度は、それぞれ1.9%、2.6%である。

(3) 同一風向継続時間

標高約20m及び標高約80mにおける年間風向継続時間を第2.4.1表及び第2.4.2表に示す。

標高約20mにおいて長期継続する傾向の強い風向は、北北東、南南東、北西及び北北西であり、最長の継続時間は風向が北北東の場合である。各風向とも継続時間は8時間以内がほとんどであり、全体の98.0%を占めている。

標高約80mにおいて長期継続する傾向の強い風向は、北東、南東及び北西であり、最長の継続時間は風向が北東の場合である。各風向とも継続時間は8時間以内がほとんどであり、全体の98.3%を占めている。

また、各標高における静穏状態の継続時間は2時間以内がほとんどであり、標高約20mでは99.3%、標高約80mでは94.5%が2時間以内の継続である。

2.4.2 大気安定度

(1) 大気安定度の分類と出現頻度

日射量、放射収支量及び地上高約10m（標高約20m）の風速の観測資料を基に「気象指針」に従って大気安定度の分類を行った。

年間及び月別の大気安定度出現頻度を第2.4.13図に、並びに大気安定度別の標高約20m及び標高約80mの風配図を第2.4.14図及び第2.4.15図に示す。

年間の出現頻度は、A型からC型は20.0%、D型（C－D型も含む）は64.5%、E型からG型は15.5%になっている。

D型は年間を通じて出現頻度が多く、A型からC型は4月から9月にかけて比較的多くなっており、E型からG型は9月及び11月に多くなっている。

標高約20mにおける風向別では、A・B・C型及びD型は北北東、E・F・G型は南南東の風のとくに多く現れている。

標高約80mにおける風向別では、A・B・C型、D型及びE・F・G型ともに北東の風のとくに多く現れている。

大気安定度の継続時間別出現回数を第2.4.3表に示す。

A・B・C型、D型、E・F・G型が10時間以上継続する頻度は各々0%、22.6%、1.2%となっている。

2.4.3 観測結果からみた敷地の気象特性

敷地における気象観測資料を解析した結果によると、敷地の気象特性として次のような点が挙げられる。

- (1) 風向は北東及び北北東の風が多く出現している。また、敷地付近は風が強く、低風速の出現頻度が少ない。
- (2) 静穏が発生しても、それが継続することは少ない。
- (3) 大気安定度は、D型の出現頻度が多い。

2.5 安全解析に使用する気象条件

安全解析に使用する気象条件は、「2.3 敷地における気象観測」及び「2.4 敷地における気象観測結果」に述べた気象資料を使用し、「気象指針」に従って統計整理し求めた。

2.5.1 観測期間の気象条件の代表性の検討

敷地において観測した2001年1月から2001年12月までの1年間の気象資料により安全解析を行うに当たり、観測を行った1年間の気象状態が長期間の気象状態と比較して特に異常でないかどうかの検討を行った。

風向出現頻度及び風速出現頻度について、開閉所地点の標高約80mにおける10年間（1991年1月～2000年12月）の資料により検定を行った。

検定法は、不良標本の棄却検定に関するF分布検定の手順に従った。

その結果を第2.5.1表及び第2.5.2表に示すが、有意水準5%で棄却された項目はなかった。

これは安全解析に使用した観測期間の気象状態が長期間の気象状態と比較して特に異常でないことを示しており、この期間の気象資料を用いて平常運転時並びに事故、重大事故及び仮想事故時の線量の計算を行うことは妥当であることを示している。

2.5.2 大気拡散の計算に使用する放出源の有効高さ⁽³⁾

排気筒から放出される放射性物質が敷地周辺に及ぼす影響を評価するに当たって、大気拡散の計算に使用する放出源の有効高さは、建屋及び敷地周辺の地形の影響を考慮するため、以下のような風洞実験により求める。

平常運転時の風洞実験においては、縮尺1/1,500の建屋及び敷地周辺

の地形模型を用い，排気筒高さに吹上げ高さを加えた高さからガスを排出し，風下地点における地表濃度を測定する。

この場合の吹上げ高さは（6－1）式により計算する。

$$\Delta H = 3 \frac{W}{U} \cdot D \quad \dots\dots\dots (6-1)$$

ここで，

ΔH ：吹上げ高さ (m)

W ：吹出し速度 (m/s)

D ：排気筒出口直径 (m)

U ：風速 (m/s)

また，次表に排気筒の地上高，出口直径及び吹出し速度を示す。

	排気筒地上高 (m)	出口直径 (m)	吹出し速度 (m/s)
3号炉排気筒	約 73	約 1.4	約 21

地形模型実験で得られた地表濃度の値が，排気筒高さを変えて行う平地実験による地表濃度の値に相当する排気筒高さを放出源の有効高さとする。

排気筒高さは設計では地上高約73mであるが，以上の風洞実験により平常運転時の線量評価に用いる放出源の有効高さは第2.5.3表のとおりとする。

事故時並びに重大事故及び仮想事故時において，「原子炉冷却材喪失」，「燃料集合体の落下」及び「制御棒飛び出し」では，排気筒高さに吹上げ高さを考慮せずに上記と同様の風洞実験を行い，放出源の有効高さを

第2.5.3表のとおりとし、また、「放射性気体廃棄物処理施設の破損」及び「蒸気発生器伝熱管破損」では地上放出とし、放出源の有効高さを0 mとする。

2.5.3 大気拡散の計算に使用する気象条件

(1) 平常運転時

発電所の平常運転時に放出される放射性気体廃棄物の敷地周辺に及ぼす影響を評価するに当たっては、敷地内における2001年1月から2001年12月までの1年間の風向、風速及び大気安定度の観測資料から以下に示すパラメータを求め、これを用いる。風向及び風速については排気筒高さ付近の風を代表する標高約80m（地上高約70m）の風向及び風速とする。

なお、静穏時については、風速は0.5m/sとし、風向別大気安定度別出現回数は、静穏時の大気安定度別出現回数を風速0.5～2.0m/sの風向出現頻度に応じて比例配分して求める。

また、欠測については、欠測を除いた期間について得られた統計が、欠測期間についても成り立つものとする。

a. 風向別大気安定度別風速逆数の総和及び平均

風向別大気安定度別風速逆数の総和及び平均は（6－2）式及び（6－3）式によりそれぞれ計算する。

$$S_{d,s} = \sum_{i=1}^N \frac{\delta_i}{U_i} \dots\dots\dots (6-2)$$

$$\overline{S}_{d,s} = \frac{1}{N_{d,s}} \cdot S_{d,s} \dots\dots\dots (6-3)$$

ここで,

$S_{d, s}$: 風向別大気安定度別風速逆数の総和 (s/m)

$\overline{S}_{d, s}$: 風向別大気安定度別風速逆数の平均 (s/m)

N : 実観測回数 (回)

U_i : 時刻 i における風速 (m/s)

$_{d, s} \delta_i$: 時刻 i において風向 d , 大気安定度 s の場合

$$_{d, s} \delta_i = 1$$

その他の場合

$$_{d, s} \delta_i = 0$$

$N_{d, s}$: 風向 d , 大気安定度 s の総出現回数 (回)

b. 風向出現頻度

風向出現頻度は (6-4) 式及び (6-5) 式によりそれぞれ計算する。

$$f_d = \sum_{i=1}^N \frac{_{d} \delta_i}{N} \times 100 \quad \dots\dots\dots (6-4)$$

$$f_{dT} = f_d + f'_d + f''_d \quad \dots\dots\dots (6-5)$$

ここで,

f_d : 風向 d の出現頻度 (%)

N : 実観測回数 (回)

$_d \delta_i$: 時刻 i において風向が d の場合

$$_d \delta_i = 1$$

その他の場合

$$_d \delta_i = 0$$

f'_d, f''_d : 風向 d に隣接する風向 d' , d'' の出現頻度 (%)

f_{dT} : 風向 d, d', d'' の出現頻度の和 (%)

以上の計算から求めた風向別大気安定度別風速逆数の総和を第2.5.4表に、風向別大気安定度別風速逆数の平均及び風向別風速逆数の平均を第2.5.5表に、風向出現頻度及び風速0.5～2.0m/sの風向出現頻度を第2.5.6表に示す。

(2) 事故時並びに重大事故及び仮想事故時

事故時並びに重大事故及び仮想事故時に放出される放射性物質が、敷地周辺の公衆に及ぼす影響を評価するに当たって、放射性物質の拡散状態を推定するために必要な気象条件については、現地における出現頻度からみて、これより悪い条件がめったに現れないと言えるものを選ばなければならない。

そこで、線量の評価に用いる放射性物質の相対濃度（以下「 χ/Q 」という。）を、標高約20m及び標高約80mにおける2001年1月から2001年12月までの1年間の観測データを使用して求めた。すなわち、（6－6）式に示すように、風向、風速、大気安定度及び実効放出継続時間を考慮した χ/Q を陸側方位について求め、方位別にその値の小さい方からの累積度数を年間のデータ数に対する出現頻度（％）として表わすことにする。横軸に χ/Q を、縦軸に累積出現頻度を取り、着目方位ごとに χ/Q の累積出現頻度分布を描き、この分布から、累積出現頻度が97％に当たる χ/Q を方位別に求める。

ただし、 χ/Q の計算の着目地点は、各方位とも3号炉心から最短距離となる敷地境界外とし、着目地点以遠で χ/Q が最大になる場合は、その χ/Q を着目地点における当該時刻の χ/Q とする。

$$\chi/Q = \frac{1}{T} \sum_{i=1}^T (\chi/Q)_i \cdot \delta_i \quad \cdots \cdots \cdots (6-6)$$

ここで,

χ/Q : 実効放出継続時間中の相対濃度 (s/m³)

T : 実効放出継続時間 (h)

$(\chi/Q)_i$: 時刻 i における相対濃度 (s/m³)

δ_i : 時刻 i において風向が当該方位にあるとき

$$\delta_i = 1$$

時刻 i において風向が他の方位にあるとき

$$\delta_i = 0$$

ここで, 「原子炉冷却材喪失」, 「燃料集合体の落下」及び「制御棒飛び出し」での $(\chi/Q)_i$ の計算に当たっては, (6-7) 式により行う。

$$(\chi/Q)_i = \frac{1}{\pi \cdot \sigma_{yi} \cdot \sigma_{zi} \cdot U_i} \cdot \exp\left(-\frac{H^2}{2\sigma_{zi}^2}\right) \quad \cdots (6-7)$$

ここで,

σ_{yi} : 時刻 i における濃度分布の y 方向の拡がりのパラメータ (m)

σ_{zi} : 時刻 i における濃度分布の z 方向の拡がりのパラメータ (m)

U_i : 時刻 i における風速 (m/s)

H : 放出源の有効高さ (m)

また, 「放射性気体廃棄物処理施設の破損」及び「蒸気発生器伝熱管破損」での $(\chi/Q)_i$ の計算に当たっては, 建屋等の影響を考慮して (6-8) 式により行う。

$$(\chi/Q)_i = \frac{1}{\pi \cdot \Sigma_{y i} \cdot \Sigma_{z i} \cdot U_i} \cdot \exp\left(-\frac{H^2}{2 \Sigma_{z i}^2}\right) \quad \cdots (6-8)$$

$$\Sigma_{y i} = (\sigma_{y i}^2 + C \cdot A / \pi)^{1/2}$$

$$\Sigma_{z i} = (\sigma_{z i}^2 + C \cdot A / \pi)^{1/2}$$

ここで、

A : 建屋等の風向方向の投影面積 (m²)

C : 形状係数

方位別 χ/Q の累積出現頻度を求めるとき、静穏の場合には風速を 0.5m/s として計算し、その風向は静穏出現前の風向を使用する。

実効放出継続時間としては、よう素の事故期間中の全放出量を 1 時間当たりの最大放出量で除して求めた第 2.5.7 表及び第 2.5.8 表に示す値を用いる。

建屋等の風向方向の投影面積としては、計算の便宜上、最小投影面積である 3,500m² を使用し、形状係数としては 0.5 を用いる。

また、放射性雲からの γ 線による空気カーマについては、 χ/Q の代わりに空間濃度分布と γ 線による空気カーマ計算モデルを組み合わせた相対線量（以下「D/Q」という。）を用いて同様に求める。この場合の実効放出継続時間としては、希ガスの事故期間中の全放出量を 1 時間当たりの最大放出量で除して求めた第 2.5.7 表及び第 2.5.8 表に示す値を用いる。ただし、実効放出継続時間が 8 時間を超える場合においても、方位内で風向軸が一定と仮定して計算する。 γ 線による空気カーマ計算には、添付書類九の（9-7）式を使用する。

以上の方法により、陸側方位について求めた方位別 χ/Q 及び D/Q の累積出現頻度を第 2.5.1 図から第 2.5.10 図に示す。

また，累積出現頻度が97％に当たる方位別 χ/Q 及び D/Q を第2.5.7表及び第2.5.8表に示す。

2.6 敷地における特別観測

敷地及びその周辺の気象特性に関する資料（上層風及び気温差）を得るため、敷地内で昭和57年10月から四季にわたって気球観測を行った。

観測に使用した気象側器の種類、観測位置及び観測期間を第2.3.1表に、観測点位置を第2.3.1図に示す。観測点位置は周囲の障害物の影響を受けない平たん地であるので上層の気象特性を代表する地点である。

2.6.1 上層風

気象観測の結果を第2.6.1図に示す。

排気筒高さ付近の風向分布及び平均風速の測定値は、開閉所地点で測定した値とかなりよい対応をしている。

2.6.2 気温差

気球測定の結果を第2.6.1表に示す。

大気温度の鉛直分布の測定値は、開閉所地点で測定した値とかなりよい対応をしている。

また、排気筒高さ付近における上層逆転の出現頻度は11%程度であり、その継続時間は6時間以内である。

第 2.2.1 表 気象官署の所在地及び観測種目

気象官署名	所在地	北緯	東経	標高	創立年月日	観測種目
松山地方気象台	松山市北持田町 102 (敷地北東約 55 km)	33°50′	132°47′	33.6 m	昭和 3 年 7 月 1 日 現在の位置で開始	気象全般
宇和島測候所	宇和島市住吉町 2 丁目 5 - 1 (敷地南東約 38 km)	33°14′	132°33′	42.6 m	大正 11 年 4 月 15 日	気象全般

第 2. 2. 2 表 気 候 表 (1)

松山地方気象台（「日本気候表」による）

要素		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年	統 計 期 間
平 均 気 温		℃	5.3	5.7	8.6	13.9	18.0	21.7	26.2	27.0	23.3	17.7	12.5	7.7	15.6	1951~1980
日 最 高 気 温 の 平 均		℃	9.2	10.0	13.4	18.9	23.0	26.1	30.5	31.7	28.0	22.8	17.5	12.2	20.3	"
日 最 低 気 温 の 平 均		℃	1.5	1.6	4.0	9.2	13.4	18.0	22.7	23.3	19.6	13.3	8.0	3.5	11.5	"
日 最 高 気 温 の 最 高		℃	11.9	12.8	15.5	22.7	24.7	28.0	32.6	33.2	30.7	25.0	19.6	14.3	21.1	"
日 最 低 気 温 の 最 低		℃	-0.3	-1.3	1.2	6.8	12.3	16.1	21.2	22.1	16.7	11.5	6.2	1.3	10.6	"
平 均 湿 度		%	66	67	66	69	71	76	76	74	75	71	70	68	71	"
日 最 小 湿 度 の 最 小		%	26	20	16	7	15	14	35	27	23	22	25	27	7	1950~1980
平 均 風 速		m/s	2.7	2.4	2.4	2.1	2.0	1.9	1.9	2.0	1.9	2.0	2.2	2.3	2.2	1961~1974
最 大 風 速	風 速	m/s	16.3	20.1	16.5	17.9	14.9	21.0	21.0	23.2	25.4	20.1	19.0	18.0	25.4	1890~1980
	風 向	16方位	WNW	NW	SW	W	SE	SE	S	NNE	SSE	S	WSW	W	SSE	"
月 間 降 水 量		mm	51.6	58.4	84.7	136.3	129.9	227.5	180.8	100.8	156.2	97.1	69.3	44.0	1,336.7	1951~1980
日 降 水 量 の 最 大		mm	36.3	49.4	65.9	128.5	108.0	168.5	215.1	102.5	152.5	156.9	51.0	64.7	215.1	1890~1980
月 間 日 照 時 間		h	132.0	144.1	187.4	187.3	201.6	168.2	208.9	234.1	177.1	186.3	165.4	141.0	2,133.4	1951~1980
階 級 別 日 数	最 低 気 温 < 0	℃	10.2	9.9	3.8	0.1	—	—	—	—	—	—	—	2.8	26.7	"
	最 高 気 温 ≥ 25	℃	—	—	0.0	1.4	7.8	20.2	29.5	30.8	24.8	6.9	0.2	—	121.7	"
	最 高 気 温 ≥ 30	℃	—	—	—	—	0.1	2.6	20.1	26.0	8.4	0.1	—	—	57.3	"
	日 降 水 量 ≥ 1mm		7.2	7.5	9.6	10.6	10.3	12.2	10.4	6.9	9.6	7.6	6.9	6.4	105.3	"
	日 降 水 量 ≥ 10mm		1.9	2.1	3.3	4.5	4.4	6.2	4.9	2.9	4.4	3.0	2.4	1.6	41.5	"
	日 降 水 量 ≥ 30mm		0.0	0.1	0.2	1.1	0.9	2.3	1.9	1.0	2.0	0.8	0.5	—	10.8	"
	日 平 均 雲 量 < 2.5		3.2	3.8	5.0	4.9	4.9	1.9	4.3	4.4	4.3	7.7	6.6	4.3	55.0	1961~1980
	日 平 均 雲 量 ≥ 7.5		13.2	11.4	11.7	14.3	15.9	19.7	15.3	11.5	13.5	11.5	10.5	12.2	160.4	"
	最 大 風 速 ≥ 10m/s		0.3	—	0.2	0.2	—	—	—	—	0.5	0.3	—	—	1.5	1975~1980
大 気 現 象 日 数	不 照		3.2	3.9	4.3	5.0	4.8	5.8	3.4	1.7	3.9	3.4	3.2	2.9	45.4	1951~1980
	雪		5.9	5.1	1.2	0.0	—	—	—	—	—	—	0.1	1.9	14.3	"
	霧		0.6	0.9	1.2	3.1	3.0	3.4	1.3	0.1	0.3	0.5	0.3	0.2	14.9	"
	雷		0.3	0.2	0.7	0.8	0.7	1.3	2.7	2.3	1.6	0.6	0.5	0.3	12.2	"
霜 雪 の 時 期			初霜 11月22日		終霜 4月4日		初雪 12月21日		終雪 3月7日							"

第 2. 2. 3 表 気 候 表 (2)

宇和島測候所 (「日本気候表」による)

要素		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年	統計期間	
平均気温℃			6.0	6.8	9.6	14.7	18.4	21.8	26.0	26.7	23.5	18.0	13.1	8.4	16.1	1951~1980	
日最高気温の平均℃			11.0	12.2	15.6	20.3	23.7	26.4	30.7	32.0	28.8	23.9	19.2	13.9	21.5	〃	
日最低気温の平均℃			2.1	2.5	4.8	10.0	13.9	18.2	22.5	23.1	19.8	13.6	8.6	4.3	11.9	〃	
日最高気温の最高℃			14.1	15.2	17.5	23.1	25.1	27.9	33.0	34.1	31.6	26.6	21.1	16.7	22.6	〃	
日最低気温の最低℃			0.4	-0.3	2.0	7.6	12.4	16.5	20.7	22.1	16.8	11.2	6.8	1.8	10.9	〃	
平均湿度%			68	68	68	73	75	81	81	80	80	76	73	70	74	〃	
日最小湿度の最小%			24	17	17	10	20	26	41	37	30	24	29	28	10	1950~1980	
平均風速m/s			3.8	3.3	3.1	2.5	2.3	2.0	2.1	2.2	2.0	2.1	2.6	3.1	2.6	1961~1974	
最大風速	風速m/s		28.4	23.8	24.1	22.5	19.1	31.7	20.7	30.0	32.7	26.4	22.6	24.7	32.7	1922~1980	
	風向16方位		WNW	NW	NW	WNW	NNW	E	ENE	WSW	W	SSE	WNW	WNW	W	〃	
月間降水量mm			67.8	79.9	98.8	156.3	147.1	264.4	207.2	207.3	214.6	111.1	82.6	61.7	1,698.9	1951~1980	
日降水量の最大mm			43.8	46.5	52.8	176.9	110.8	168.6	390.6	287.3	266.8	175.3	72.5	67.2	390.6	1922~1980	
月間日照時間h			114.9	133.4	180.7	177.8	190.1	158.9	209.7	229.1	179.1	180.4	158.2	123.7	2,035.9	1951~1980	
階級別日数	最低気温<0℃		7.5	7.1	2.7	0.1	—	—	—	—	—	—	—	2.0	19.4	〃	
	最高気温≥25℃		—	—	0.1	2.3	10.7	21.2	29.8	30.9	26.5	12.2	1.0	—	134.6	〃	
	最高気温≥30℃		—	—	—	—	0.1	3.1	20.3	25.9	11.1	0.4	—	—	60.9	〃	
	日降水量≥1mm		9.6	9.6	10.1	11.4	10.9	13.4	11.2	9.6	9.8	7.8	7.1	8.7	119.1	〃	
	日降水量≥10mm		2.1	2.5	3.7	5.3	5.2	6.9	5.7	4.1	4.8	3.2	2.7	2.0	48.2	〃	
	日降水量≥30mm		0.3	0.4	0.4	1.3	1.2	2.6	2.2	2.1	2.0	1.0	0.7	0.1	14.2	〃	
	日平均雲量<2.5		3.7	4.0	5.9	5.9	4.8	2.2	4.1	5.0	5.5	8.5	8.2	4.7	62.2	1961~1980	
	日平均雲量≥7.5		16.3	14.1	11.6	15.2	17.5	20.4	14.8	11.8	13.9	11.6	11.3	14.0	172.2	〃	
	最大風速≥10m/s		9.5	5.8	4.5	1.3	0.8	0.2	—	0.5	0.7	1.3	2.2	5.0	31.8	1975~1980	
大気現象日数	不照		3.9	3.6	4.2	6.0	5.8	7.2	3.3	1.8	3.7	3.9	3.5	3.9	50.7	1951~1980	
	雪		6.8	5.0	1.4	0.0	—	—	—	—	—	—	0.2	2.7	16.2	〃	
	霧		0.5	0.5	0.8	1.4	1.1	1.3	0.3	0.0	0.3	0.2	0.2	0.3	7.0	〃	
	雷		0.3	0.2	0.7	0.6	0.7	1.3	2.4	3.1	1.8	0.5	0.3	0.2	12.0	〃	
霜雪の時期			初霜 11月25日 終霜 3月31日 初雪 12月21日 終雪 3月5日														〃

第 2. 2. 4 表 松山地方における主な台風

統計期間：1951～1980

順位	最低気圧(mb)	起 年 月 日	記 事
1	967.1	1951. 10. 14	台風番号 5115 (ルース)
2	968.3	1954. 9. 26	〃 5415 (とうや丸)
3	970.9	1970. 8. 21	〃 7010
4	972.0	1961. 9. 16	〃 6118 (第二室戸)
5	972.4	1954. 9. 13	〃 5412 (ジューン)
6	974.6	1954. 8. 18	〃 5405 (グレイス)
7	974.9	1964. 9. 25	〃 6420 (ウイルダ)
8	976.1	1974. 9. 1	〃 7417
9	977.3	1959. 8. 8	〃 5906 (エレン)
10	979.5	1980. 9. 11	〃 8013

(注1) 採用した台風は松山地方に影響を与えたもの。

最低気圧は松山地方気象台におけるもの。

(注2) 台風番号は5115の場合、51は西暦1951年を表わし、15は当該年での台風発生順番を表わす。

(関連頁 6-2-3)

第 2. 2. 5 表 宇和島地方における主な台風

統計期間：1951～1980

順位	最低気圧(mb)	起 年 月 日	記 事
1	965.5	1964. 9. 25	台風番号 6420 (ウイルダ)
2	966.8	1975. 8. 17	" 7505
3	966.8	1961. 9. 16	" 6118 (第二室戸)
4	970.9	1951.10.14	" 5115 (ルース)
5	971.3	1954. 9. 26	" 5415 (とうや丸)
6	971.4	1970. 8. 21	" 7010
7	971.7	1954. 8. 18	" 5405 (グレイス)
8	972.3	1954. 9. 13	" 5412 (ジューン)
9	972.6	1959. 8. 8	" 5906 (エレン)
10	978.3	1965. 9. 10	" 6523

(注1) 採用した台風は宇和島地方に影響を与えたもの。

最低気圧は宇和島測候所におけるもの。

(注2) 台風番号は6420の場合、64は西暦1964年を表わし、20は当該年での台風発生順番を表わす。

第 2.2.6 表 日最高・日最低気温の累年順位(1)

松山地方気象台
統計期間：1951～2012

月 順位			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年
日 最 高 気 温	1	値 (℃)	20.3	24.5	27.5	31.1	31.2	35.6	37.0	36.7	35.8	32.9	28.0	22.3	37.0
		起年日	1997 1	1954 27	2010 20	1983 28	1991 26	2011 24	1994 22	2006 8	2010 1	1961 6	1977 1	1968 3	1994 7月22日
	2	値 (℃)	20.3	23.9	26.8	29.9	31.2	35.1	36.9	36.7	35.7	31.9	27.3	21.8	36.9
		起年日	1969 27	2004 22	1979 30	1964 6	1982 13	2009 22	2004 30	2002 7	1958 5	1998 1	1987 2	1982 11	2004 7月30日
	3	値 (℃)	19.3	23.5	24.4	29.1	30.9	35.1	36.9	36.5	35.5	31.9	26.8	21.3	36.9
		起年日	2010 20	1987 11	2007 31	1964 22	2009 21	2004 20	1994 16	2010 18	1958 6	1961 4	1977 8	1984 10	1994 7月16日
日 最 低 気 温	1	値 (℃)	-5.0	-5.3	-3.5	-1.4	4.3	10.2	15.5	16.4	9.6	4.5	0.2	-3.1	-5.3
		起年日	1963 26	1977 16	1984 1	1972 2	1957 3	1978 1	1966 4	1956 20	1965 29	1986 31	1956 17	1985 18	1977 2月16日
	2	値 (℃)	-4.8	-5.2	-3.3	-0.8	5.4	10.6	15.7	16.7	11.1	4.8	0.4	-2.6	-5.2
		起年日	1967 16	1984 8	1957 15	1961 10	1980 2	1957 9	1969 10	1956 26	1951 21	1958 28	1970 30	1966 28	1984 2月8日
	3	値 (℃)	-4.8	-5.2	-2.9	-0.2	5.4	11.1	16.6	17.1	11.2	5.3	0.7	-2.4	-5.2
		起年日	1963 16	1977 18	1977 5	1957 3	1958 13	1981 2	1982 1	1956 19	1987 28	1997 31	1956 28	1980 30	1977 2月18日

第 2.2.7 表 日最高・日最低気温の累年順位(2)

宇和島特別地域気象観測所
統計期間：1951～2012

月 順位		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年	
日 最 高 気 温	1	値 (℃)	22.5	23.7	26.8	28.8	31.4	34.3	38.2	38.4	36.1	32.7	28.2	24.3	38.4
		起年日	1988 21	1979 21	1979 30	1983 27	2004 30	2001 25	1958 31	1969 12	1959 16	1961 19	1958 14	2004 4	1969 8月12日
	2	値 (℃)	22.3	23.3	26.0	28.7	31.2	34.2	37.1	37.9	35.5	32.5	28.1	23.8	38.2
		起年日	1969 28	1958 23	1954 27	1955 12	1997 5	2011 25	1958 30	1969 13	1967 4	1961 5	1965 8	1968 2	1958 7月31日
	3	値 (℃)	21.1	22.8	25.2	28.4	31.0	34.1	36.7	37.4	35.5	32.5	27.8	23.2	37.9
		起年日	1996 15	2004 21	2010 20	1969 24	2007 27	2011 28	2004 30	1958 1	1961 9	1961 4	1959 2	1951 31	1969 8月13日
日 最 低 気 温	1	値 (℃)	-5.2	-6.2	-4.0	-0.7	4.6	10.2	15.2	16.4	8.7	2.9	0.1	-3.3	-6.2
		起年日	1967 16	1977 19	1977 5	1957 3	1991 3	1978 1	1982 1	1981 6	1987 28	1986 31	1983 28	1967 25	1977 2月19日
	2	値 (℃)	-3.6	-5.7	-3.9	-0.3	5.1	10.9	15.4	16.9	9.0	4.6	0.4	-2.5	-5.7
		起年日	1974 31	1977 18	1977 4	1965 6	1980 2	1969 8	1966 4	1968 31	1965 29	1958 28	1969 26	1995 31	1977 2月18日
	3	値 (℃)	-3.5	-4.9	-2.7	0.1	5.4	11.0	16.1	17.2	10.5	5.0	0.6	-2.5	-5.2
		起年日	1986 12	1981 28	1967 1	1961 10	1957 3	1981 3	1968 4	1956 26	1987 27	1986 20	1973 29	1960 30	1967 1月16日

第 2.2.8 表 日最小湿度の累年順位(1)

松山地方気象台
統計期間：1951～2012

月 順位		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年
1	値 (%)	13	8	9	7	6	8	20	21	19	18	20	22	6
	起年日	2002 5	2006 24	2012 22	2005 17	2009 10	2002 12	2001 4	2009 24	2007 12	2010 17	1997 8	2010 24	2009 5月10日
2	値 (%)	21	15	10	10	8	14	30	25	19	19	22	23	7
	起年日	2004 24	2007 21	1999 3	1952 16	2005 28	1974 2	1990 31	1991 31	2006 23	1988 10	2010 4	1981 17	2005 4月17日
3	値 (%)	22	17	13	11	9	16	31	27	19	21	22	24	8
	起年日	2006 22	1981 28	2008 16	2011 14	2010 2	1994 3	1994 13	1955 24	2002 25	2012 15	2008 5	2010 31	2006 2月24日

第 2. 2. 9 表 日最小湿度の累年順位 (2)

宇和島特別地域気象観測所
統計期間：1951～2012

月 順位		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年
1	値 (%)	21	17	9	8	12	9	35	30	22	24	24	23	8
	起年日	2012 31	1966 28	2002 18	2005 16	2012 6	2002 12	2004 30	2009 24	1994 14	1963 7	1988 2	2003 4	2005 4月16日
2	値 (%)	24	18	13	10	18	15	35	31	27	25	25	23	9
	起年日	2004 24	1994 28	1995 9	1961 3	2007 26	2009 1	1994 9	1988 30	1994 25	1997 11	1981 15	2000 15	2002 6月12日
3	値 (%)	24	18	14	11	18	21	36	32	28	25	28	27	9
	起年日	1999 27	1994 22	2001 22	2012 7	1999 14	1994 4	2000 7	2002 20	2011 24	1993 21	1999 13	2011 5	2002 3月18日

第 2.2.10 表 日・1 時間最大降水量の累年順位(1)

松山地方気象台
統計期間：1951～2012

順位		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年
日 降 水 量	1	値 (mm)	63.0	40.0	60.0	128.5	108.0	168.5	187.0	103.0	152.5	140.0	72.0	88.0	187.0
		起年日	1989 19	2004 29	2012 23	1974 8	1980 21	1979 27	2005 3	1993 2	1976 11	1998 17	2000 1	2004 4	2005 7月3日
	2	値 (mm)	38.0	38.5	56.4	110.7	100.0	167.0	182.5	86.5	151.0	103.9	53.0	36.0	182.5
		起年日	2008 20	1979 23	1966 3	1955 15	1995 14	2001 19	1995 3	1970 21	2011 20	1967 27	1997 26	2012 30	1995 7月3日
	3	値 (mm)	31.5	33.5	52.5	72.2	93.0	133.0	158.5	82.5	130.3	95.5	51.0	35.5	168.5
		起年日	1984 31	2012 23	1990 28	1958 21	2011 29	1979 30	2010 12	1963 10	1966 18	1961 26	1952 4	2008 5	1979 6月27日
1 時 間 降 水 量	1	値 (mm)	28.0	16.5	22.3	31.1	39.0	47.0	47.5	60.5	32.5	52.0	33.5	25.5	60.5
		起年日	1989 19	1990 11	1966 3	1958 21	1992 8	2001 20	2010 12	1992 2	1953 17	1961 26	2006 11	2004 4	1992 8月2日
	2	値 (mm)	10.5	14.5	15.5	25.5	39.0	46.0	46.0	55.0	30.5	29.5	30.5	12.5	55.0
		起年日	1988 21	2004 22	1988 11	1984 19	1980 21	1979 27	1993 17	2004 23	2011 16	1998 17	2006 10	2008 5	2004 8月23日
	3	値 (mm)	8.9	12.5	15.0	24.5	24.0	41.0	44.0	52.8	29.0	28.1	25.3	11.4	52.8
		起年日	1956 18	2012 23	1959 6	1974 8	1984 31	2001 19	2007 20	1963 30	2008 21	1952 15	1961 17	1953 2	1963 8月30日

第 2.2.11 表 日・1 時間最大降水量の累年順位(2)

宇和島特別地域気象観測所
統計期間：1951～2012

月 順位			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年
日 降 水 量	1	値 (mm)	41.5	53.5	65.5	100.8	114.5	212.0	242.5	253.0	374.0	202.0	141.0	115.5	374.0
		起年日	1972 11	1990 23	1986 14	1957 22	2010 23	1988 24	1996 19	2004 30	2005 6	2004 20	2000 1	2004 4	2005 9月6日
	2	値 (mm)	41.0	46.5	53.0	69.0	106.5	168.6	189.5	204.2	234.0	150.5	72.5	46.5	253.0
		起年日	1989 20	1974 5	1990 28	1985 12	1980 21	1954 29	1972 23	1963 9	1997 16	2011 21	1977 16	1994 9	2004 8月30日
	3	値 (mm)	41.0	46.0	52.8	68.1	98.5	148.0	144.0	192.0	233.1	142.0	65.5	37.0	242.5
		起年日	1972 10	1990 11	1966 7	1951 28	2004 13	2011 20	1995 4	1975 17	1954 13	1998 17	2005 6	2010 13	1996 7月19日
1 時 間 降 水 量	1	値 (mm)	25.5	20.0	26.0	36.4	41.0	76.5	57.0	53.0	66.5	46.5	45.5	45.5	76.5
		起年日	1988 21	1990 11	2000 28	1957 22	1980 21	2011 20	2012 1	2004 6	1998 24	2012 17	1999 1	2004 4	2011 6月20日
	2	値 (mm)	16.5	18.0	25.5	26.7	39.0	56.0	55.5	41.1	58.5	43.5	37.0	20.3	66.5
		起年日	1975 22	1986 18	1988 11	1967 4	2008 24	1988 24	1972 23	1963 30	1993 3	2004 20	1980 21	1957 12	1998 9月24日
	3	値 (mm)	14.5	15.5	21.0	26.5	37.4	55.5	45.5	39.5	57.5	41.5	35.5	15.0	58.5
		起年日	1979 31	2004 22	1996 15	1970 20	1953 12	1984 8	1982 7	2004 30	1987 11	1998 17	2004 11	1994 9	1993 9月3日

第 2. 2. 12 表 日最大瞬間風速の累年順位(1)

松山地方気象台
統計期間：1951～2012

月 順位		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年
1	値 (m/s)	24. 6	30. 4	29. 6	24. 9	21. 2	21. 5	23. 8	36. 4	37. 1	34. 8	24. 8	24. 7	37. 1
	風向 (16方位)	WNW	WNW	W	W	E	WSW	NNW	NNE	SSE	SE	W	WSW	SSE
	起年日	1963 21	1956 27	1964 27	1988 24	2003 26	1956 23	2007 2	1970 21	2004 7	1951 14	1951 26	1958 26	2004 9月7日
2	値 (m/s)	24. 6	25. 8	23. 2	23. 6	19. 7	20. 0	23. 3	29. 5	35. 8	25. 4	24. 3	23. 6	36. 4
	風向 (16方位)	W	W	W	WSW	E	ESE	NNE	SW	S	S	W	W	NNE
	起年日	1955 30	1998 8	1958 2	2012 3	2003 30	1974 4	2004 31	1996 14	1991 27	1951 15	1951 25	1951 26	1970 8月21日
3	値 (m/s)	23. 2	25. 4	23. 1	22. 1	19. 2	19. 1	20. 8	27. 2	32. 8	23. 7	22. 6	23. 0	35. 8
	風向 (16方位)	WNW	WSW	NW	W	SW	S	NNE	S	ESE	W	W	W	S
	起年日	1956 29	1955 20	2006 28	1962 3	1963 31	1978 20	2011 19	1992 8	1954 13	1980 26	1983 17	2000 25	1991 9月27日

第 2. 2. 13 表 日最大瞬間風速の累年順位(2)

宇和島特別地域気象観測所
統計期間：1951～2012

月 順位		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年
1	値 (m/s)	36.8	39.8	33.2	34.0	26.8	33.9	41.2	53.1	72.3	37.8	32.9	34.0	72.3
	風向 (16方位)	WNW	W	WNW	ENE	WNW	S	ENE	ENE	W	SSE	W	ENE	W
	起年日	1956 28	2005 1	2001 4	1983 1	1989 15	1997 28	1972 23	1975 17	1964 25	1951 14	1972 30	1972 23	1964 9月25日
2	値 (m/s)	35.3	32.7	32.6	31.9	25.4	28.5	32.2	46.9	47.3	34.5	29.2	33.6	53.1
	風向 (16方位)	W	WNW	WNW	WNW	NE	ENE	S	SSE	S	E	WNW	WNW	ENE
	起年日	2007 7	1994 9	2001 8	2012 3	2003 31	1988 23	2007 14	2004 30	2004 7	1955 4	2000 2	1990 26	1975 8月17日
3	値 (m/s)	34.3	32.4	32.5	31.0	25.2	28.4	28.0	41.8	45.8	33.5	27.8	33.0	47.3
	風向 (16方位)	NW	NW	WNW	ENE	WNW	S	NW	E	SSE	NNW	WNW	SSW	S
	起年日	1955 30	1955 20	1964 27	1970 24	1992 23	2003 19	1957 22	1963 9	1954 26	2004 20	1951 26	2004 4	2004 9月7日

第 2. 2. 14 表 月最深積雪の累年順位(1)

松山地方気象台
統計期間：1951～2012

月 順位		1	2	3	11	12	年
1	値 (cm)	14	11	9	－	3	14
	起年日	1984 31	1987 3	1969 12	－	1988 16	1984 1月31日
2	値 (cm)	6	9	7	－	2	11
	起年日	1970 5	1984 1	1965 16	－	1984 23	1987 2月3日
3	値 (cm)	6	7	1	－	0	9
	起年日	1965 12	1977 10	1986 23	－	2005 17	1984 2月1日

第 2. 2. 15 表 月最深積雪の累年順位 (2)

宇和島測候所*

統計期間：1951～2005

月 順位		1	2	3	11	12	年
1	値 (cm)	17	20	17	0	23	23
	起年日	1984 19	1977 18	1977 5	1970 30	1967 30	1967 12月30日
2	値 (cm)	15	13	5	－	12	20
	起年日	1963 13	1975 23	1957 14	－	1965 17	1977 2月18日
3	値 (cm)	14	10	2	－	9	17
	起年日	2001 16	1996 10	1993 2	－	1973 25	1984 1月19日

*：2005 年 10 月以降は，宇和島特別地域気象観測所となったため，積雪量について観測をしていない。

第 2.2.16 表 気象データ（気温，風速，卓越風向，湿度）（2003～2012 年）及び愛媛県の森林火災発生状況（1999～2010 年）

月	気象データ						森林火災件数
	瀬戸					宇和島	愛媛県
	気温(℃)	風速 (m/s)	卓越風向	卓越風向	卓越風向	湿度(%)	(月別計)
	最高気温	最大風速	最大風速 記録時の 風向き	最大風速 風向 (日単位)	最多風速 風向 (日単位)	最低湿度	
1月	16.9	20.3	南	北北西	北北西	21	30
2月	21.1	24.0	南	北北西	北北西	20	44
3月	21.2	26.5	南	北	北	15	61
4月	26.6	26.3	南	南	北	8	43
5月	26.2	22.7	南南東	南	北	12	46
6月	31.9	28.0	南南東	南	南	15	18
7月	32.1	21.0	南南東	南	南	35	6
8月	34.3	30.0	南南東	南	南	30	28
9月	32.8	32.0	南/南南東	南	北	28	26
10月	29.4	19.2	南	北/北北西	北	27	16
11月	24.1	21.9	南	北北西	北	30	10
12月	20.8	23.0	南	北北西	北北西	23	13

- ・気象庁 HP 過去の気象統計情報（2003～2012 年）
- ・愛媛県 消防年報（1999～2010 年）

第2.3.1表 観測項目一覧表

1. 通常観測

観測項目	観測位置			気象測器 又は観測方法	観測期間
	場所 ^(注)	地上高 (m)	標高 (m)		
風向・風速	敷地内 開閉所地点	約 70	約 80	風車型風向風速計	1982年9月～継続
				超音波風向風速計	
	敷地内 取水口地点	約 10	約 20	風車型風向風速計	1976年4月～継続
日 射 量	敷地内 平 簷 地 点	約 1.5	約126.5	電 気 式 日 射 計	1982年9月～継続
放 射 収 支 量	敷地内 平 簷 地 点	約 1.5	約126.5	風防型放射収支計	1982年9月～継続
降 水 量	敷地内 平 簷 地 点	約 0.5	約125.5	転倒ます型雨量計	1982年9月～継続
気 温	敷地内 平 簷 地 点	約 1.5	約126.5	白金抵抗温度計	1982年9月～継続
湿 度	敷地内 平 簷 地 点	約 1.5	約126.5	毛 髪 湿 度 計	1982年9月～継続

2. 特別観測

観測項目	観測位置			気象測器 又は観測方法	観測期間
	場所 ^(注)	地上高 (m)	標高 (m)		
上 層 風	敷地内 荷揚岸壁地点	地上 ～ 約 1,000		パイロット バルーン	1982年 10月 8日～10月15日 1983年 1月15日～ 1月25日 4月27日～ 5月 5日 7月21日～ 7月28日
気 温 差	敷地内 荷揚岸壁地点	地上 ～ 約 300		係留気球, 低層ゾンデ	

注) 観測場所については第2.3.1図参照

第2.4.1表 同一風向の継続時間別出現回数 (標高約20m, 地上高約10m)

観測場所：取水口地点 (標高約20m, 地上高約10m) (回)										
継続時間 風向	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10h 以上
N	260	58	18	3	4	3	0	1	0	0
NNE	283	118	49	40	33	19	13	16	15	44
NE	243	91	32	10	4	6	2	3	1	0
ENE	22	1	0	0	0	0	0	0	0	0
E	13	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ESE	25	2	1	0	0	0	0	0	0	0
SE	154	37	18	8	0	1	1	0	0	0
SSE	298	117	48	23	21	6	8	9	0	12
S	324	81	23	10	2	3	1	2	0	0
SSW	222	33	8	2	0	0	0	0	0	0
SW	139	11	2	0	0	0	0	0	0	0
WSW	67	7	4	2	0	1	0	0	0	0
W	110	21	7	1	1	0	1	0	0	0
WNW	177	49	24	15	6	1	4	2	0	0
NW	217	58	27	23	18	13	4	7	3	7
NNW	224	77	37	25	14	8	5	3	3	6
静 穏	139	11	1	0	0	0	0	0	0	0

注) 1. () は10h以上継続したときの平均風速 (m/s)

欠測率 : 0.5%

2. 正時前10分間の最多風向を正時の風向として統計整理している。

3. 風向, 風速及び大気安定度のいずれかの気象要素が欠測の場合には, 当該時刻の気象資料は欠測扱いとして欠測率を求めている。

第2.4.2表 同一風向の継続時間別出現回数 (標高約80m, 地上高約70m)

観測場所：開閉所地点 (標高約80m, 地上高約70m) (回)											備考 10h以上の継続時間 (h)
風向 \ 継続時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10h以上	
N	216	54	18	12	6	4	2	0	0	1	11 (8.5)
NNE	256	73	24	16	7	4	1	3	1	2	10 11 (6.1)
NE	274	116	51	40	31	15	14	12	6	45	10×7 11×6 12×5 13×5 14×3 15×3 16×3 18×4 19×2 20 21×2 23 34×2 35 (4.4)
ENE	189	51	19	14	5	0	3	1	0	1	10 (3.7)
E	79	11	2	0	2	0	0	0	0	0	
ESE	118	20	7	3	2	1	0	0	0	0	
SE	206	55	20	9	11	4	2	1	2	6	10×4 12 13 (5.6)
SSE	210	51	31	14	1	4	5	1	0	1	10 (7.3)
S	180	50	22	10	11	1	2	2	0	2	10 11 (5.3)
SSW	131	21	8	2	0	0	0	0	0	0	
SW	97	8	1	0	0	0	0	0	0	0	
WSW	60	7	3	0	0	0	0	0	0	0	
W	139	30	19	3	3	1	1	0	0	1	16 (7.7)
WNW	217	56	23	13	6	10	5	4	2	1	10 (14.1)
NW	232	85	29	30	20	8	5	3	3	6	10×4 12 16 (11.9)
NNW	266	68	27	17	6	5	1	0	0	0	
静 穏	150	22	8	1	0	1	0	0	0	0	

注) 1. () は10h以上継続したときの平均風速 (m/s)

欠測率 : 0.6%

2. 正時前10分間の最多風向を正時の風向として統計整理している。

3. 風向, 風速及び大気安定度のいずれかの気象要素が欠測の場合には, 当該時刻の気象資料は欠測扱いとして欠測率を求めている。

第2.4.3表 大気安定度の継続時間別出現回数

(回)

継続時間 大気 安定度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10h 以 上
A	67 (53.6)	24 (19.2)	13 (10.4)	7 (5.6)	8 (6.4)	4 (3.2)	2 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
B	136 (36.8)	127 (34.3)	45 (12.2)	30 (8.1)	17 (4.6)	7 (1.9)	6 (1.6)	1 (0.3)	1 (0.3)	0 (0.0)
C	210 (59.2)	73 (20.6)	29 (8.2)	19 (5.4)	13 (3.7)	7 (2.0)	3 (0.8)	1 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)
D	153 (20.9)	155 (21.2)	112 (15.3)	41 (5.6)	41 (5.6)	23 (3.1)	17 (2.3)	14 (1.9)	10 (1.4)	165 (22.6)
E	153 (75.4)	37 (18.2)	10 (4.9)	2 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
F	138 (79.3)	26 (14.9)	7 (4.0)	3 (1.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
G	136 (42.9)	67 (21.1)	33 (10.4)	24 (7.6)	22 (6.9)	13 (4.1)	3 (0.9)	6 (1.9)	5 (1.6)	8 (2.5)

A・B・C	413 (48.6)	224 (26.4)	87 (10.2)	56 (6.6)	38 (4.5)	18 (2.1)	11 (1.3)	2 (0.2)	1 (0.1)	0 (0.0)
E・F・G	427 (61.5)	130 (18.7)	50 (7.2)	29 (4.2)	22 (3.2)	13 (1.9)	4 (0.6)	6 (0.9)	5 (0.7)	8 (1.2)

注) () 内の数値は%

第2.5.1表 棄却検定表（風向）

観測場所：開閉所地点（標高約80m、地上高約70m）													（％）		
統計年 風 向	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	平均値	検定年 2001年	棄却限界（5％）		判 定 ○採択 ×棄却
													上 限	下 限	
N	6.69	5.64	6.05	7.22	6.43	6.61	6.45	7.63	7.26	7.38	6.74	5.80	8.24	5.23	○
NNE	9.82	8.73	7.53	7.87	6.70	7.64	7.79	8.73	7.11	8.11	8.00	7.56	10.14	5.87	○
NE	22.91	21.59	20.45	19.96	17.83	19.53	18.15	22.60	16.86	20.03	19.99	23.04	24.75	15.24	○
ENE	5.69	6.13	5.88	5.67	4.88	5.60	4.60	4.80	4.81	6.78	5.48	5.38	7.14	3.83	○
E	1.09	1.35	1.32	0.93	1.29	1.84	1.29	1.36	1.65	1.58	1.37	1.34	1.99	0.74	○
ESE	1.83	1.93	1.39	1.69	1.65	2.56	2.04	1.92	2.79	2.49	2.03	2.38	3.09	0.97	○
SE	5.14	6.95	6.14	7.22	5.71	7.19	6.83	5.61	8.15	6.63	6.56	6.85	8.71	4.40	○
SSE	6.76	6.58	6.57	5.72	7.16	6.49	7.70	6.35	6.15	6.27	6.58	6.24	7.88	5.27	○
S	6.02	6.16	6.80	6.51	6.59	6.61	7.05	5.06	5.24	6.28	6.23	5.72	7.76	4.70	○
SSW	1.47	2.33	2.26	2.41	2.24	2.21	2.30	2.24	2.30	2.32	2.21	2.35	2.84	1.58	○
SW	1.09	1.56	1.48	1.51	1.48	1.38	1.40	1.40	1.50	1.18	1.40	1.33	1.75	1.04	○
WSW	0.99	1.13	1.18	1.06	0.96	1.07	1.31	1.26	1.08	0.99	1.10	0.95	1.38	0.83	○
W	2.79	3.35	4.05	3.25	4.12	3.95	4.84	4.28	4.70	3.53	3.89	3.58	5.43	2.34	○
WNW	6.74	6.95	8.35	7.47	9.84	7.02	8.30	7.33	8.07	6.98	7.71	7.29	9.96	5.45	○
NW	10.94	10.30	10.79	11.09	12.12	10.44	9.86	8.46	11.29	9.85	10.51	10.46	12.87	8.16	○
NNW	7.23	6.77	6.88	8.23	8.53	6.68	7.59	7.50	7.98	6.89	7.43	7.10	8.98	5.88	○
静 穏	2.79	2.57	2.89	2.18	2.46	3.20	2.50	3.46	3.05	2.71	2.78	2.62	3.69	1.87	○

注）正時前10分間の最多風向を正時の風向として統計整理している。

第2.5.2表 棄却検定表（風速分布）

観測場所：開閉所地点（標高約80m、地上高約70m）（%）

統計年 風速 分布(m/s)	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	平均値	検定年 2001年	棄却限界（5%）		判 定 ○採択 ×棄却
													上 限	下 限	
0.0～0.4	2.79	2.57	2.89	2.18	2.46	3.20	2.50	3.46	3.05	2.71	2.78	2.62	3.69	1.87	○
0.5～1.4	12.78	13.14	14.22	13.02	13.08	13.19	12.35	15.12	13.08	13.84	13.38	12.41	15.28	11.48	○
1.5～2.4	13.60	15.66	15.21	16.11	13.39	15.05	13.85	16.74	15.16	14.54	14.93	14.16	17.53	12.33	○
2.5～3.4	13.99	15.04	13.55	13.73	13.51	14.37	13.57	14.58	14.78	13.87	14.10	13.15	15.42	12.78	○
3.5～4.4	12.31	12.76	11.95	13.07	11.69	12.63	14.32	12.63	12.42	11.86	12.56	13.23	14.35	10.77	○
4.5～5.4	10.99	10.54	10.57	10.46	10.60	10.50	11.22	9.95	10.00	10.62	10.54	11.21	11.45	9.64	○
5.5～6.4	9.35	8.60	8.33	9.10	9.14	8.24	9.27	8.47	8.06	9.54	8.81	8.63	10.06	7.56	○
6.5～7.4	7.35	6.56	6.81	7.26	7.66	6.64	7.07	6.88	6.70	7.20	7.01	6.90	7.85	6.17	○
7.5～8.4	5.11	5.01	5.10	5.12	5.89	4.99	4.71	4.47	4.48	4.95	4.98	5.27	5.94	4.03	○
8.5～9.4	3.94	3.34	3.66	3.50	4.20	3.61	3.44	2.85	3.80	3.45	3.58	3.66	4.45	2.71	○
9.5～	7.79	6.78	7.70	6.45	8.39	7.57	7.70	4.84	8.47	7.42	7.31	8.75	9.84	4.78	○

第2.5.3表 放出源の有効高さ

(陸側方位)

方 位	平 常 運 転 時						(m)
	周辺監視区域境界外			敷 地 境 界 外			事故時並びに重大事故及び仮想事故時
	1号炉	2号炉	3号炉	1号炉	2号炉	3号炉	敷地境界外
E N E	—	45	50	—	45	50	40
E	40	40	40	45	40	40	35
E S E	40	40	40	45	40	40	40
S E	40	45	30	40	45	30	30
S S E	40	35	50	40	35	50	45
S	45	40	45	45	40	45	45
S S W	45	40	45	45	40	50	45
S W	45	50	65	45	50	70	60
W S W	—	—	65	—	45	65	55

注) 「—」は海側方位で該当なし。

(海側方位)

方 位	平 常 運 転 時			(m)
	1号炉	2号炉	3号炉	
N	40	35	30	
N N E	40	35	30	
N E	40	35	30	
E N E	40	—	—	
W S W	40	35	—	
W	40	35	30	
W N W	40	35	30	
N W	40	35	30	
N N W	40	35	30	

- 注) 1. 海側方位については、風洞実験を実施した陸側9方位のうち、最低のものを放出源の有効高さとする。
2. 「—」は陸側方位で該当なし。

第2.5.4表 風向別大気安定度別風速逆数の総和

観測場所：開閉所地点（標高約80m，地上高約70m）（s/m）

大気安定度 風 向	A	B	C	D	E	F
N	16.73	34.01	8.36	87.71	4.87	32.78
NNE	15.45	38.44	17.09	131.05	1.67	38.51
NE	35.11	151.93	57.94	398.77	14.15	175.66
ENE	6.84	39.70	5.00	148.00	3.58	103.24
E	0.54	9.05	0.97	54.53	0.30	29.45
ESE	2.05	7.62	2.07	70.80	5.55	38.60
SE	2.61	13.29	5.84	134.15	14.40	54.32
SSE	2.63	13.09	11.34	109.22	8.34	29.14
S	3.86	18.41	22.84	92.19	5.34	25.09
SSW	3.89	23.60	6.16	71.30	4.69	39.78
SW	6.15	14.74	1.11	54.23	3.15	43.69
WSW	1.88	5.55	0.74	28.47	2.09	33.72
W	12.68	40.85	5.32	72.64	3.63	48.16
WNW	36.40	31.51	5.66	108.23	3.81	48.94
NW	24.48	57.94	11.30	127.69	3.47	48.87
NNW	19.87	34.37	6.60	114.50	5.06	39.82

注) 1. この表は静穏及び欠測の補正を行った資料である。
2. 大気安定度FはGを含む。

第2.5.5表 風向別大気安定度別風速逆数の平均及び風向別風速逆数の平均

観測場所：開閉所地点（標高約80m，地上高約70m）（s/m）

大気安定度 風 向	A	B	C	D	E	F	全安定度
N	0.82	0.64	0.25	0.24	0.28	1.06	0.35
NNE	0.68	0.63	0.22	0.28	0.33	0.88	0.36
NE	0.57	0.48	0.27	0.35	0.30	0.63	0.40
ENE	1.01	0.83	0.50	0.55	0.35	0.68	0.62
E	1.80	0.87	0.49	0.74	0.30	0.77	0.76
ESE	1.58	0.73	0.35	0.56	0.39	0.67	0.58
SE	1.09	0.73	0.36	0.31	0.29	0.58	0.37
SSE	1.14	0.76	0.25	0.27	0.29	0.57	0.31
S	0.54	0.59	0.25	0.28	0.30	0.87	0.33
SSW	0.61	0.76	0.32	0.67	0.33	0.98	0.69
SW	1.40	1.07	0.56	0.94	0.45	1.03	0.97
WSW	1.57	0.93	0.37	0.74	0.30	0.97	0.81
W	0.93	0.79	0.29	0.40	0.36	0.95	0.56
WNW	0.79	0.75	0.15	0.23	0.29	1.00	0.36
NW	0.77	0.83	0.21	0.18	0.26	0.97	0.29
NNW	0.65	0.68	0.25	0.25	0.30	0.92	0.35

注) 1. この表は静穏及び欠測の補正を行った資料である。
2. 大気安定度FはGを含む。

第2.5.6表 風向出現頻度及び風速0.5～2.0m/sの風向出現頻度

観測場所：開閉所地点（標高約80m，地上高約70m）（%）

風 向	風向出現頻度	風速0.5～2.0m/s の風向出現頻度
N	5.9	5.1
NNE	7.7	7.1
NE	23.6	20.9
ENE	5.6	10.0
E	1.4	3.4
ESE	2.5	3.8
SE	7.0	5.1
SSE	6.3	3.1
S	5.8	3.0
SSW	2.5	4.8
SW	1.4	4.6
WSW	1.0	2.7
W	3.7	6.0
WNW	7.5	7.4
NW	10.7	7.5
NNW	7.2	5.5

注）正時前10分間の最多風向を正時の風向として統計整理している。

第2.5.7表 設計基準事故時の方位別相対濃度 (χ/Q) , 相対線量 (D/Q) 及び実効放出継続時間

事故の種類	原子炉冷却材喪失		放射性気体 廃棄物処理 施設の破損	蒸気発生器伝熱管破損		燃料集合体の落下		制御棒飛び出し	
χ/Q 又は D/Q	χ/Q (s/m^3)	D/Q (Gy/Bq)	D/Q (Gy/Bq)	χ/Q (s/m^3)	D/Q (Gy/Bq)	χ/Q (s/m^3)	D/Q (Gy/Bq)	χ/Q (s/m^3)	D/Q (Gy/Bq)
実効放出 継続時間	3 時間	1 2 時間	1 時間	1 時間	1 時間	1 時間	1 時間	2 時間	1 4 時間
放出高さ 着目方位	排気筒 放 出		地上放出	地上放出		排気筒 放 出		排気筒 放 出	
ENE	0	1.2×10^{-19}	0	0	0	0	0	0	1.4×10^{-19}
E	1.8×10^{-5}	2.3×10^{-19}	0	0	0	1.2×10^{-5}	1.7×10^{-19}	1.8×10^{-5}	2.3×10^{-19}
ESE	1.5×10^{-5}	1.8×10^{-19}	2.9×10^{-19}	3.7×10^{-5}	2.9×10^{-19}	1.3×10^{-5}	2.1×10^{-19}	1.4×10^{-5}	1.7×10^{-19}
SE	2.2×10^{-5}	2.3×10^{-19}	3.6×10^{-19}	4.5×10^{-5}	3.6×10^{-19}	2.5×10^{-5}	2.9×10^{-19}	2.4×10^{-5}	2.0×10^{-19}
SSE	9.8×10^{-6}	1.5×10^{-19}	3.5×10^{-19}	4.3×10^{-5}	3.5×10^{-19}	1.1×10^{-5}	2.0×10^{-19}	1.0×10^{-5}	1.4×10^{-19}
S	8.2×10^{-6}	1.1×10^{-19}	3.1×10^{-19}	3.3×10^{-5}	3.1×10^{-19}	1.0×10^{-5}	1.8×10^{-19}	9.1×10^{-6}	9.6×10^{-20}
SSW	9.1×10^{-6}	1.3×10^{-19}	7.9×10^{-19}	9.5×10^{-5}	7.9×10^{-19}	1.2×10^{-5}	2.0×10^{-19}	1.0×10^{-5}	1.3×10^{-19}
SW	1.2×10^{-5}	2.6×10^{-19}	7.0×10^{-19}	7.5×10^{-5}	7.0×10^{-19}	1.5×10^{-5}	3.9×10^{-19}	1.3×10^{-5}	2.5×10^{-19}
WSW	1.1×10^{-5}	2.2×10^{-19}	0	0	0	1.2×10^{-5}	3.1×10^{-19}	1.2×10^{-5}	2.1×10^{-19}

注 1) D/Q は γ 線エネルギー 0.5MeV として計算した。

注 2) 原子炉冷却材喪失については、静的機器の単一故障を仮定した場合の解析では、直接線量及びスカイシャイン線量が最大となる着目方位 SE の χ/Q として実効放出継続時間 4 時間の値 $2.2 \times 10^{-5} (s/m^3)$ 及び D/Q として実効放出継続時間 13 時間の値 $2.1 \times 10^{-19} (Gy/Bq)$ を用いる。

第2.5.8表 重大事故及び仮想事故時の方位別相対濃度 (χ/Q) , 相対線量 (D/Q) 及び実効放出継続時間

事故の種類	重大事故				仮想事故			
	原子炉冷却材喪失		蒸気発生器 伝熱管破損		原子炉冷却材喪失		蒸気発生器 伝熱管破損	
χ/Q 又は D/Q	χ/Q (s/m ³)	D/Q (Gy/Bq)	χ/Q (s/m ³)	D/Q (Gy/Bq)	χ/Q (s/m ³)	D/Q (Gy/Bq)	χ/Q (s/m ³)	D/Q (Gy/Bq)
実効放出 継続時間	7 時間	1 4 時間	1 時間	1 時間	8 時間	1 4 時間	1 時間	1 時間
放出高さ 着目方位	排気筒 放 出		地上放出		排気筒 放 出		地上放出	
ENE	5.3×10^{-6}	1.4×10^{-19}	0	0	4.9×10^{-6}	1.4×10^{-19}	0	0
E	1.7×10^{-6}	2.3×10^{-19}	0	0	1.6×10^{-6}	2.3×10^{-19}	0	0
ESE	1.2×10^{-6}	1.7×10^{-19}	3.7×10^{-5}	2.9×10^{-19}	1.2×10^{-6}	1.7×10^{-19}	3.7×10^{-5}	2.9×10^{-19}
SE	1.9×10^{-6}	2.0×10^{-19}	4.5×10^{-5}	3.6×10^{-19}	1.9×10^{-6}	2.0×10^{-19}	4.5×10^{-5}	3.6×10^{-19}
SSE	8.5×10^{-6}	1.4×10^{-19}	4.3×10^{-5}	3.5×10^{-19}	7.9×10^{-6}	1.4×10^{-19}	4.3×10^{-5}	3.5×10^{-19}
S	6.4×10^{-6}	9.6×10^{-20}	3.3×10^{-5}	3.1×10^{-19}	6.1×10^{-6}	9.6×10^{-20}	3.3×10^{-5}	3.1×10^{-19}
SSW	7.7×10^{-6}	1.3×10^{-19}	9.5×10^{-5}	7.9×10^{-19}	7.6×10^{-6}	1.3×10^{-19}	9.5×10^{-5}	7.9×10^{-19}
SW	1.1×10^{-6}	2.5×10^{-19}	7.5×10^{-5}	7.0×10^{-19}	1.1×10^{-6}	2.5×10^{-19}	7.5×10^{-5}	7.0×10^{-19}
WSW	8.3×10^{-6}	2.1×10^{-19}	0	0	8.4×10^{-6}	2.1×10^{-19}	0	0

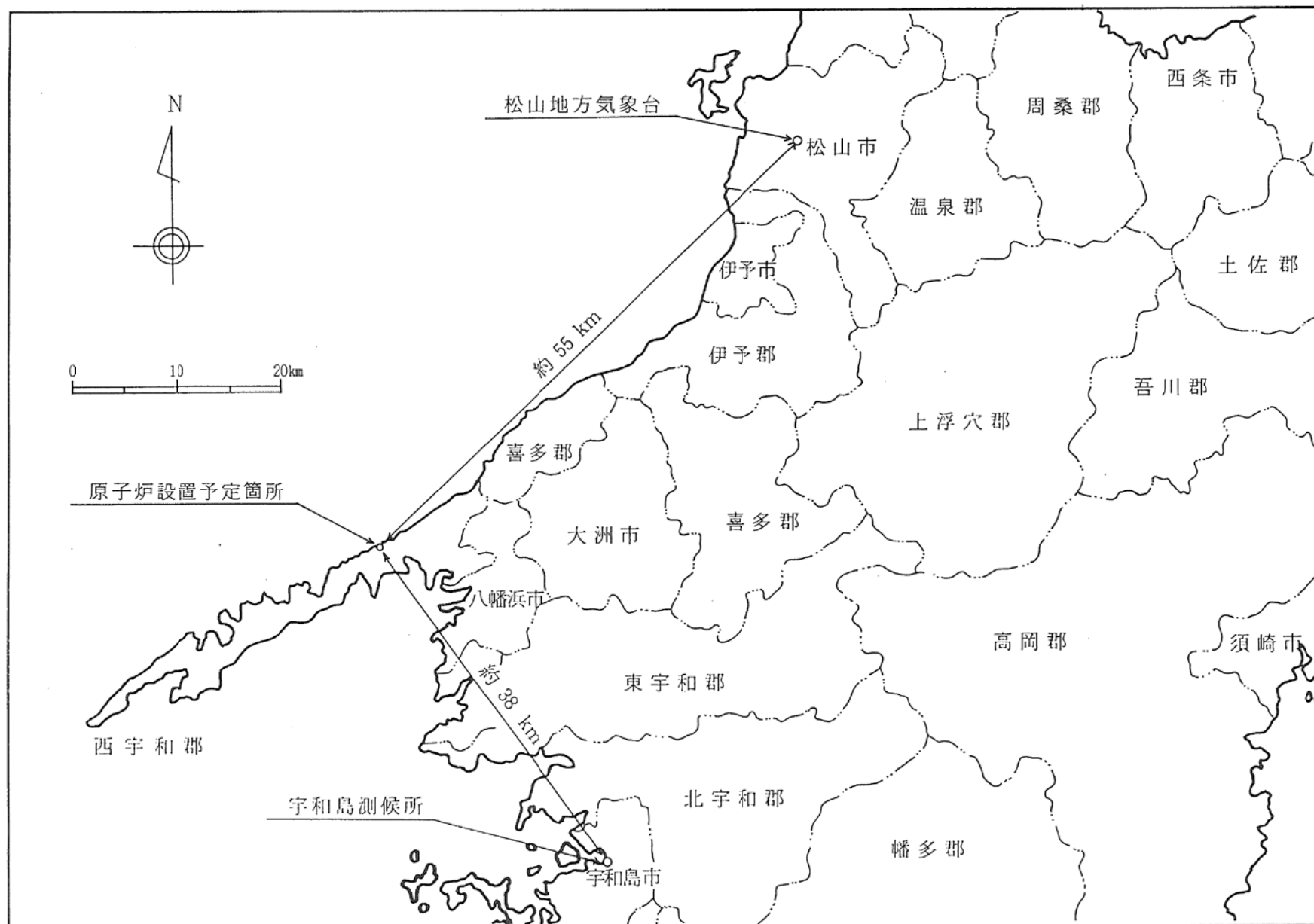
注) D/Q は γ 線エネルギー0.5MeVとして計算した。

第 2. 6. 1 表 気温差の平均値及び標準偏差

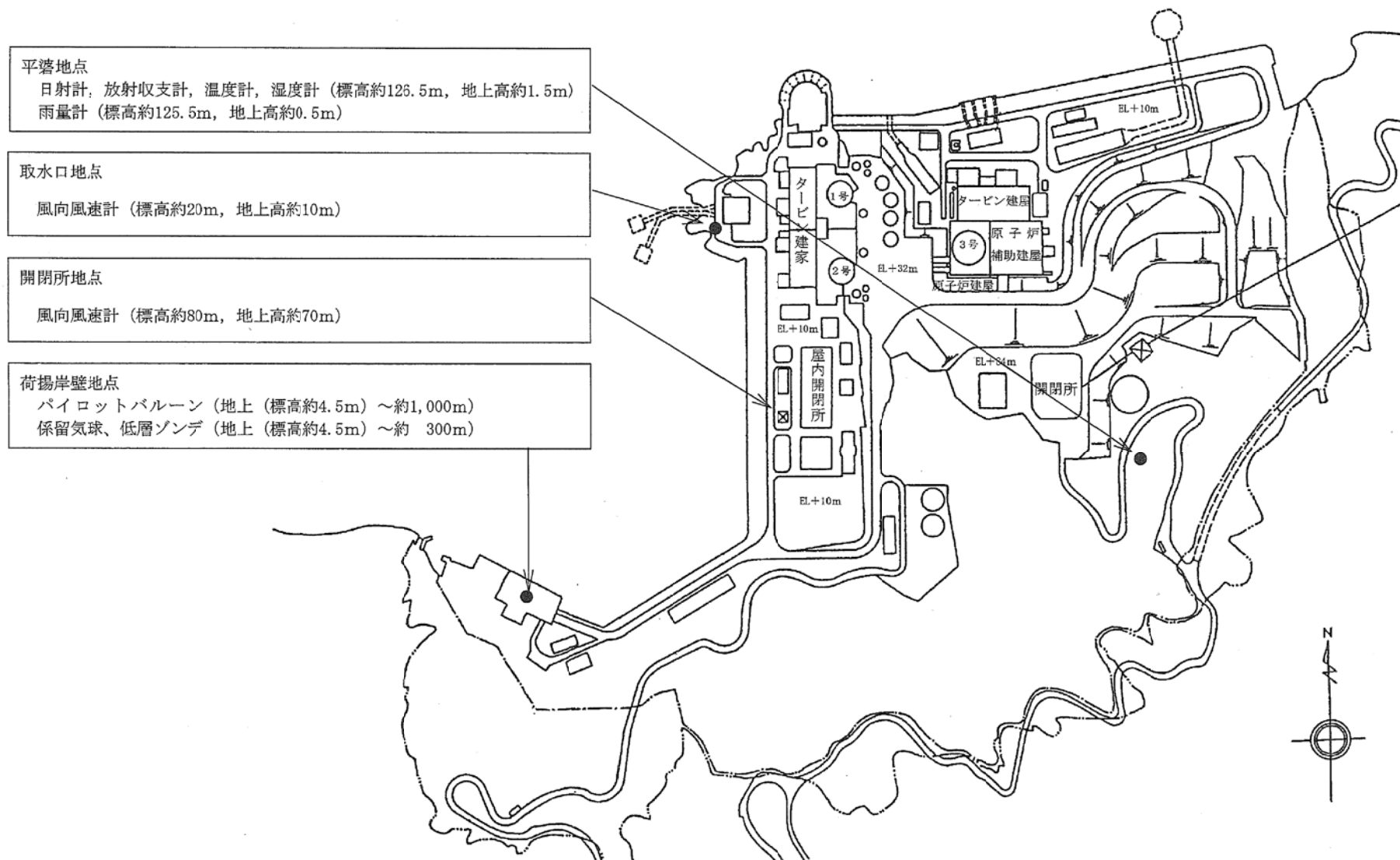
測定年：昭和57年～昭和58年

標 高 (m)	層 厚 (m)	(注) 平 均 値 (°C/100m)		標 準 偏 差 (°C/100m)	
		係 留 気 球	温 度 差 計	係 留 気 球	温 度 差 計
約80 ～ 約20	約60	－0.53	－0.68	1.17	1.32

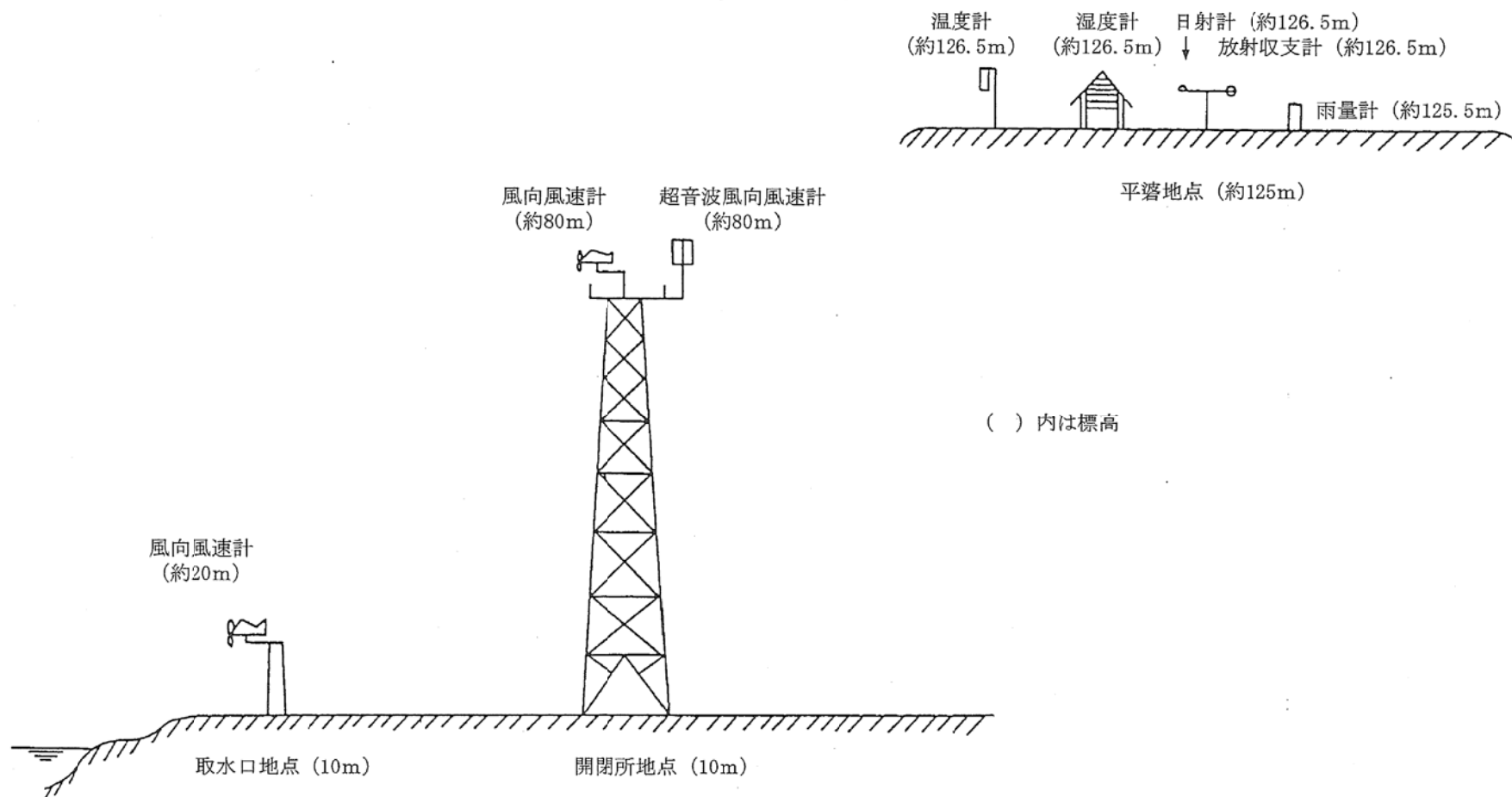
(注) てい減を符号－で示す。



第2.2.1図 気象官署の位置図

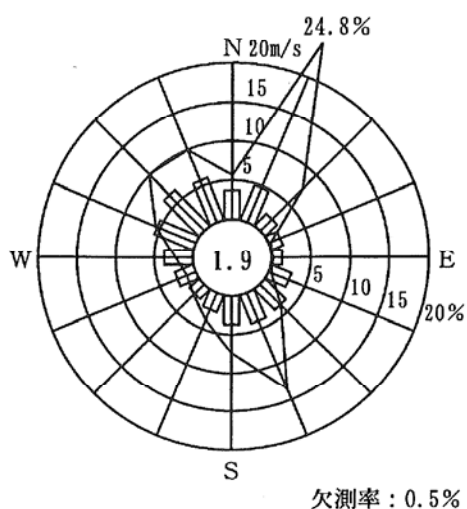


第2.3.1図 気象観測設備配置図 (その1)

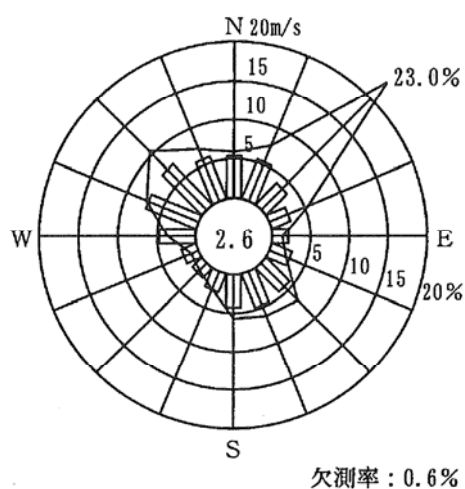


第2.3.2図 気象観測設備配置図 (その2)

標高約 20 m
(地上高約 10 m)



標高約 80 m
(地上高約 70 m)



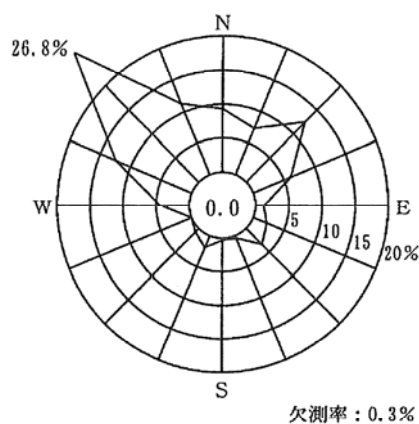
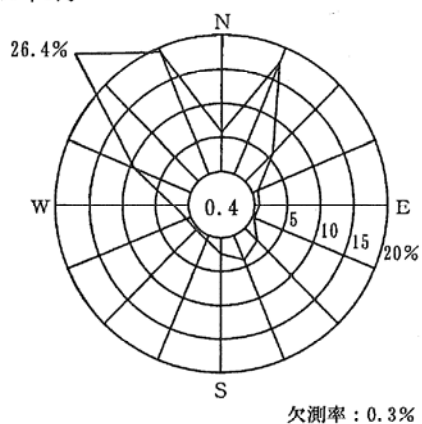
- 注) 1. — 風向出現頻度 (%)
 □ 平均風速 (m/s)
2. 小円内の数字は静穏の頻度 (%)
3. 正時前10分間の最多風向を正時の風向として統計整理している。
4. 風向, 風速及び大気安定度のいずれかの気象要素が欠測の場合には, 当該時刻の気象資料は欠測扱いとして欠測率を求めている。

第2.4.1図 敷地の風配図 (2001年1月～12月)

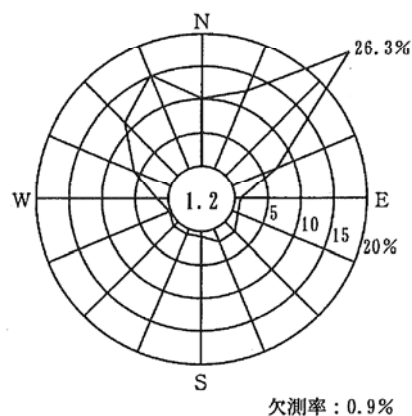
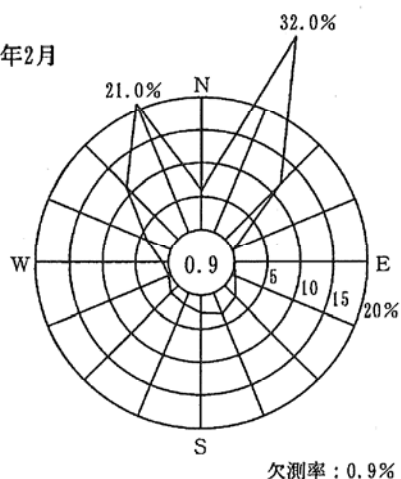
標高約 20 m
(地上高約 10 m)

標高約 80 m
(地上高約 70 m)

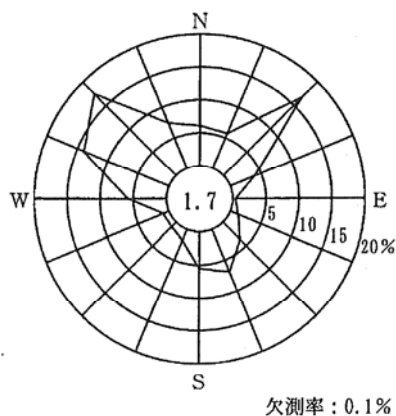
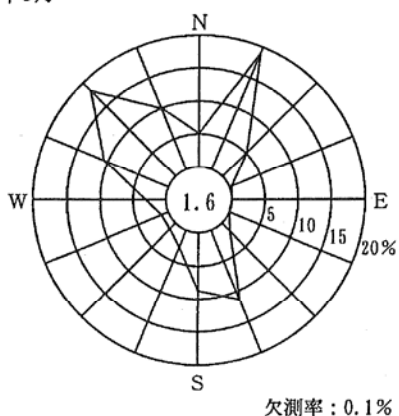
2001年1月



2001年2月



2001年3月



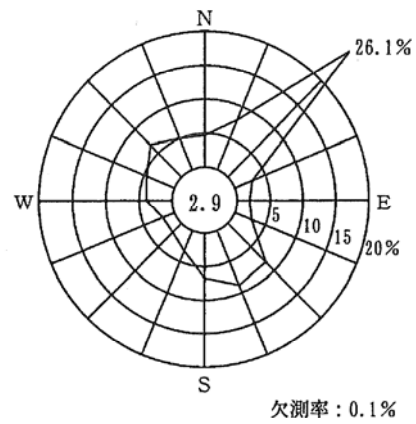
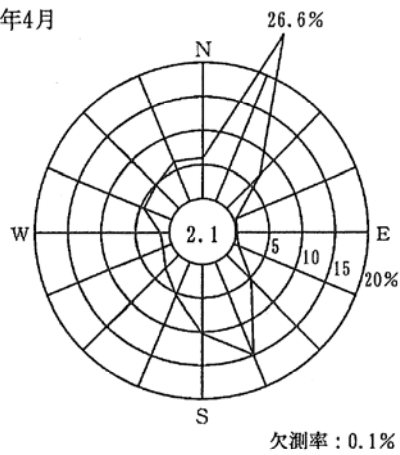
- 注) 1. 小円内の数字は静穏の頻度 (%)
2. 正時前10分間の最多風向を正時の風向として統計整理している。
3. 風向、風速及び大気安定度のいずれかの気象要素が欠測の場合には、当該時刻の気象資料は欠測扱いとして欠測率を求めている。

第2.4.2図 敷地の風配図 (その1) (2001年1月～3月)

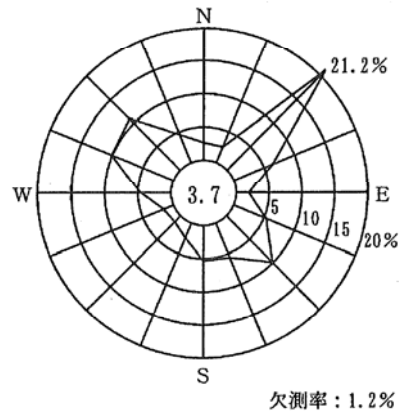
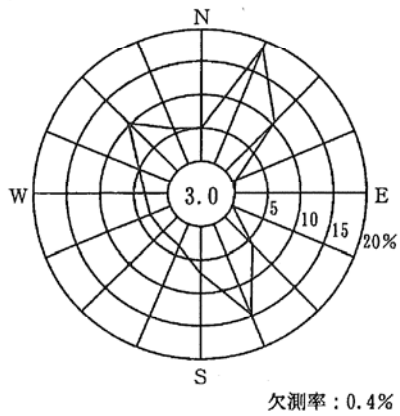
標高約 20 m
(地上高約 10 m)

標高約 80 m
(地上高約 70 m)

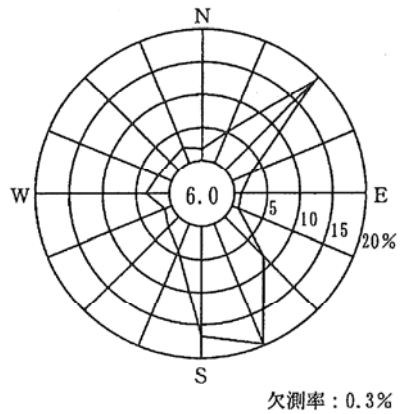
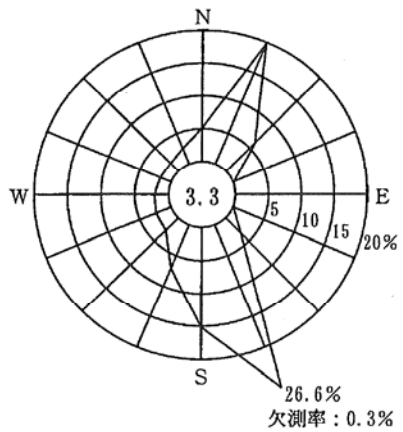
2001年4月



2001年5月



2001年6月



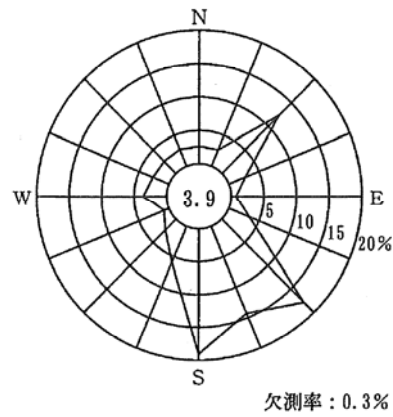
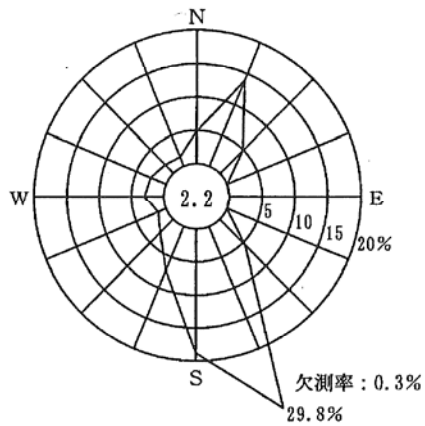
- 注) 1. 小円内の数字は静穏の頻度 (%)
2. 正時前10分間の最多風向を正時の風向として統計整理している。
3. 風向、風速及び大気安定度のいずれかの気象要素が欠測の場合には、当該時刻の気象資料は欠測扱いとして欠測率を求めている。

第2.4.3図 敷地の風配図 (その2) (2001年4月～6月)

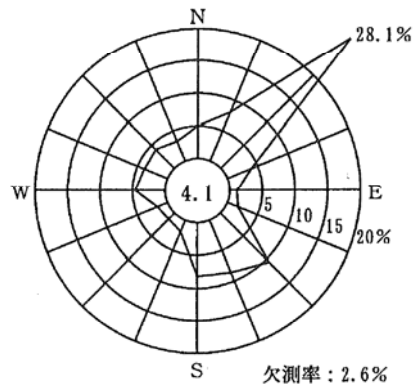
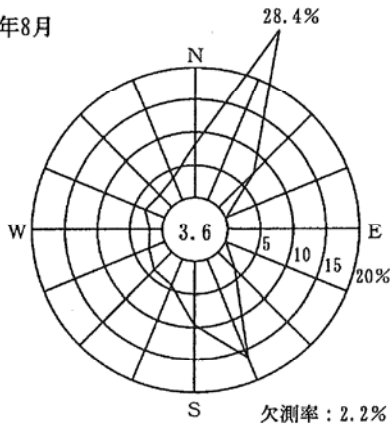
標高約 20 m
(地上高約 10 m)

標高約 80 m
(地上高約 70 m)

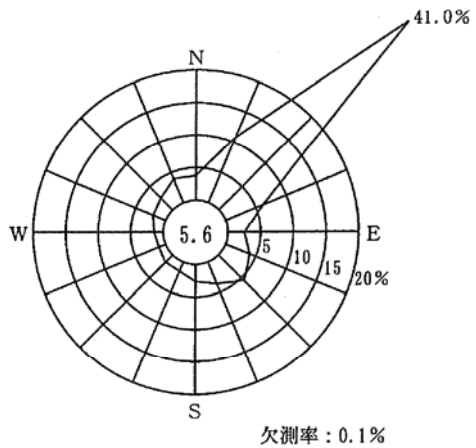
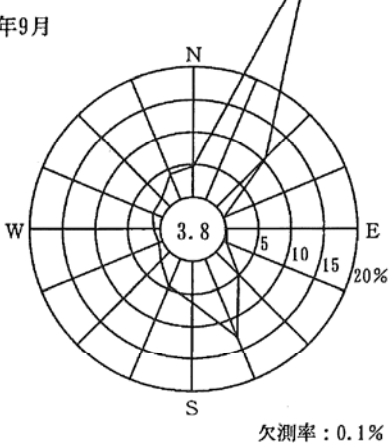
2001年7月



2001年8月

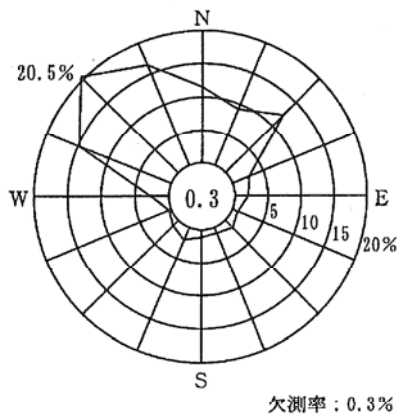
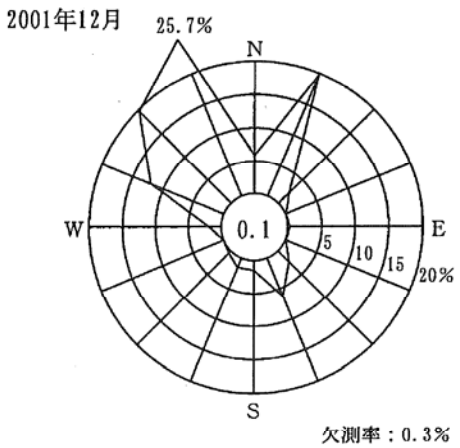
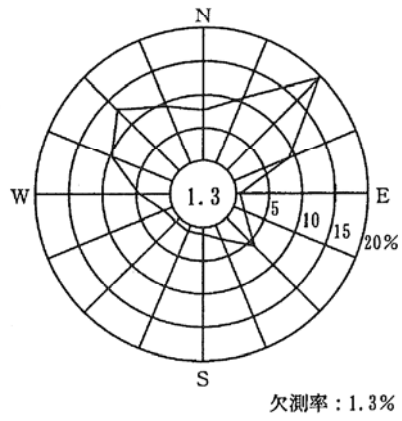
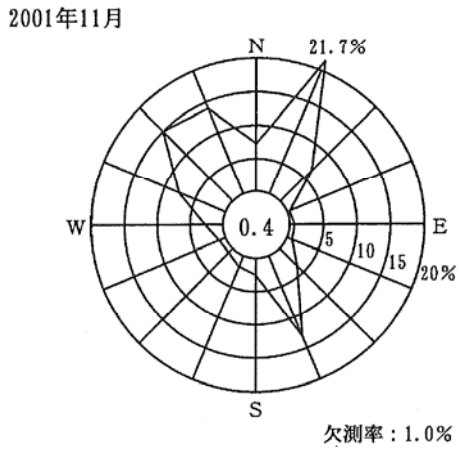
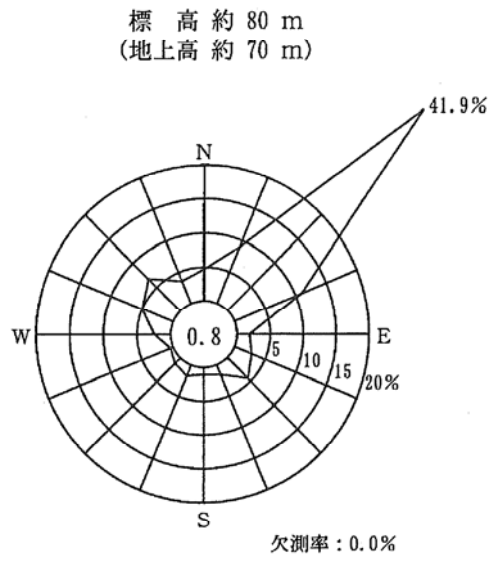
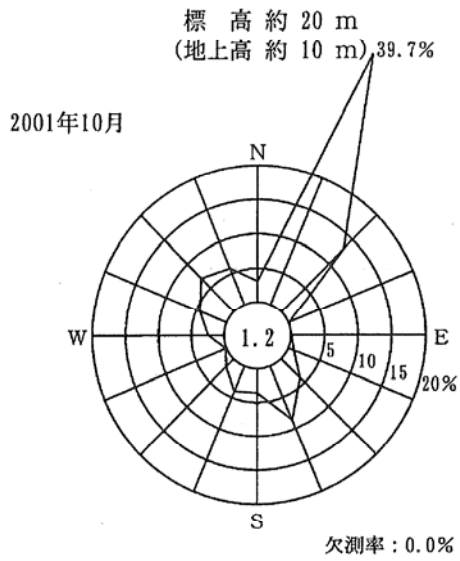


2001年9月



- 注) 1. 小円内の数字は静穏の頻度 (%)
2. 正時前10分間の最多風向を正時の風向として統計整理している。
3. 風向、風速及び大気安定度のいずれかの気象要素が欠測の場合には、当該時刻の気象資料は欠測扱いとして欠測率を求めている。

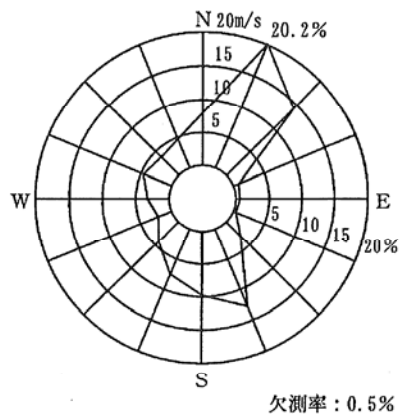
第2.4.4図 敷地の風配図 (その3) (2001年7月～9月)



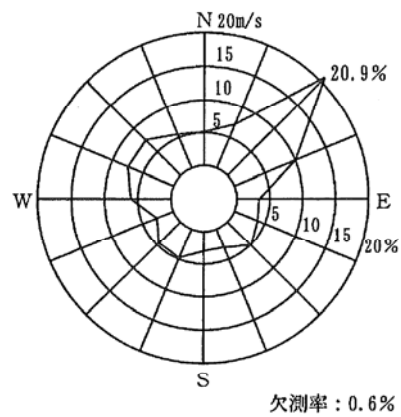
- 注) 1. 小円内の数字は静穏の頻度 (%)
2. 正時前10分間の最多風向を正時の風向として統計整理している。
3. 風向、風速及び大気安定度のいずれかの気象要素が欠測の場合には、当該時刻の気象資料は欠測扱いとして欠測率を求めている。

第2.4.5図 敷地の風配図 (その4) (2001年10月～12月)

標高約 20 m
(地上高約 10 m)



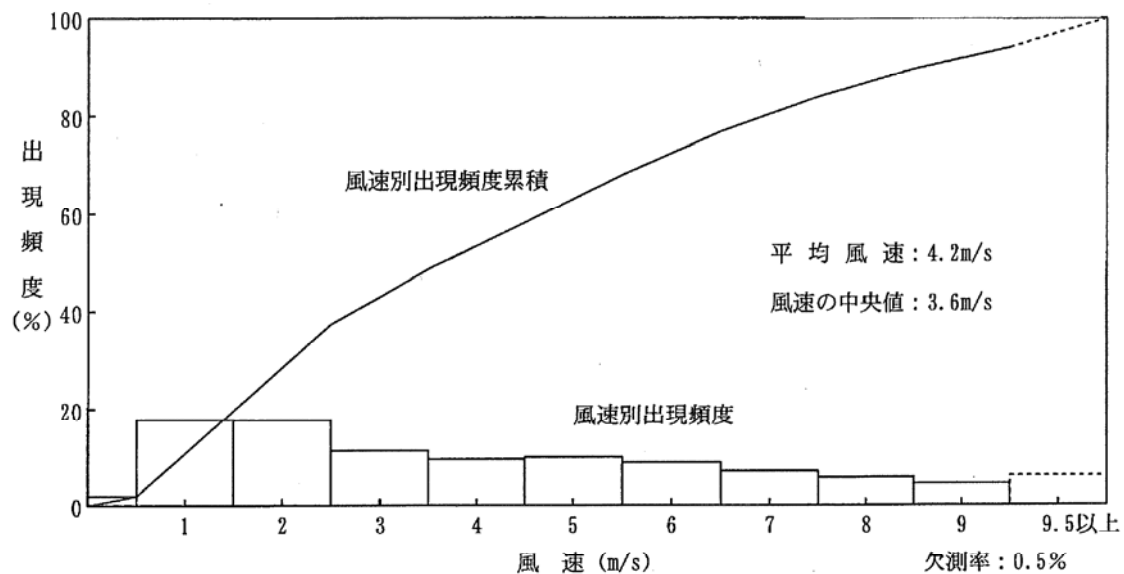
標高約 80 m
(地上高約 70 m)



- 注) 1. 正時前10分間の最多風向を正時の風向として統計整理している。
2. 風向、風速及び大気安定度のいずれかの気象要素が欠測の場合には、当該時刻の気象資料は欠測扱いとして欠測率を求めている。

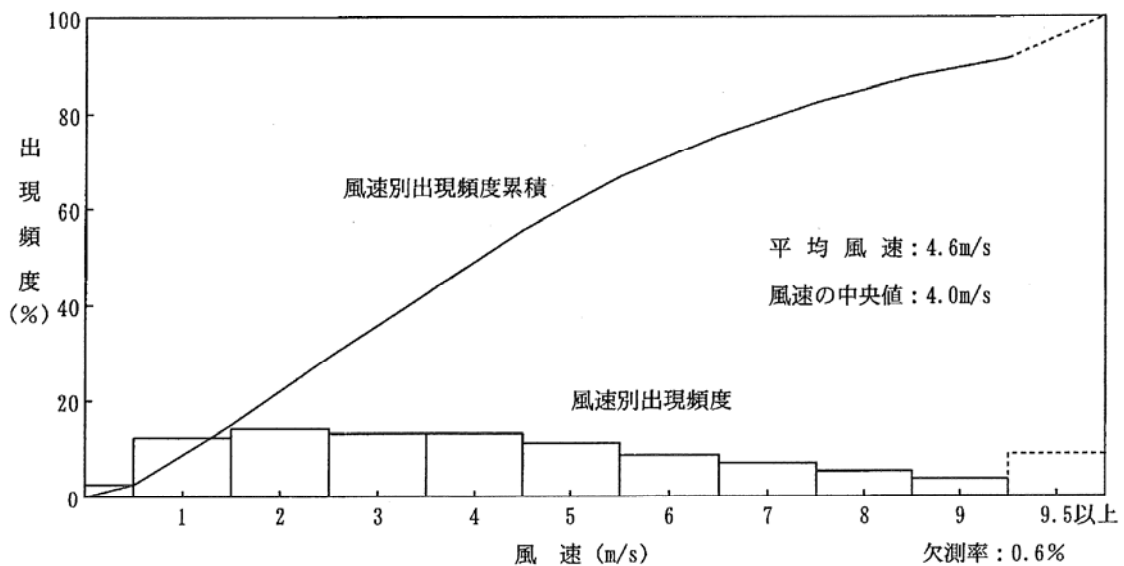
低風速 (0.5~2.0m/s) 時の出現頻度	
観測場所	出現頻度 (%)
標高約 20 m	29.0
標高約 80 m	20.6

第2.4.6図 低風速 (0.5~2.0m/s) 時の風配図



注) 風向, 風速及び大気安定度のいずれかの気象要素が欠測の場合には, 当該時刻の気象資料は欠測扱いとして欠測率を求めている。

第2.4.7図 年間風速出現頻度及び風速別出現頻度累積
(標高約20m, 地上高約10m)



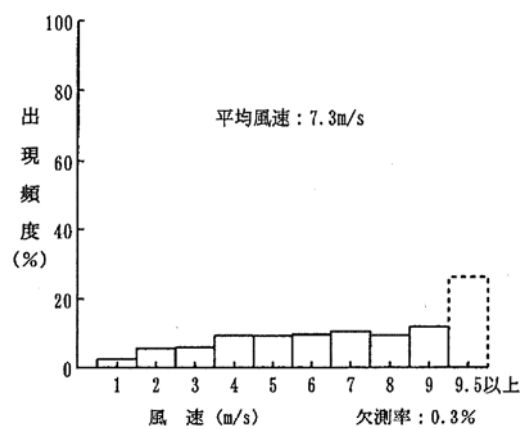
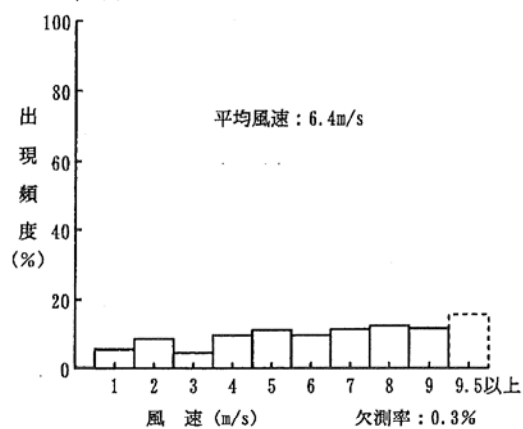
注) 風向, 風速及び大気安定度のいずれかの気象要素が欠測の場合には, 当該時刻の気象資料は欠測扱いとして欠測率を求めている。

第2.4.8図 年間風速出現頻度及び風速別出現頻度累積
(標高約80m, 地上高約70m)

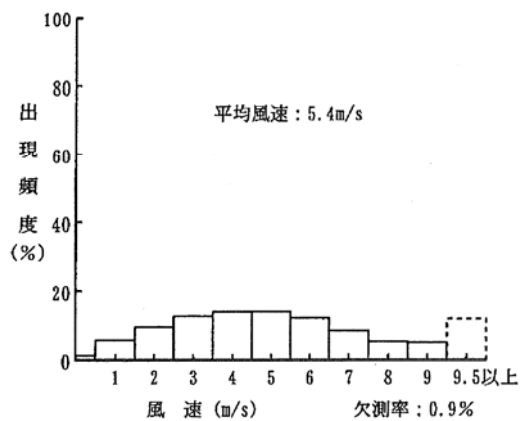
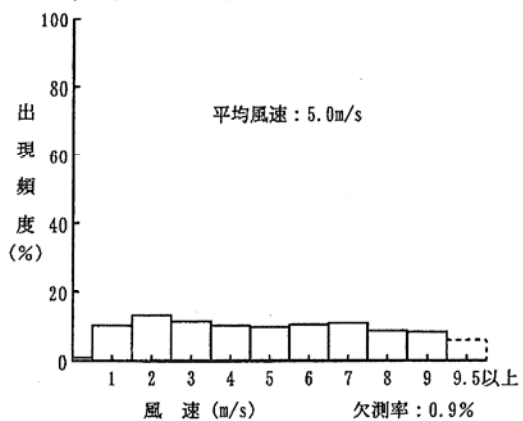
標高約 20 m
(地上高約 10 m)

標高約 80 m
(地上高約 70 m)

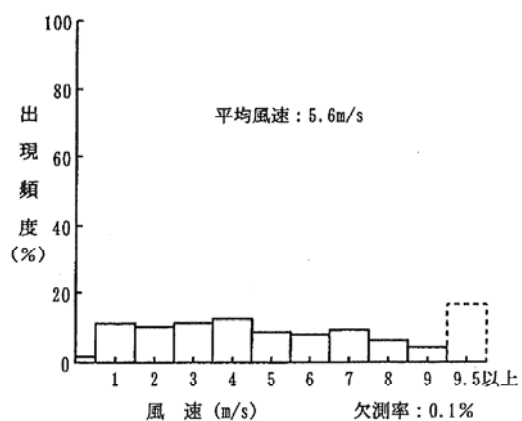
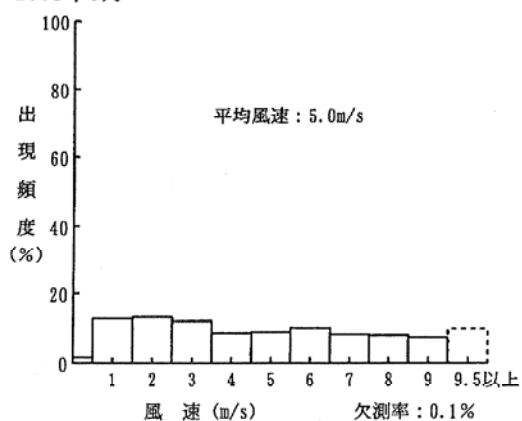
2001年1月



2001年2月



2001年3月



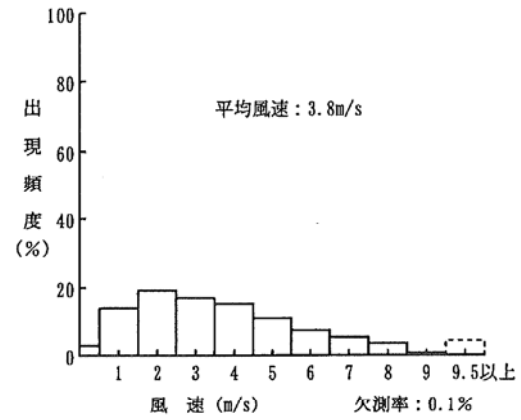
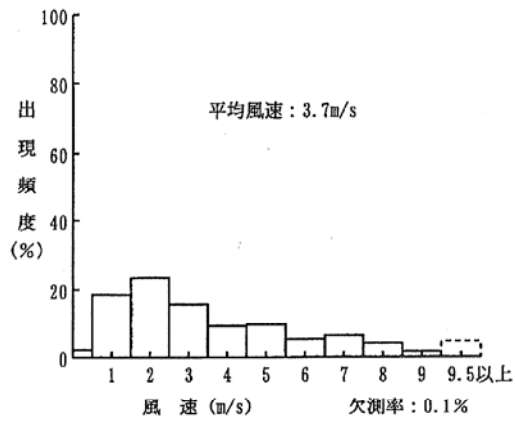
注) 風向、風速及び大気安定度のいずれかの気象要素が欠測の場合には、当該時刻の気象資料は欠測扱いとして欠測率を求めている。

第2.4.9図 月別風速別出現頻度 (その1) (2001年1月～3月)

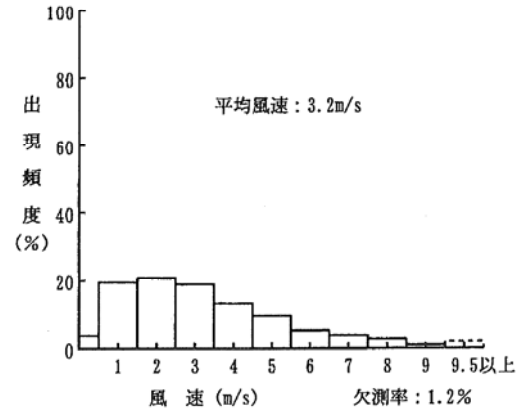
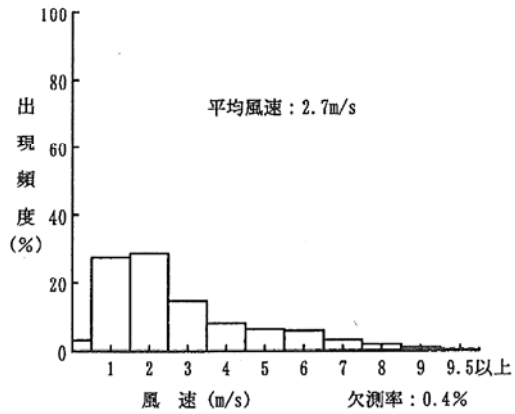
標高約 20 m
(地上高約 10 m)

標高約 80 m
(地上高約 70 m)

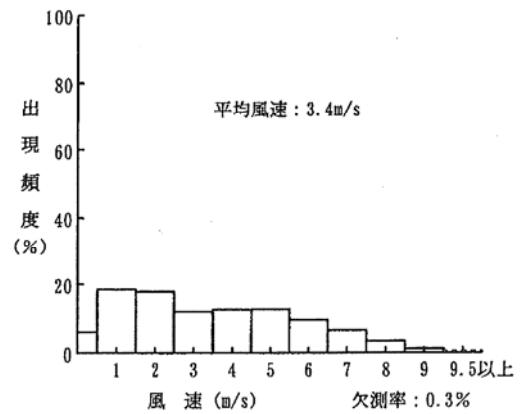
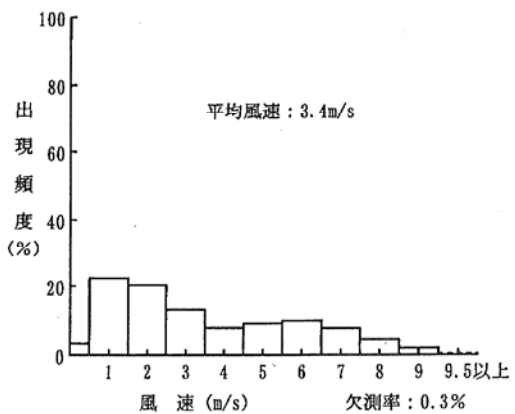
2001年4月



2001年5月



2001年6月



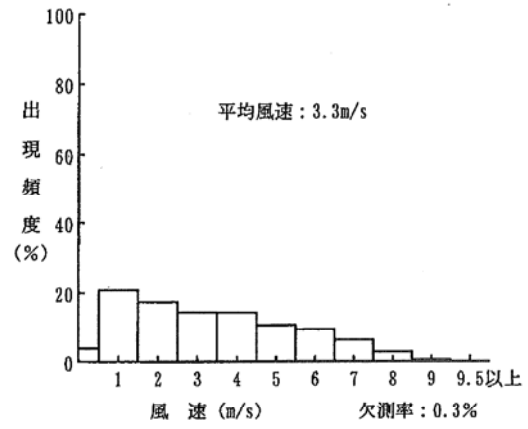
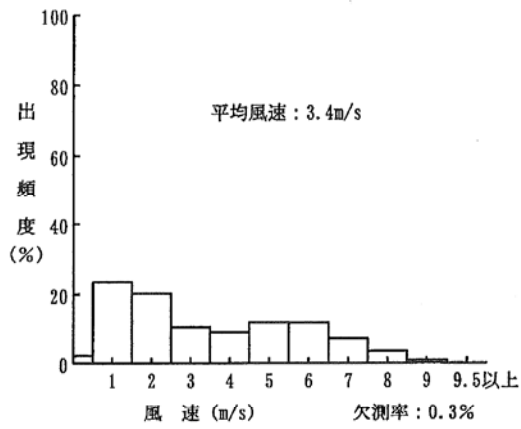
注) 風向、風速及び大気安定度のいずれかの気象要素が欠測の場合には、当該時刻の気象資料は欠測扱いとして欠測率を求めている。

第2.4.10図 月別風速別出現頻度 (その2) (2001年4月～6月)

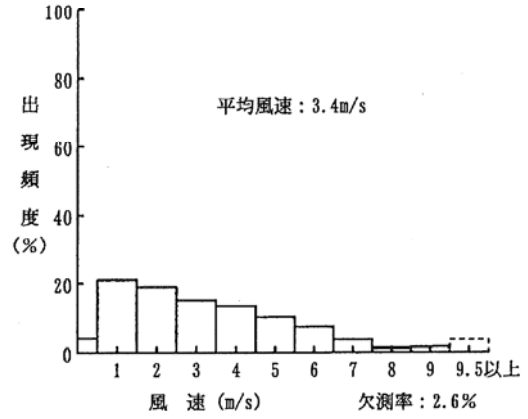
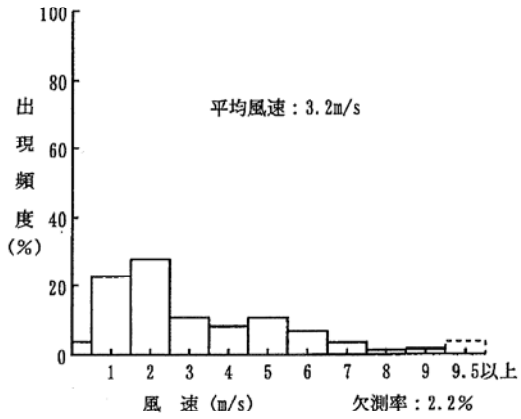
標高約 20 m
(地上高約 10 m)

標高約 80 m
(地上高約 70 m)

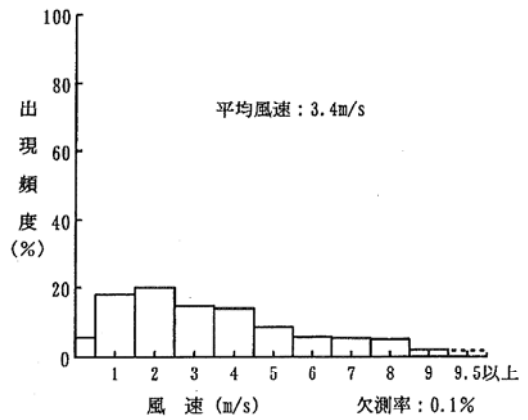
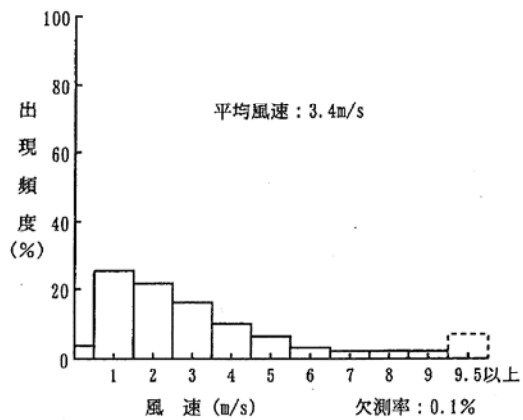
2001年7月



2001年8月



2001年9月



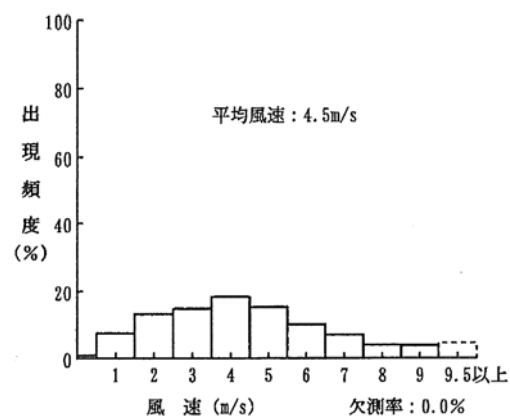
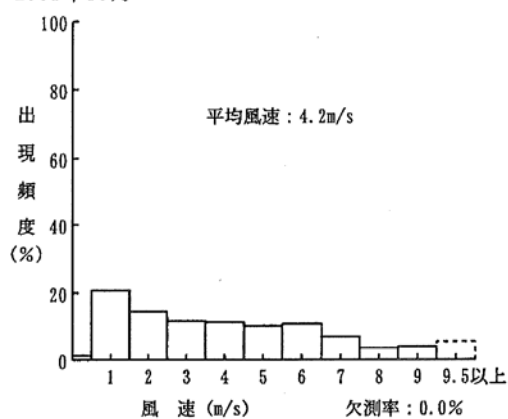
注) 風向, 風速及び大気安定度のいずれかの気象要素が欠測の場合には, 当該時刻の気象資料は欠測扱いとして欠測率を求めている。

第2.4.11図 月別風速別出現頻度 (その3) (2001年7月～9月)

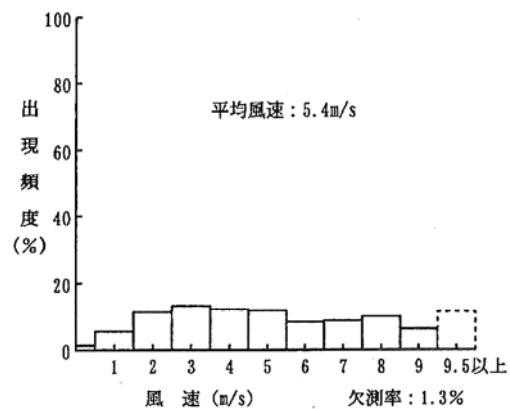
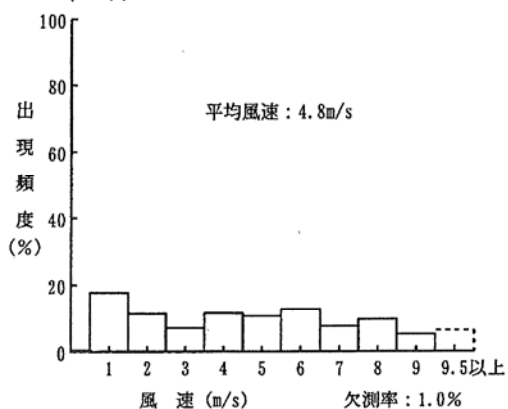
標高約 20 m
(地上高約 10 m)

標高約 80 m
(地上高約 70 m)

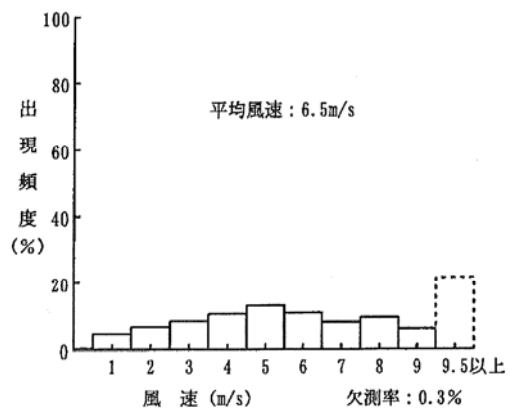
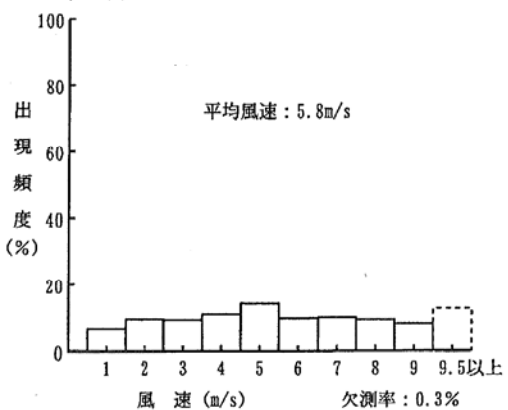
2001年10月



2001年11月

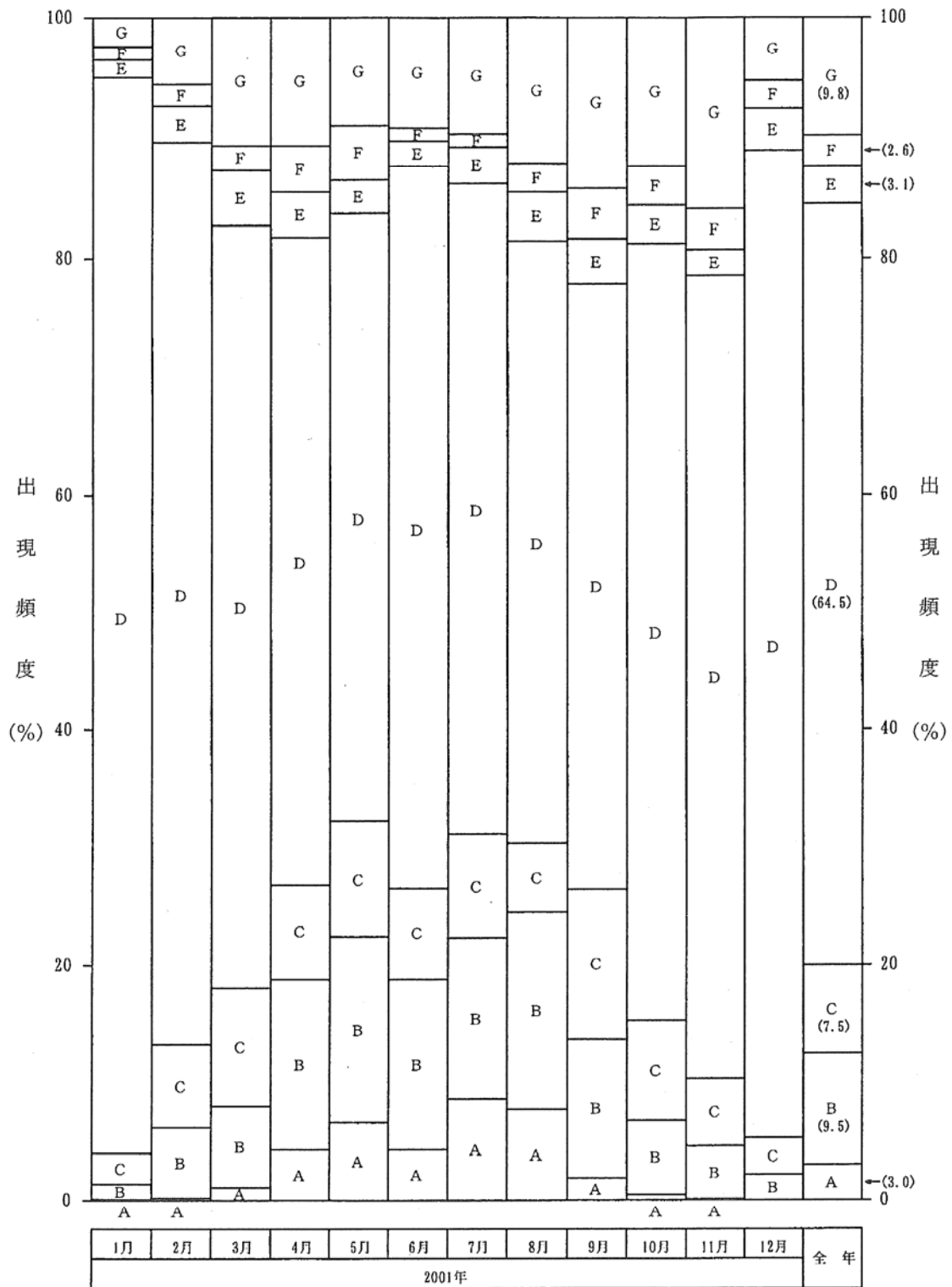


2001年12月

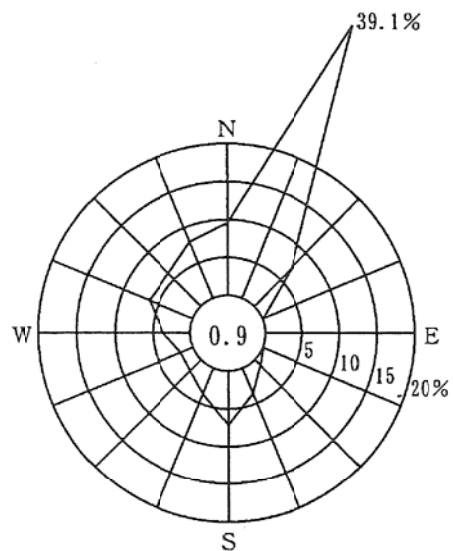


注) 風向、風速及び大気安定度のいずれかの気象要素が欠測の場合には、当該時刻の気象資料は欠測扱いとして欠測率を求めている。

第2.4.12図 月別風速別出現頻度 (その4) (2001年10月~12月)

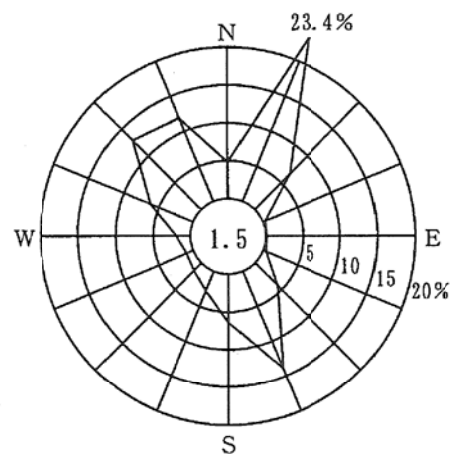


第2.4.13図 年間及び月別大気安定度出現頻度



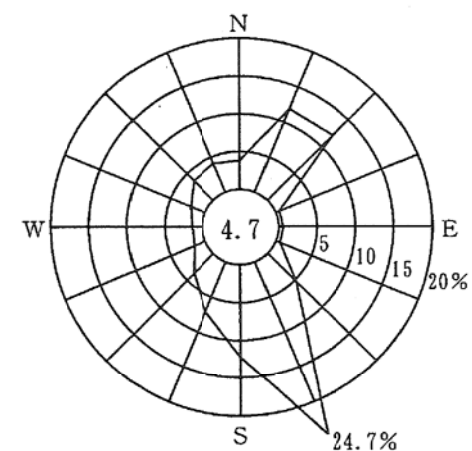
安定度A、B、C型

(出現頻度 20.0%)



安定度D型

(出現頻度 64.5%)



安定度E、F、G型

(出現頻度 15.5%)

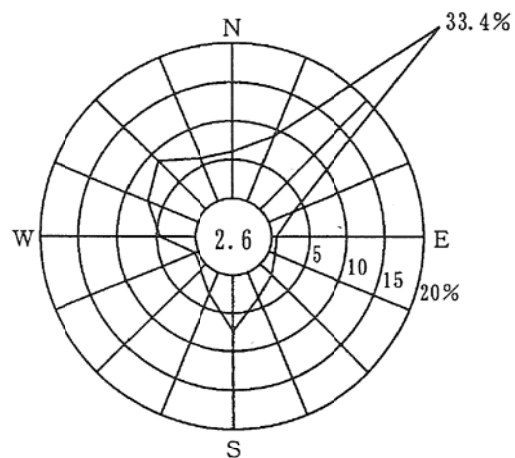
注) 1. 欠測率: 0.5%

2. 小円内の数字は静穏の頻度(%)

3. 正時前10分間の最多風向を正時の風向として統計整理している。

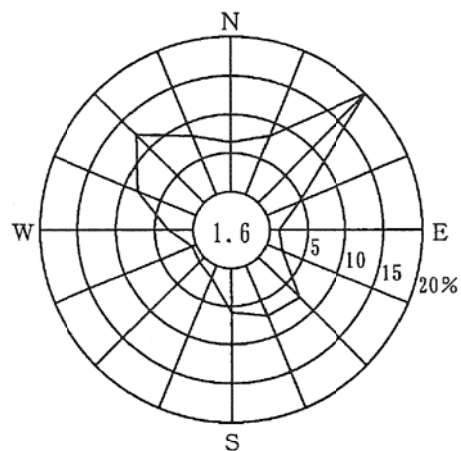
4. 風向、風速及び大気安定度のいずれかの気象要素が欠測の場合には、当該時刻の気象資料は欠測扱いとして欠測率を求めている。

第2.4.14図 年間大気安定度別風配図(標高約20m, 地上高約10m)



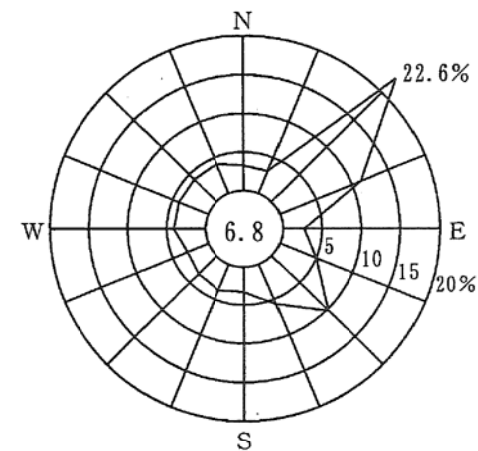
安定度A、B、C型

(出現頻度 19.9%)



安定度D型

(出現頻度 64.5%)



安定度E、F、G型

(出現頻度 15.5%)

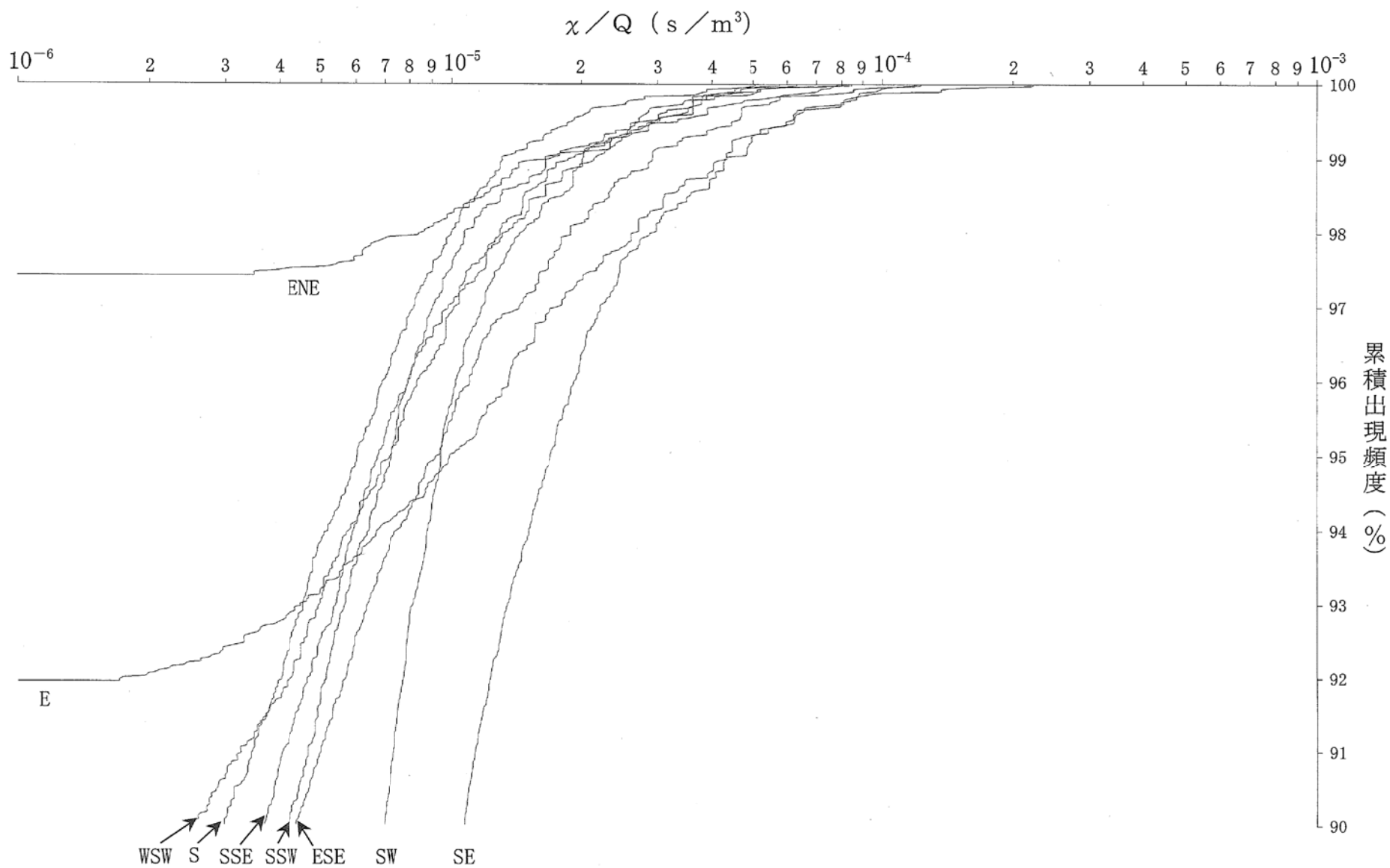
注) 1. 欠測率: 0.6%

2. 小円内の数字は静穏の頻度(%)

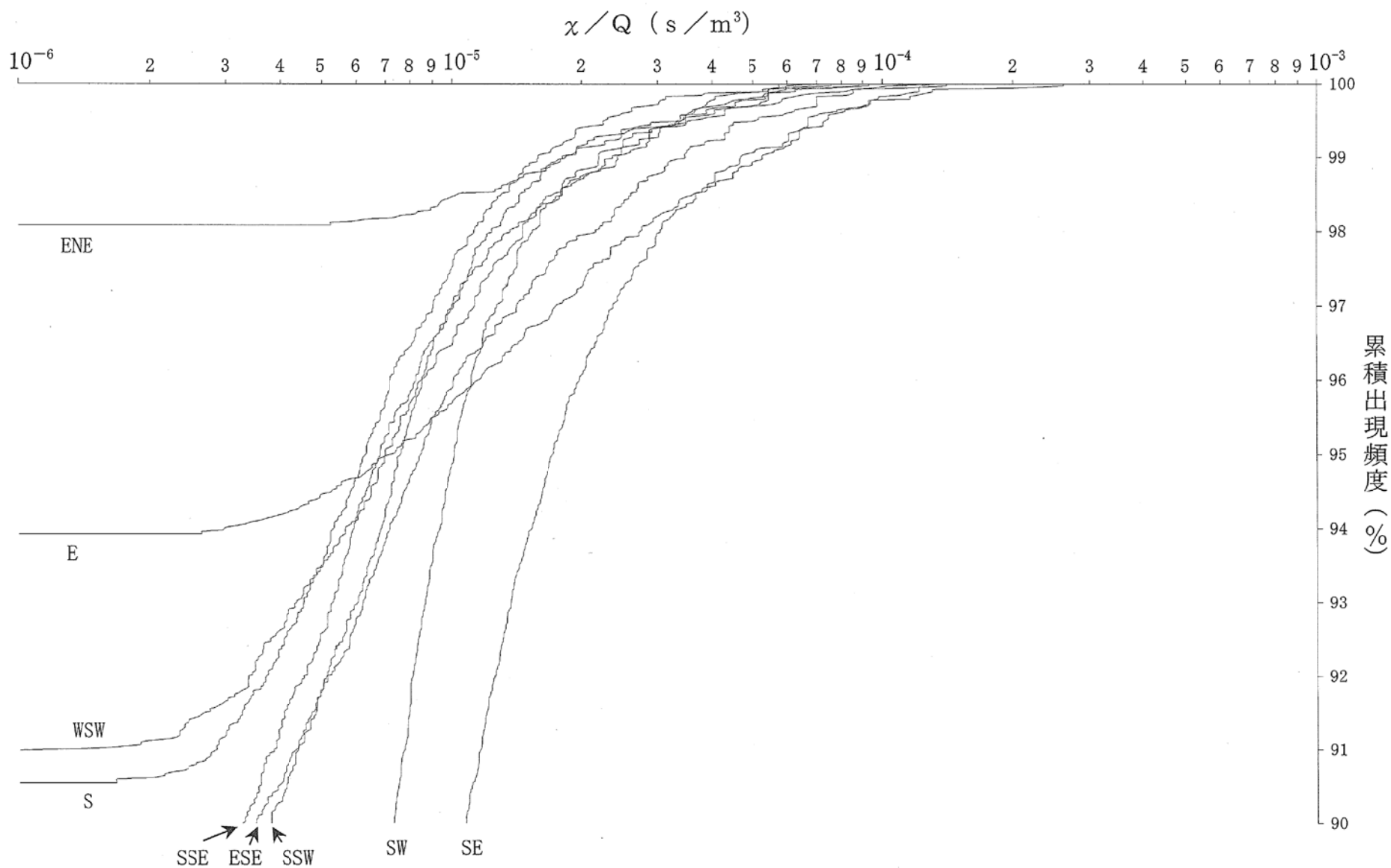
3. 正時前10分間の最多風向を正時の風向として統計整理している。

4. 風向、風速及び大気安定度のいずれかの気象要素が欠測の場合には、当該時刻の気象資料は欠測扱いとして欠測率を求めている。

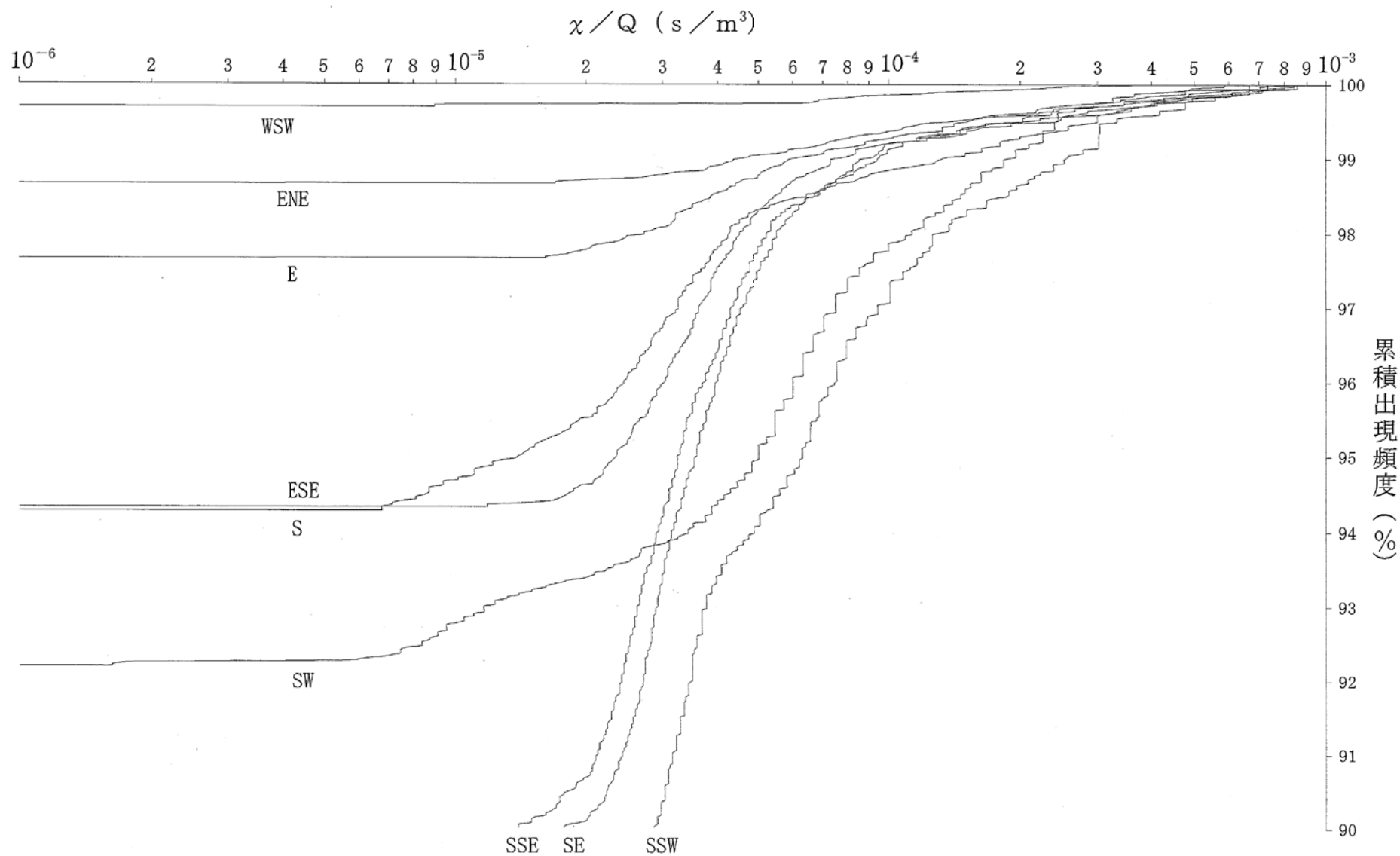
第2.4.15図 年間大気安定度別風配図 (標高約80m, 地上高約70m)



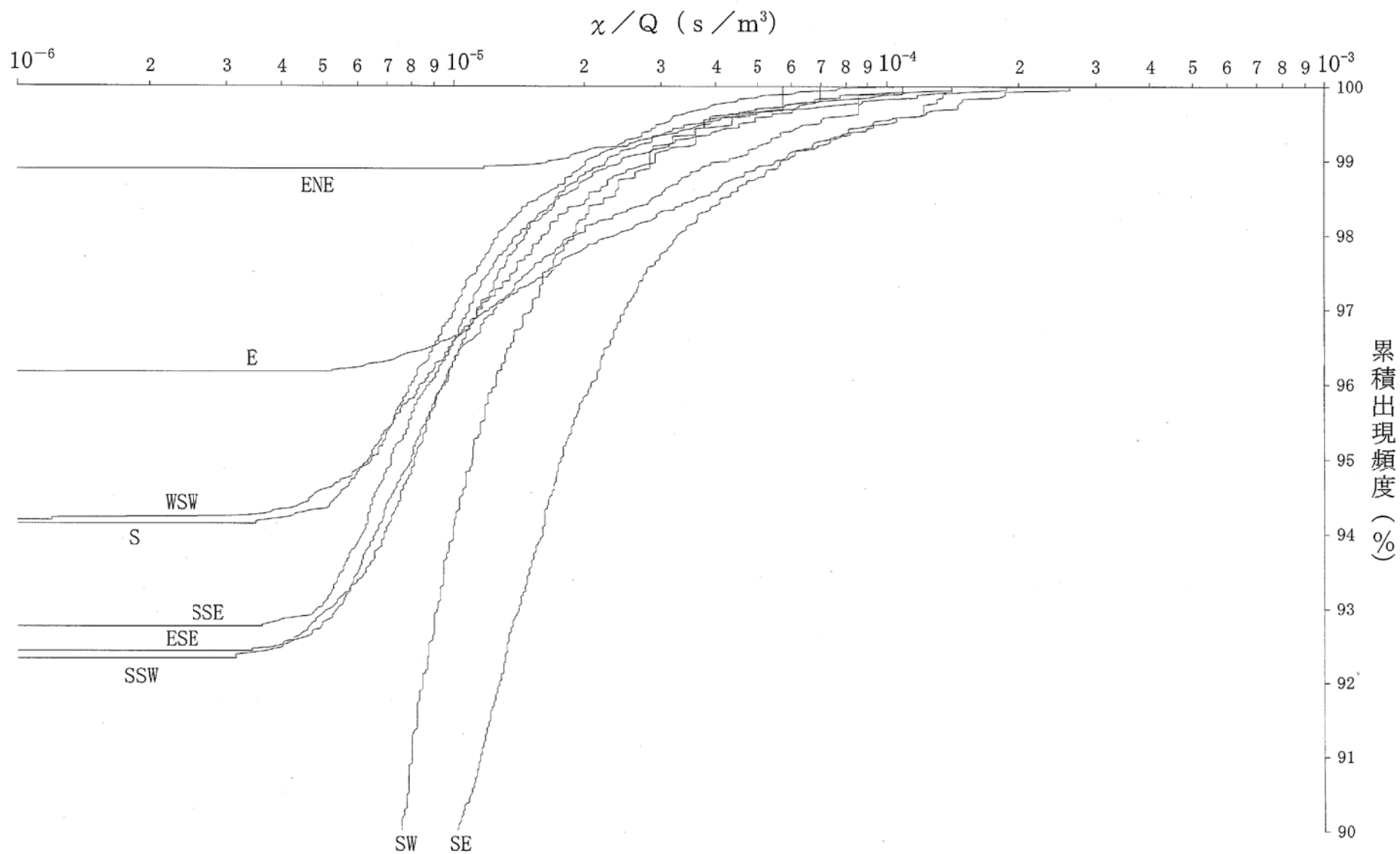
第 2.5.1 図 方位別相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度
[原子炉冷却材喪失 (事故時)]



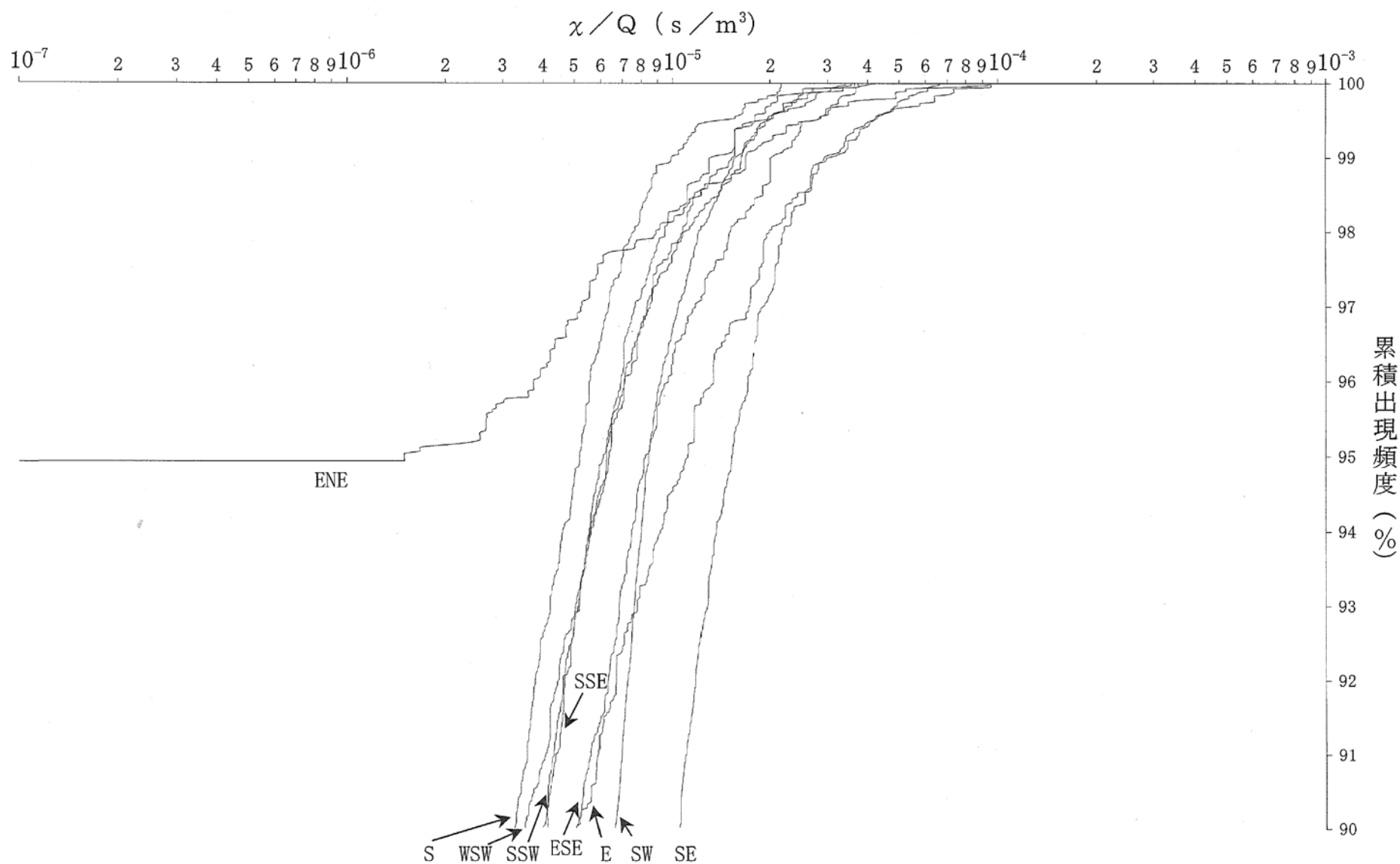
第 2.5.2 図 方位別相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度
[制御棒飛び出し]



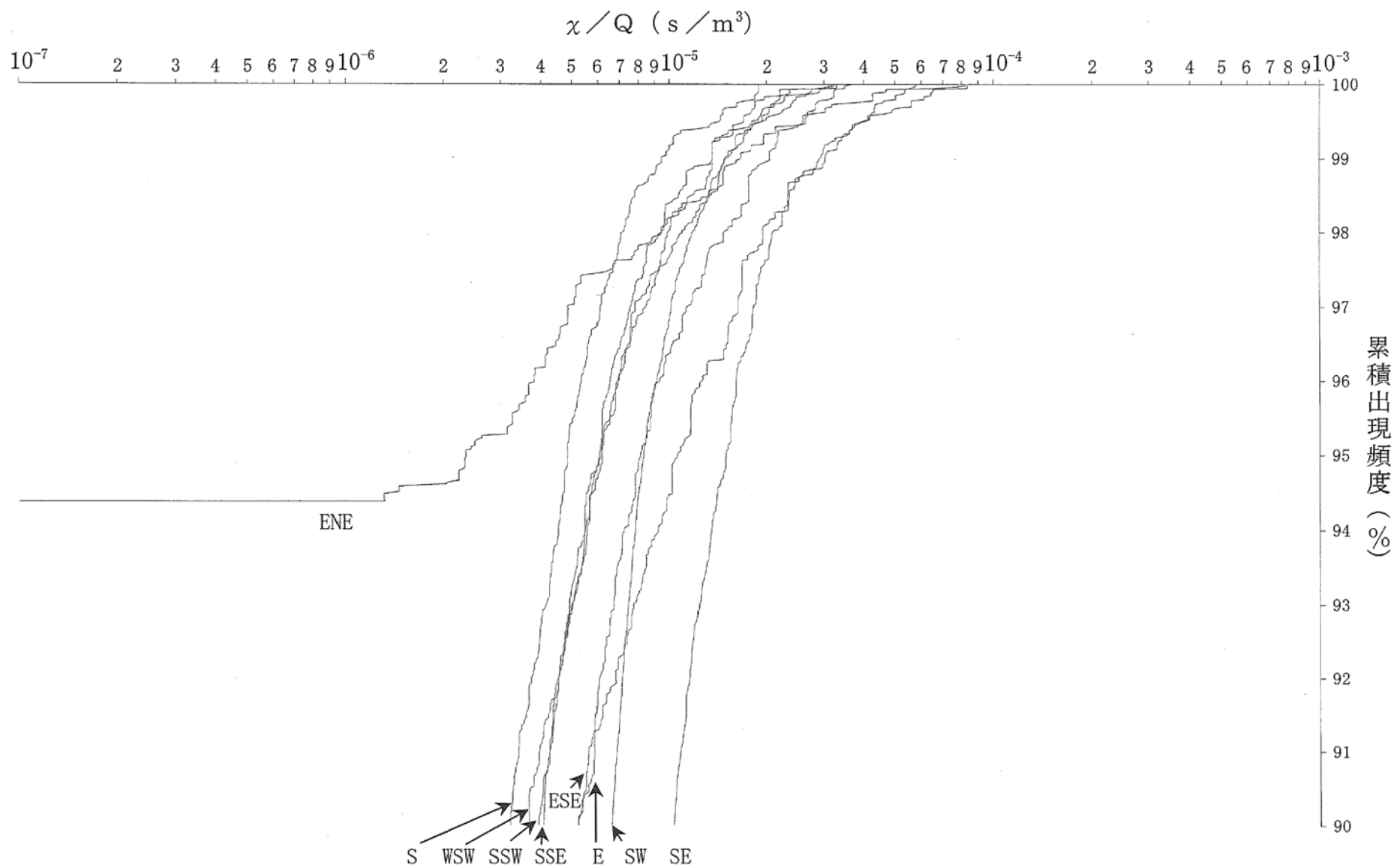
第 2.5.3 図 方位別相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度
 [蒸気発生器伝熱管破損
 (事故時並びに重大事故及び仮想事故時)]



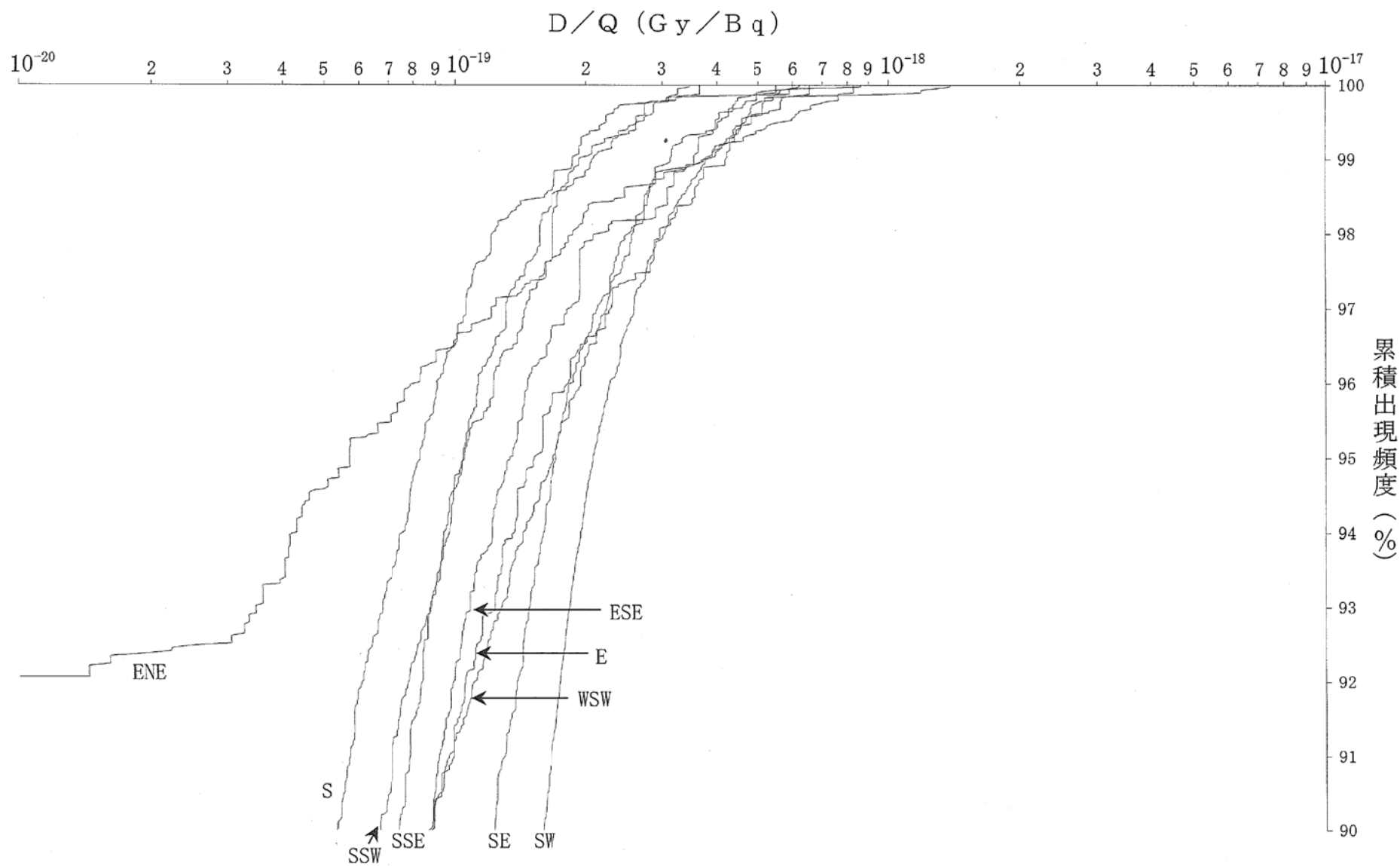
第 2.5.4 図 方位別相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度
[燃料集合体の落下]



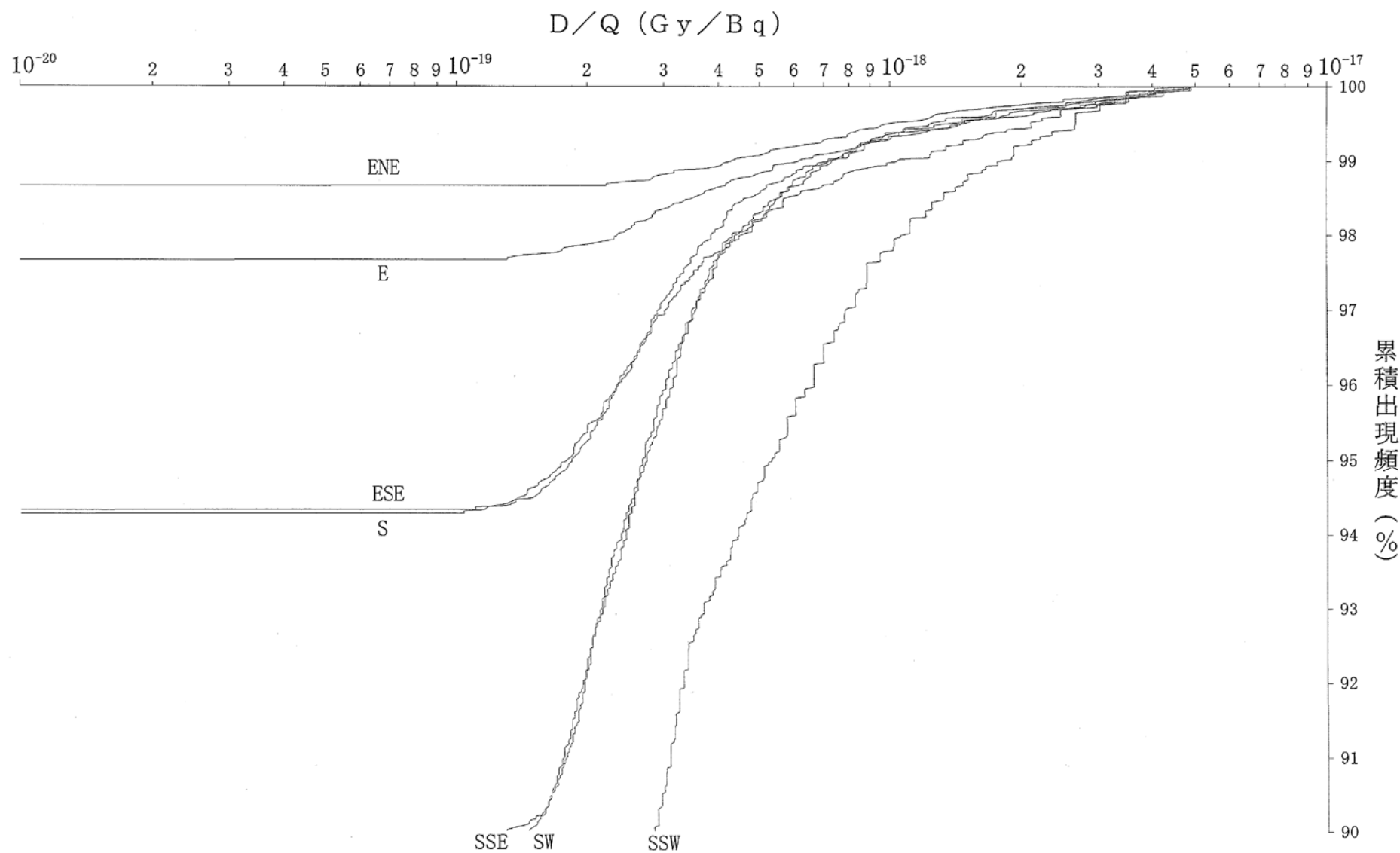
第 2.5.5 図 方位別相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度
[原子炉冷却材喪失 (重大事故時)]



第 2.5.6 図 方位別相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度
[原子炉冷却材喪失 (仮想事故時)]

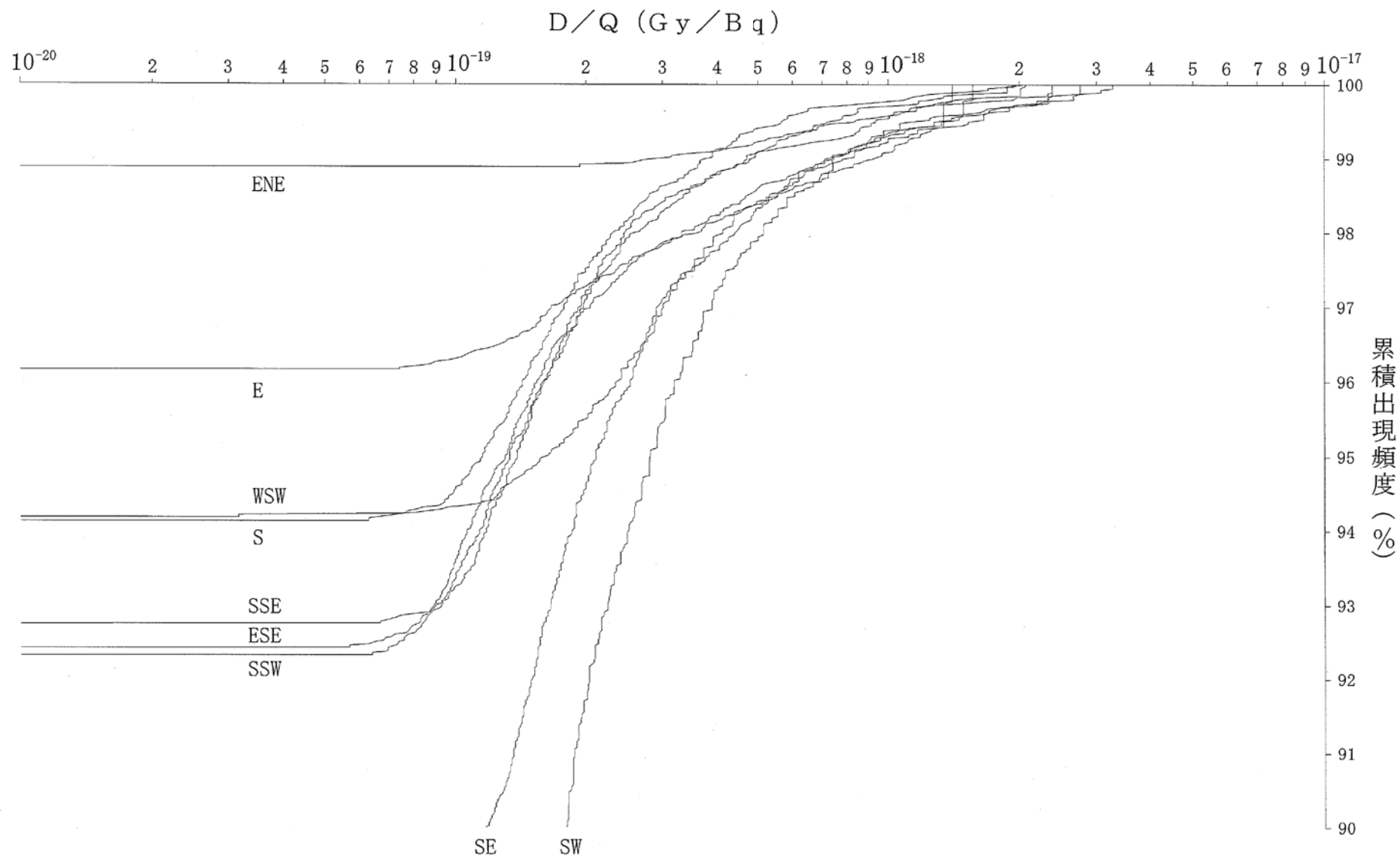


第 2.5.7 図 方位別相対線量 (D/Q) の累積出現頻度
[原子炉冷却材喪失 (事故時)]

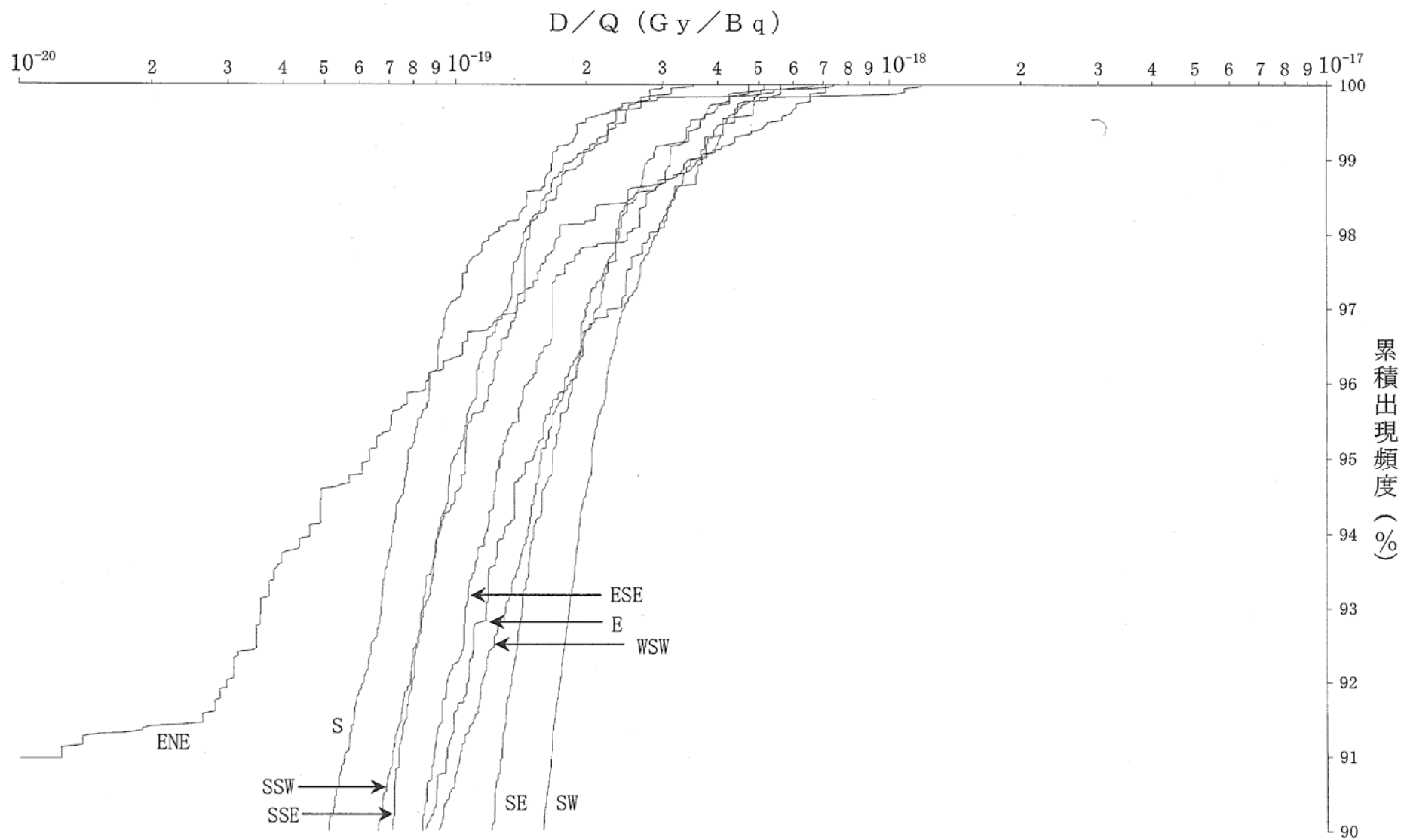


第 2.5.8 図 方位別相対線量 (D/Q) の累積出現頻度

〔放射性気体廃棄物処理施設の破損
蒸気発生器伝熱管破損
(事故時並びに重大事故及び仮想事故時)〕

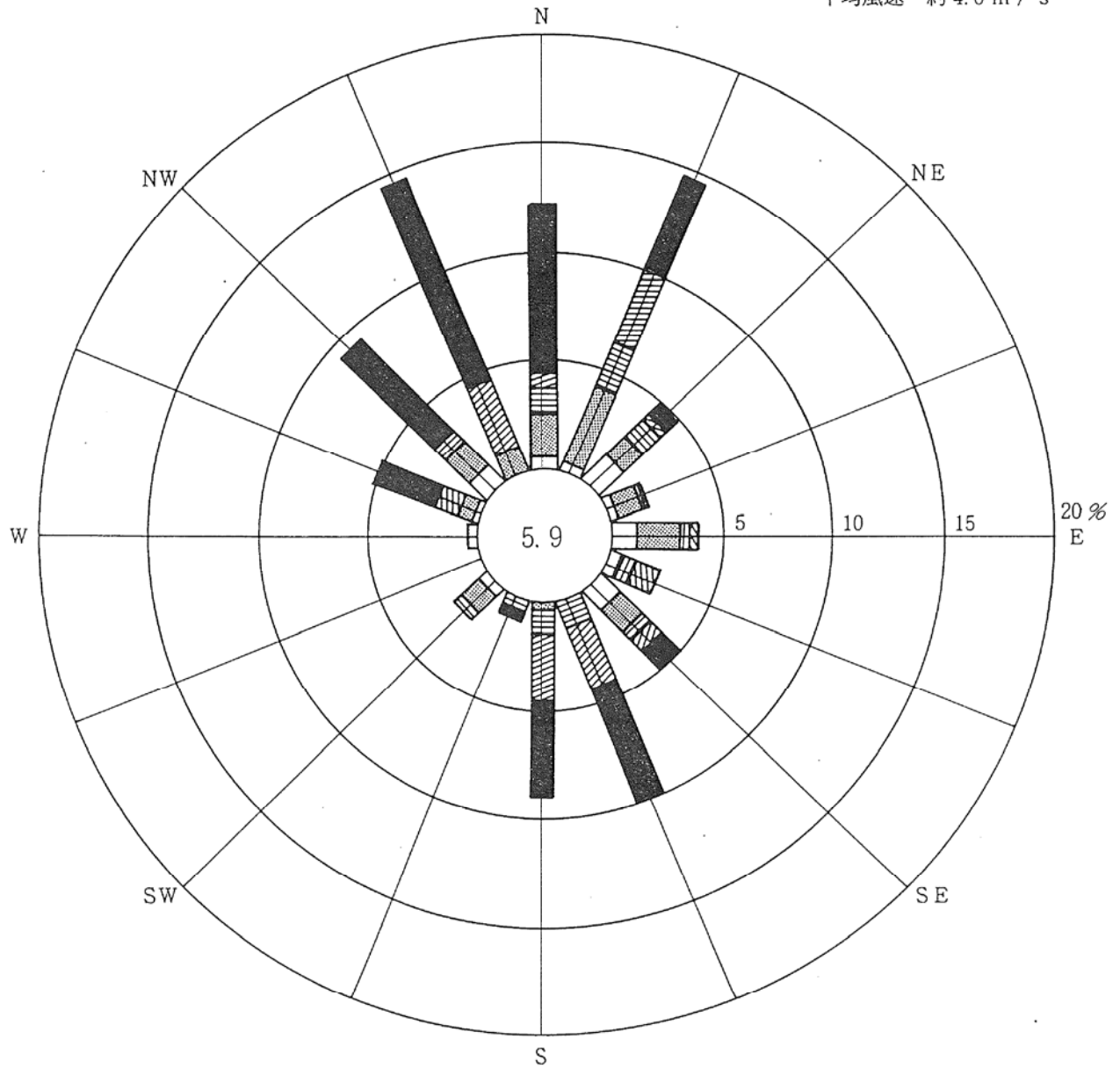


第 2.5.9 図 方位別相対線量 (D/Q) の累積出現頻度
[燃料集合体の落下]



第 2.5.10 図 方位別相対線量 (D/Q) の累積出現頻度
 (原子炉冷却材喪失 (重大事故及び仮想事故時)
 制御棒飛び出し)

観測回数 270 回
 静穏回数 16 回 (約 5.9%)
 平均風速 約 4.6 m / s



小円内：0.5未満, □：0.5～0.9, ■：1.0～1.9, ▨：2.0～2.9, ▩：3.0～4.9, ■：5.0 m / s 以上

第 2. 6. 1 図 上層風の風速階級別風配図 (地上高50m～100m)

(関連頁 6-2-18)

2.7 参考文献

(1) 「日本の気候」

和達清夫，昭和33年9月10日

(2) 「日本気候表」

気象庁，昭和57年2月（その2），昭和57年1月（その3）

(3) 「伊方発電所3号増設に関する排ガス拡散風洞実験」

（財）電力中央研究所，昭和58年9月